

平成25年度 市民意識調査

市民のモラル・マナーについて

平成25年11月

北九州市

は じ め に

北九州市では、市民の意見を今後の市政運営に役立てるため、毎年「市政評価と市政要望」及び「特定テーマ」についての市民意識調査を実施しています。

「特定テーマ」調査では市政の重要事項を取り上げており、本年度は、「市民のモラル・マナーについて」というテーマで調査を行い報告書にまとめました。

市では、迷惑行為の防止に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくため、「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例」を平成20年4月より施行しています。また、同条例に基づき、「北九州市迷惑行為防止基本計画」を策定するなど、モラル・マナーアップを通じて「環境首都にふさわしい、思いやりと優しさにあふれたまち 北九州市」の実現を目指す取り組みを行っています。

今回の調査で寄せられた市民の皆さまからのご意見は、更なるモラル・マナーアップの推進に向けた課題を把握し、今後の施策検討に役立てていきたいと思えます。

アンケート調査にご協力くださいました皆さま方に、厚くお礼申し上げます。

平成25年 11月

北九州市長 北 橋 健 治

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査の設計	1
3	調査の実施	3
4	回収結果	3

II 調査結果

1	回答者の構成	4
2	調査の結果	6
	(1) 以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー	6
	(2) (1)のうち、特に不快または危険と感じるもの	11
	(3) 1年間における自身がした迷惑行為の有無	16
	(3) - 1 自身がした迷惑行為の内容	20
	(3) - 2 自身が迷惑行為をした理由	25
	(4) モラル・マナー向上に効果的な取り組み	32
	(5) 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度	37
	(6) 「迷惑行為防止重点地区」の認知度	41
	(6) - 1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状	45
	(7) 居住地域における迷惑行為防止活動の有無	53
	(8) 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度	57
	(9) 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組み	61
	(10) 居住地域における迷惑行為の状況	65
3	まとめ	69

資 料 編

1	クロス集計表	74
2	調査票	107

市民のモラル・マナーについて

I 調査の概要

1 調査の目的

北九州市では、毎年度、特定テーマについて市民意識調査を実施している。平成 25 年度は「市民のモラル・マナーについて」というテーマで実施した。

本市では、迷惑行為の防止に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくため、「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例（基本条例）」を平成 20 年 4 月より施行している。また、同条例に基づき、「北九州市迷惑行為防止基本計画」を策定するなど、モラル・マナーアップを通じ、環境首都にふさわしい、迷惑行為のない、思いやりと優しさにあふれたまち・北九州市の実現を目指す取り組みを行っている。

そこで今年度は「市民のモラル・マナーについて」をテーマとし、更なるモラル・マナーアップ推進に向けた課題を把握し、今後の市政運営の参考とするために本調査を実施したものである。

2 調査の設計

(1) 調査票

この調査は、郵送調査で実施するため設問をできるだけ整理し、以下 9 分野 13 項目の設問で構成した。

なお、問 1 については、例年実施している「市政評価と市政要望」の設問であり、別途報告書作成を行っている。（調査票：巻末参照）

今年度調査項目

公共の場での市民のモラル・マナーについて	
問 2 (1)	以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー
問 2 (2)	(1) のうち、特に不快または危険と感じるもの
市民自身のモラル・マナーについて	
問 3	1 年間における自身がした迷惑行為の有無
副問 1	自身がした迷惑行為の内容
副問 2	自身が迷惑行為をした理由
モラル・マナー向上に効果的な取り組みについて	
問 4	モラル・マナー向上に効果的な取り組み
「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について	
問 5	「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度
「迷惑行為防止重点地区」の認知度と現状について	
問 6	「迷惑行為防止重点地区」の認知度
副問 1	「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状
居住地域における迷惑行為防止活動の有無について	
問 7	居住地域における迷惑行為防止活動の有無

「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度について	
問 8	「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度
参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みについて	
問 9	参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組み
居住地域における迷惑行為の状況について	
問 10	居住地域における迷惑行為の状況
フェイスシート	性別・年齢・居住歴・職業・居住区

(2) 標本設計

[調査対象者]

市内に居住する 20 歳以上の男女個人 3,000 人

[標本抽出]

標本抽出は、平成 25 年 6 月 3 日現在の住民基本台帳（20 歳以上 809,718 人）をもとに 3,000 人を等間隔抽出した。

行政区別の設定標本数

区 分	居 住 人 口	抽 出 標 本 数	構 成 比
門司区	88,706 人	325 人	10.8 %
小倉北区	153,091	531	17.7
小倉南区	174,593	614	20.5
若松区	70,588	298	9.9
八幡東区	60,873	265	8.8
八幡西区	211,762	793	26.4
戸畑区	50,105	174	5.8
計	809,718	3,000	100.0

(注 1) 居住人口は 20 歳以上人口で抽出リード件数である

(注 2) 構成比の単位未満は四捨五入で表示したため、計と内容の合計は必ずしも一致しない場合がある。

(3) 調査方法

郵送調査法

3 調査の実施

この調査は、北九州市市民文化スポーツ局市民部広聴課が主体となり実施したものである。

(1) 実査

調査開始 平成 25 年 6 月 21 日
督促状発送 平成 25 年 7 月 3 日
回答期限 平成 25 年 7 月 12 日

(2) 集計・分析

集計、分析・コメントは株式会社東京商工リサーチが実施した。
※数値の単位未満は四捨五入を原則としたので、総数と内容の合計は必ずしも一致しない場合がある。

4 回収結果

発送標本数 3,000 票のうち、回収標本総数は 1,398 票であった。このうち有効回収数は、1,395 票で、有効回収率は 46.5%であった。(昨年度は有効回収数 1,400 票、有効回収率は 46.7%)
なお、行政区別の回収状況は、下表のとおりである。

行政区別回収状況

区分	設定標本数	有効回収数	有効回収率
門司区	325 人	152 人	46.8 %
小倉北区	531	213	40.1
小倉南区	614	288	46.9
若松区	298	142	47.7
八幡東区	265	152	57.4
八幡西区	793	365	46.0
戸畑区	174	83	47.7
計	3,000	1,395	46.5

Ⅱ 調査結果

1 回答者の構成

有効回収数 1,395 票の標本は下表のとおりである。

回 答 者 の 構 成

N : 1,395 人

性別	男性	女性	無回答				
	42.0% 586人	57.4% 801人	0.6% 8人				
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
	7.8% 109人	13.1% 183人	13.8% 193人	17.3% 241人	23.3% 325人	24.2% 338人	0.4% 6人
居住歴	1年未満	2年未満	3年未満	5年未満	10年未満	20年未満	30年未満
	1.7% 24人	1.4% 20人	1.2% 17人	3.5% 49人	3.7% 52人	11.5% 160人	13.3% 186人
	30年以上	無回答					
	63.2% 881人	0.4% 6人					
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	10.9% 152人	15.3% 213人	20.6% 288人	10.2% 142人	10.9% 152人	26.2% 365人	5.9% 83人
職業	自営業	自由業	会社員	公務員・教員	農・林・漁業	主婦・主夫 (パートなど)	主婦・主夫 (専業)
	5.3% 74人	1.1% 15人	28.0% 390人	3.8% 53人	0.4% 5人	12.8% 179人	18.9% 264人
	学生	無職	その他	無回答			
	1.7% 24人	22.1% 308人	5.3% 74人	0.6% 9人			

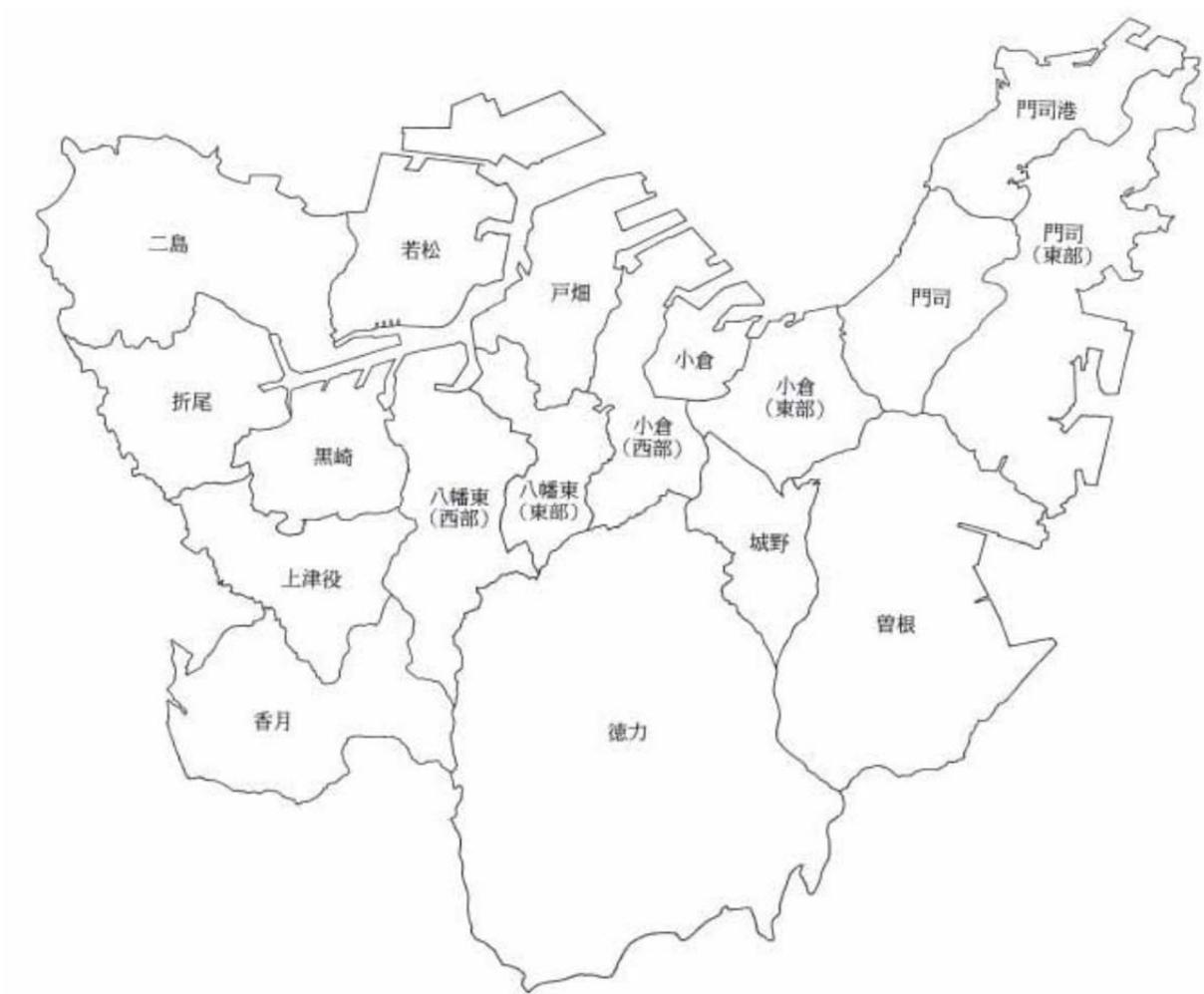
なお、調査実施時期間近である平成 25 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳による 20 歳以上の北九州市民の性別、年齢、住居区の属性別構成は下表に示すとおりである。

これを、今年度調査の有効回収の標本構成と比較すると、性別では調査サンプルの男性が実態より 4.5 ポイント低い結果となっている。年齢別では、例年の傾向であるが、有効回答率の低さを反映してか 20 歳代で調査サンプルが住民基本台帳の実態ベースより 4.7 ポイント低く、逆に 60 歳代では調査サンプルのウエイトが 5.0 ポイント高いのが目立っている。なお、行政区別では概ね両者間に大きな差はみられない。調査結果の解釈にあたっては、主にこの 3 点に関するウエイトの構成差異に留意されたい。

平成 25 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳による人口構成 (20 歳以上)

性別	男	女					
	46.5%	53.5%					
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
	12.5%	15.4%	15.6%	14.6%	18.3%	23.6%	
居住区	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区
	11.0%	18.9%	21.6%	8.7%	7.5%	26.2%	6.2%

また、調査結果をより細かく把握するため、行政区による居住区を以下に示す 18 地区に分割した集計も行っている。



2 調査の結果

(1) 以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー

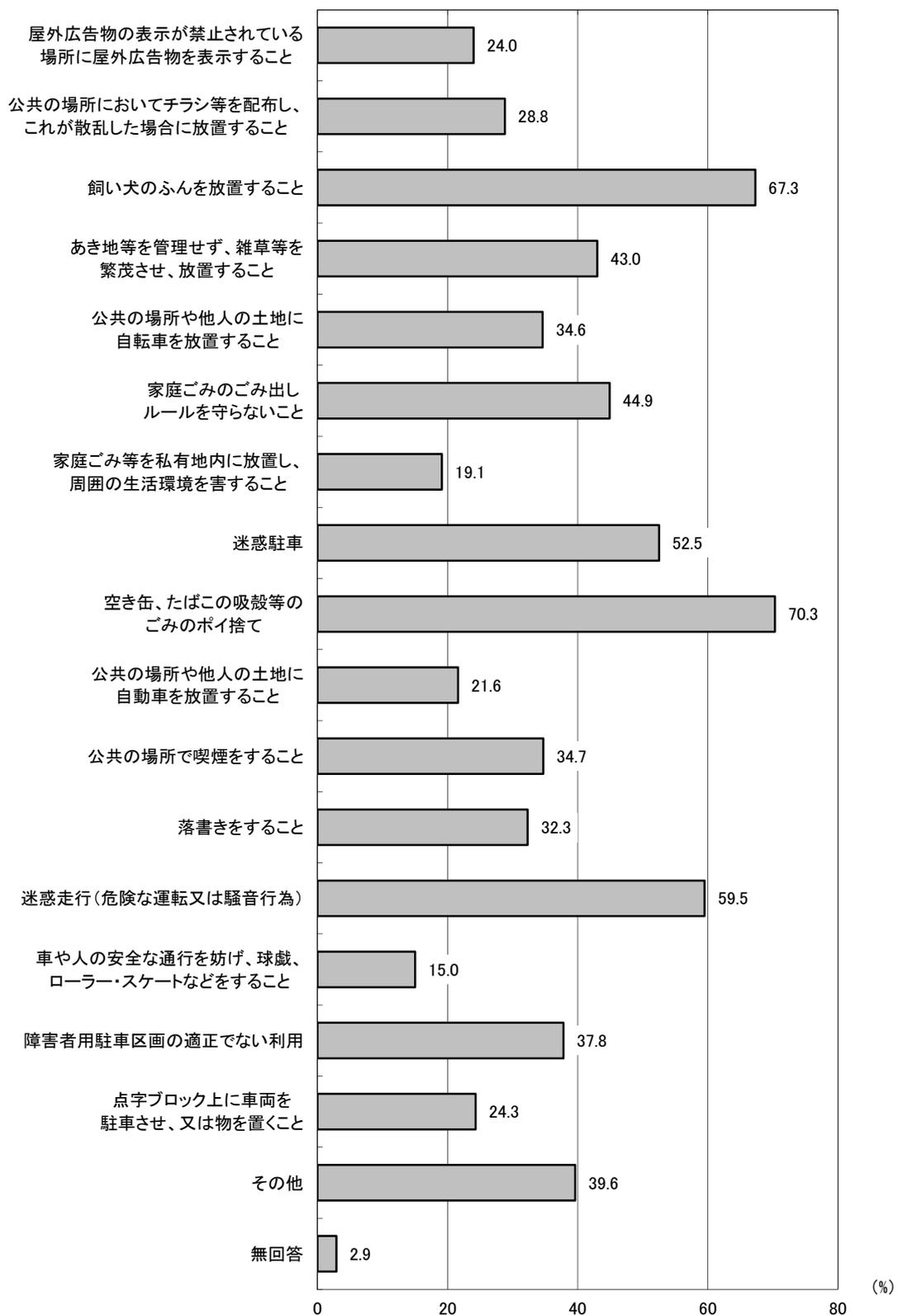
問2 公共の場でのモラル・マナーについておたずねします。

- (1) あなたは、以前と比べ、**市民のモラルやマナーが低下している**と感じるのはどんなことですか。次の中からいくつでも選んでください。

N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	335	24.0
2 公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	402	28.8
3 飼い犬のふんを放置すること	939	67.3
4 あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	600	43.0
5 公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること	482	34.6
6 家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	626	44.9
7 家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること	266	19.1
8 迷惑駐車	733	52.5
9 空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	981	70.3
10 公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること	301	21.6
11 公共の場所で喫煙をすること	484	34.7
12 落書きをすること	450	32.3
13 迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）	830	59.5
14 車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	209	15.0
15 障害者用駐車区画の適正でない利用	527	37.8
16 点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	339	24.3
17 その他	552	39.6
無回答	41	2.9

- ◇ 公共の場で、以前に比べ市民のモラルやマナーが低下していると感じることは、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が約7割で最多。



問2(1) 以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー

		サンプル数	外 屋 外 告 告 物 の 表 示 が 禁 止 さ れ て い る 場 所 に 屋	公 共 の 場 所 に お い て テ ラ シ 等 を 配 布 し 、 こ れ が 散 乱 し た 場 合 に 放 置 す る こ と	飼 い 犬 の ふ ん を 放 置 す る こ と	あ き 地 等 を 管 理 せ ず 、 雑 草 等 を 繁 茂 さ せ 、 放 置 す る こ と	公 共 の 場 所 や 他 人 の 土 地 に 自 転 車 を 放 置 す る こ と	家 庭 ご み の ご み 出 し ル ー ル を 守 ら な い こ と	家 庭 ご み 等 を 私 有 地 内 に 放 置 し 、 周 圍 の 生 活 環 境 を 害 す る こ と	迷 惑 駐 車	空 き 缶 、 た ば こ の 吸 殻 等 の ご み の ポ イ 捨 て	公 共 の 場 所 や 他 人 の 土 地 に 自 動 車 を 放 置 す る こ と	公 共 の 場 所 で 喫 煙 を す る こ と	落 書 き を す る こ と	迷 惑 走 行 (危 険 な 運 転 又 は 騒 音 行 為)	車 や 人 の 安 全 な 通 行 を 妨 げ 、 球 戯 、 ロー ラー ・ スケ ート な ど を す る こ と	障 害 者 用 駐 車 区 画 の 適 正 で な い 利 用	置 く こ と	点 字 ブ ロ ッ ク 上 に 車 兩 を 駐 車 さ せ 、 又 は 物 を	そ の 他	無 回 答		
全体		1,395	24.0	28.8	67.3	43.0	34.6	44.9	19.1	52.5	70.3	21.6	34.7	32.3	59.5	15.0	37.8	24.3	39.6	2.9			
性別	男性	586	27.8	27.8	63.5	41.0	36.9	45.6	16.0	56.5	70.8	21.3	33.4	35.8	58.7	13.7	37.7	22.9	39.9	2.7			
	女性	801	21.0	29.3	70.2	44.2	32.8	44.3	21.1	49.7	69.9	21.7	35.2	29.2	60.2	15.7	38.1	25.1	39.3	3.0			
年齢別	20歳代	109	21.1	37.6	61.5	40.4	38.5	45.9	22.9	56.9	71.6	27.5	49.5	34.9	70.6	21.1	41.3	24.8	33.0	1.8			
	30歳代	183	20.2	24.6	48.1	41.5	31.1	39.3	15.8	52.5	62.3	18.0	39.3	35.5	60.1	16.4	44.3	16.4	36.1	2.2			
	40歳代	193	22.8	23.8	59.6	45.6	27.5	37.8	18.7	47.7	66.8	20.2	40.9	32.1	59.6	11.9	39.9	25.4	34.7	1.0			
	50歳代	241	20.3	31.1	66.8	37.3	36.5	49.4	19.9	62.7	75.9	21.2	34.0	26.1	57.3	13.7	42.7	29.5	46.1	1.7			
	60歳代	325	29.2	29.2	77.2	41.8	35.1	48.9	17.8	54.8	72.6	20.0	30.2	36.0	60.9	14.2	40.3	27.1	43.1	1.5			
	70歳以上	338	25.1	28.7	74.9	47.9	37.3	44.4	20.1	44.7	69.5	24.0	28.1	29.9	55.9	15.1	26.3	21.0	38.5	7.1			
	70歳未満	24	16.7	45.8	29.2	33.3	33.3	37.5	16.7	41.7	45.8	20.8	62.5	25.0	66.7	20.8	45.8	25.0	20.8	8.3			
居住年数別	2年未満	20	20.0	30.0	55.0	40.0	20.0	30.0	15.0	25.0	70.0	15.0	35.0	40.0	65.0	10.0	35.0	15.0	30.0	5.0			
	3年未満	17	29.4	41.2	47.1	29.4	29.4	47.1	17.6	47.1	58.8	11.8	29.4	17.6	70.6	17.6	23.5	23.5	41.2	0.0			
	5年未満	49	22.4	26.5	69.4	24.5	38.8	55.1	6.1	57.1	71.4	18.4	44.9	22.4	65.3	10.2	30.6	16.3	42.9	2.0			
	10年未満	52	26.9	28.8	53.8	46.2	30.8	36.5	17.3	51.9	71.2	21.2	38.5	32.7	59.6	19.2	34.6	25.0	17.3	1.9			
	20年未満	160	23.8	22.5	65.0	41.9	33.1	41.9	18.1	51.3	70.0	21.3	32.5	31.9	61.3	15.0	38.8	19.4	43.1	2.5			
	30年未満	186	22.6	35.5	67.7	39.2	39.2	52.7	24.7	64.0	69.4	30.6	41.4	34.4	61.8	16.1	46.2	28.5	40.9	1.6			
	30年以上	881	24.4	27.8	70.1	45.3	34.3	44.2	19.0	51.3	71.3	20.2	31.9	32.3	61.8	14.4	36.5	24.6	40.4	3.3			
	その他	74	28.4	32.4	62.2	45.9	37.8	33.8	12.2	48.6	73.0	23.0	35.1	36.5	66.2	21.6	29.7	21.6	33.8	2.7			
職業別	自営業	15	26.7	26.7	53.3	33.3	20.0	33.3	0.0	53.3	60.0	13.3	33.3	13.3	80.0	13.3	53.3	26.7	33.3	6.7			
	自由業	390	24.9	28.5	60.5	41.0	35.9	43.1	18.5	57.2	71.5	20.5	41.0	35.9	59.2	13.3	42.6	24.1	35.4	1.0			
	公務員・教員	53	22.6	26.4	43.4	37.7	32.1	50.9	18.9	52.8	73.6	18.9	32.1	39.6	62.3	11.3	32.1	18.9	45.3	0.0			
	農・林・漁業	5	60.0	0.0	100.0	20.0	20.0	80.0	20.0	40.0	100.0	40.0	40.0	60.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0		
	主婦・主夫(パートなど)	179	20.1	31.8	67.0	44.7	24.6	44.7	20.1	54.7	63.7	21.2	30.7	29.6	61.5	13.4	48.0	29.6	39.7	3.4			
	主婦・主夫(専業)	264	23.9	26.5	76.1	43.9	34.1	45.5	21.2	46.6	71.6	19.7	33.7	31.8	55.7	13.7	39.0	24.2	44.7	3.0			
	学生	24	20.8	33.3	75.0	29.2	50.0	45.8	16.7	50.0	75.0	25.0	50.0	25.0	66.7	16.7	50.0	29.2	45.8	0.0			
	無職	308	24.4	29.5	75.3	45.8	35.7	47.4	18.5	49.4	70.8	21.4	29.5	30.8	59.1	14.9	27.9	22.1	39.0	5.5			
	その他	74	23.0	24.3	60.8	39.2	45.9	47.3	23.0	62.2	66.2	32.4	28.4	18.9	62.2	13.5	32.4	25.7	48.6	2.7			
	居住区別	行政区分	門司区	152	26.3	30.3	65.1	47.4	26.3	34.9	23.0	54.6	73.0	27.0	36.2	34.2	57.2	15.1	34.2	25.7	33.6	5.9	
小倉北区			213	20.2	31.5	67.6	41.8	39.4	55.9	20.2	52.6	71.8	21.1	38.5	30.5	60.1	16.9	35.7	23.5	44.6	1.9		
小倉南区			288	24.0	28.8	67.7	42.4	41.0	45.5	17.4	53.5	70.1	20.1	35.8	34.0	59.4	13.9	37.2	24.0	38.9	2.1		
若松区			142	19.0	24.6	67.6	57.7	34.5	41.5	19.0	56.3	71.8	20.4	28.2	32.4	52.8	15.6	31.7	43.0	4.0	0.7		
八幡東区			152	25.0	29.6	64.5	46.1	28.3	51.3	20.4	50.7	69.1	19.7	36.2	28.3	61.2	19.1	36.2	26.3	37.5	5.3		
八幡西区			365	26.6	27.4	67.7	37.3	29.9	38.6	17.0	48.8	67.1	20.3	33.2	34.8	61.6	13.2	42.2	20.5	39.2	3.0		
戸畑区			83	25.3	31.3	72.3	34.9	47.0	54.2	21.7	59.0	75.9	28.9	33.7	22.9	61.4	13.3	37.3	25.3	39.8	2.4		
居住区別(18地区別)			門司区	門司港地区	49	24.5	24.5	59.2	46.9	22.4	26.5	22.4	53.1	75.5	22.4	30.6	32.7	49.0	14.3	30.6	22.4	32.7	8.2
				門司(大里)地区	74	25.7	37.8	68.9	44.6	31.1	43.2	23.0	60.8	71.6	31.1	43.2	31.1	60.8	17.6	37.8	27.0	32.4	1.4
	門司(東部)地区	29		31.0	20.7	65.5	55.2	20.7	27.6	24.1	41.4	72.4	24.1	27.6	44.8	62.1	10.3	31.0	27.6	37.9	13.8		
	小倉北区	小倉地区	42	14.3	31.0	54.8	31.0	35.7	52.4	4.8	33.3	61.9	16.7	35.7	28.6	47.6	11.9	16.7	23.8	33.3	2.4		
		小倉(東部)地区	92	21.7	30.4	70.7	45.7	43.5	56.5	20.7	54.3	72.8	19.6	41.3	33.7	64.1	14.1	42.4	14.1	44.6	3.3		
		小倉(西部)地区	79	21.5	32.9	70.9	43.0	36.7	57.0	27.8	60.8	75.9	25.3	36.7	27.8	62.0	22.8	38.0	34.2	50.6	0.0		
	小倉南区	城野地区	68	20.6	20.6	63.2	44.1	36.8	44.1	14.7	36.8	64.7	11.8	26.5	27.9	58.8	14.7	38.2	25.0	41.2	2.9		
		管根地区	129	23.3	27.9	73.6	43.4	42.6	44.2	20.9	62.8	76.0	22.5	41.1	38.8	66.7	15.5	38.8	27.9	38.8	0.8		
	若松区	徳力地区	91	27.5	36.3	62.6	39.6	41.8	48.4	14.3	52.7	65.9	23.1	35.2	31.9	49.5	11.0	34.1	17.6	37.4	3.3		
		若松地区	63	17.5	27.0	63.5	69.8	30.2	47.6	23.8	57.1	76.2	22.2	31.7	31.7	46.0	20.6	41.3	39.7	47.6	0.0		
	八幡東区	二島地区	79	20.3	22.8	70.9	48.1	38.0	36.7	15.2	55.7	68.4	19.0	25.3	32.9	58.2	11.4	32.9	25.3	39.2	1.3		
		八幡東(東部)地区	84	27.4	27.4	60.7	46.4	36.9	52.4	20.2	52.4	65.5	20.2	36.9	26.2	66.7	25.0	35.7	23.8	35.7	8.3		
	八幡西区	八幡東(西部)地区	68	22.1	32.4	69.1	45.6	17.6	50.0	20.6	48.5	73.5	19.1	35.3	30.9	54.4	11.8	36.8	29.4	39.7	1.5		
		黒崎地区	95	13.7	25.3	64.2	31.6	23.2	31.6	12.6	50.5	68.4	17.9	42.1	34.7	60.0	14.7	44.2	14.7	43.2	3.2		
		折尾地区	127	29.9	27.6	69.3	37.0	37.0	42.5	16.5	46.5	66.1	22.8	26.0	33.1	62.2	11.8	37.0	23.6	45.7	2.4		
		上津役地区	85	32.9	32.9	68.2	42.4	30.6	47.1	23.5	60.0	70.6	23.5	34.1	38.8	70.6	17.6	47.1	24.7	34.1	3.5		
	戸畑区	戸畑地区	83	31.0	22.4	69.0	39.7	24.1	29.3	15.5	34.5	62.1	13.8	32.8	32.8	50.6	6.9	43.1	17.2	25.9	3.4		

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー

【全体的傾向】

公共の場で、以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナーについて、尋ねてみた。結果は、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(70.3%)が最も多く、約7割となった。次いで「飼い犬のふんを放置すること」(67.3%)、「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」(59.5%)、「迷惑駐車」(52.5%)の順で続き、これらは5割を上回った。

なお、「その他」(552人)で挙げられたモラル・マナー違反のうち、多いものから以下に掲載する(注:カッコ内は人数。1人が複数のモラル・マナー違反を挙げている場合がある)。

- 携帯電話などを操作しながら歩行・運転する(174人)
- 自動車を運転中に窓からゴミを捨てる(78人)
- 横断歩道を渡らずに道路を横断する(77人)
- ネコへの餌やり(52人)
- 自転車の危険運転(49人)
- 野生鳥類(ハト、スズメ、カラス等)への餌やりなど(42人)
- 自転車のマナー違反(横並び運転や無灯火)(24人)
- 自転車の歩道走行(18人)
- 自動車のマナー違反(16人)
- 自転車の違法駐輪(14人)
- 道路の通行の妨げとなるような行為をする(13人)
- イヤホンで音楽を聴きながら歩行・運転する(10人)

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は男性(70.8%)が女性(69.9%)をわずかに上回ったが、大きな差は見られなかった。一方、総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は女性(70.2%)が男性(63.5%)を上回り、総合3位の「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」も女性(60.2%)が男性(58.7%)を上回った。なお、「迷惑駐車」(男性56.5%、女性49.7%)、「屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること」(男性27.8%、女性21.0%)、「落書きをすること」(男性35.8%、女性29.2%)、「公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること」(男性36.9%、女性32.8%)は、ともに男性が女性をやや上回った。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、最も多いのは50歳代(75.9%)で、最も少ないのは30歳代(62.3%)となっており、全ての年齢層で6割を上回った。総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は60歳代(77.2%)で最も多く、次いで70歳以上(74.9%)、50歳代(66.8%)と続き、高齢層で多い傾向にあった、最も少ないのは30歳代(48.1%)で、唯一5割を下回った。総合3位の「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」は、20歳代(70.6%)で突出して多かった。最も少ないのは70歳以上(55.9%)で、全ての年齢層で5割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、5年未満(71.4%)で最も多く、次いで30年以上(71.3%)、10年未満(71.2%)が僅差で続いた。一方、最も少ないのは1年未満(45.8%)で、続いて少ない3年未満(58.8%)との差は13.0ポイントと、居住歴によって傾向にバラツキが見られた。総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は、

30年以上（70.1%）で最も多く、唯一7割を上回った。最も少ない1年未満（29.2%）は約3割にとどまり、続いて少ない3年未満（47.1%）との差は17.9ポイントと、この項目でも、1年未満の割合が少ない傾向にあった。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、3年未満（70.6%）で最も多く、次いで、1年未満（66.7%）、5年未満（65.3%）、2年未満（65.0%）と続き、居住歴が短い層で割合が多い傾向にあった。一方、最も少ないのは30年以上（57.8%）であった。

- ◇ 職業別では、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、学生（75.0%）で最も多く、最も少ない自由業（60.0%）でも6割を占めた。総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は、主婦・主夫（専業）（76.1%）で最も多く、続く無職（75.3%）、学生（75.0%）の3つの職業層で7割を上回った。最も少ないのは公務員・教員（43.4%）で、唯一5割を下回った。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」では、最も多いのは自由業（80.0%）で、次いで多い学生（66.7）との差は13.3ポイントと、突出して多かった。最も少ないのは主婦・主夫（専業）（55.7%）で、全ての年齢層で5割を上回った。

（注）農・林・漁業については、サンプル数（5）が少ないため、コメントでは触れないことにする（以下、同様）。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、戸畑区（75.9%）で最も多く、最も少ない八幡西区（67.1%）との差は8.8ポイントと、区による大きな差は見られなかった。また、全ての区で6割を上回った。総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は、戸畑区（72.3%）が最も多く、最も少ない八幡東区（64.5%）との差は7.8ポイントと、区による大きな差は見られなかった。また、全ての区で6割を上回った。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、八幡西区（61.6%）が最も多く、最も少ない若松区（52.8%）との差は8.8ポイントと、区による大きな差は見られなかった。また、全ての区で5割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、若松地区（76.2%）で最も多く、小倉地区（61.9%）で最も少なかった。総合2位の「飼い犬のふんを放置すること」は、曾根地区（73.6%）で最も多く、次いで、戸畑地区（72.3%）、小倉（西部）地区及び二島地区（70.9%）、小倉（東部）地区（70.7%）と続き、これらの地区で7割を上回った。一方、最も少ないのは小倉地区（54.8%）であった。行政区の小倉北区は、区内で地区によって傾向の違いが出る結果となった。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、上津役地区（70.6%）で最も多く、次いで、曾根地区及び八幡東（東部）地区（66.7%）と続いた。一方、若松地区（46.0%）で最も少なく、次いで小倉地区（47.6%）が僅差で続いた。

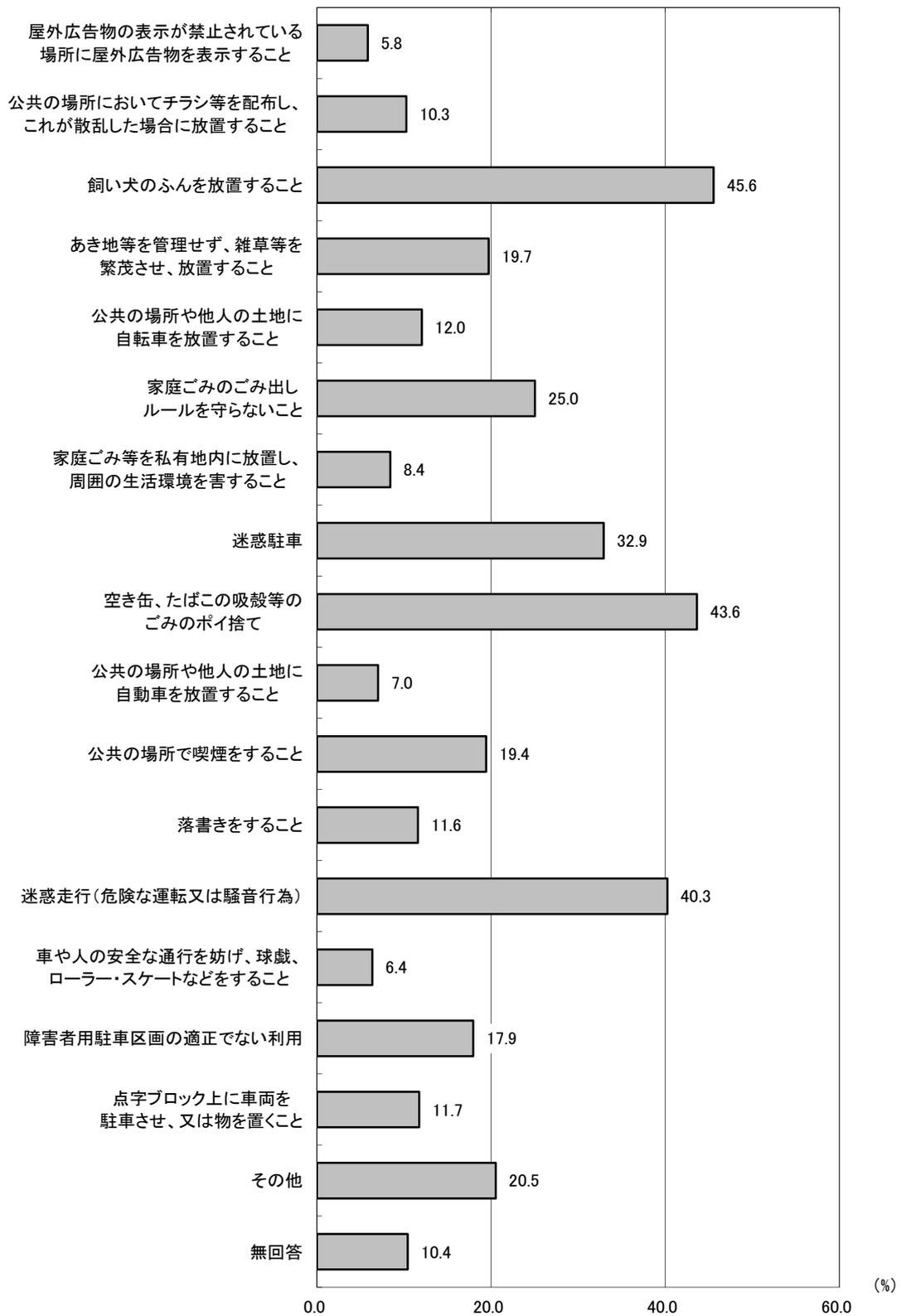
(2) (1) のうち、特に不快または危険と感じる市民のモラルやマナー

問2 (2) (1) で選んだ項目のうち、あなたが、特に不快または危険と感じるものを、5つまで選んでください。

N : 1,354 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	79	5.8
2 公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	139	10.3
3 飼い犬のふんを放置すること	617	45.6
4 あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	267	19.7
5 公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること	163	12.0
6 家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	339	25.0
7 家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること	114	8.4
8 迷惑駐車	446	32.9
9 空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	591	43.6
10 公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること	95	7.0
11 公共の場所で喫煙をすること	263	19.4
12 落書きをすること	157	11.6
13 迷惑走行 (危険な運転又は騒音行為)	545	40.3
14 車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	86	6.4
15 障害者用駐車区画の適正でない利用	243	17.9
16 点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	159	11.7
17 その他	278	20.5
無回答	141	10.4

◇ 以前と比べ低下していると感じるモラル・マナーの中でも、特に不快・危険と感じるものは「飼い犬のふんを放置すること」(45.6%)が最多。続く「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(43.6%)、「迷惑走行 (危険な運転又は騒音行為)」(40.3%)の3項目で、4割を上回った。



問2(2)(1)のうち、特に不快または危険と感じる市民のモラルやマナー

	サンプル数	屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	飼育のふんを放置すること	あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	公共の場所や他人の土地に自転車や放置すること	家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること	迷惑駐車	空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	公共の場所や他人の土地に自動車や放置すること	公共の場所や他人の土地に自転車や放置すること	落書きをすること	迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）	車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	障害者用駐車区画の適正でない利用	置くこと	点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	その他	無回答	
全体	1,354	5.8	10.3	45.6	19.7	12.0	25.0	8.4	32.9	43.6	7.0	19.4	11.6	40.3	6.4	17.9	11.7	20.5	10.4		
性別	男性	570	7.9	10.0	42.3	18.9	14.2	26.7	6.8	36.3	45.4	7.2	17.9	13.5	39.6	5.4	18.2	10.7	21.6	10.2	
	女性	777	4.2	10.3	47.7	20.1	10.3	23.8	9.5	30.4	42.2	6.8	20.2	9.9	40.9	6.9	17.8	12.4	19.8	10.7	
年齢別	20歳代	107	6.5	17.8	37.4	16.8	14.0	25.2	10.3	31.8	51.4	6.5	35.5	8.4	51.4	7.5	24.3	11.2	19.6	1.9	
	30歳代	179	3.4	3.9	31.8	18.4	10.6	21.2	6.7	36.9	45.3	7.3	25.1	12.8	40.8	6.1	23.5	7.8	24.0	7.8	
	40歳代	191	6.8	11.5	39.8	17.8	10.5	23.0	9.9	30.9	47.1	5.8	26.7	7.3	38.7	4.2	20.4	12.0	22.5	5.2	
	50歳代	237	4.6	11.8	44.7	18.6	11.4	24.9	7.6	38.4	43.5	7.6	19.4	9.7	38.4	5.5	20.3	14.3	25.7	6.8	
	60歳代	320	5.3	9.7	51.6	18.1	9.4	29.1	6.9	33.4	42.2	5.3	12.5	14.4	40.6	6.9	16.9	13.1	18.4	9.4	
	70歳以上	314	8.0	9.9	53.8	24.5	16.2	24.2	10.2	28.0	39.2	8.9	13.1	13.1	38.9	7.3	10.5	10.2	16.2	22.0	
居住年数別	1年未満	22	4.5	13.6	13.6	9.1	4.5	22.7	4.5	31.8	36.4	13.6	45.5	4.5	45.5	13.6	22.7	13.6	13.6	22.7	
	2年未満	19	5.3	10.5	52.6	21.1	10.5	10.5	5.3	10.5	47.4	5.3	26.3	5.3	42.1	5.3	21.1	5.3	26.3	15.8	
	3年未満	17	5.9	17.6	17.6	11.8	17.6	23.5	17.6	11.8	35.3	0.0	23.5	11.8	41.2	5.9	17.6	17.6	17.6	23.5	
	5年未満	48	2.1	4.2	56.3	6.3	16.7	31.3	2.1	35.4	52.1	4.2	31.3	4.2	45.8	0.0	18.8	6.3	27.1	0.0	
	10年未満	51	9.8	9.8	39.2	15.7	5.9	19.6	5.9	29.4	51.0	5.9	21.6	13.7	41.2	9.8	13.7	13.7	11.8	9.8	
	20年未満	156	7.1	7.7	44.9	21.8	9.6	23.1	8.3	35.3	44.2	9.6	18.6	9.6	44.2	5.8	17.9	9.0	23.1	8.3	
	30年未満	183	7.1	14.8	42.1	20.8	12.0	26.8	10.9	38.8	43.2	11.5	23.5	10.9	44.8	5.5	21.9	14.2	20.8	6.6	
	30年以上	852	5.4	9.9	47.4	20.3	12.7	25.4	8.5	32.4	43.0	5.8	16.8	12.7	38.3	6.6	17.0	11.7	20.4	11.6	
職業別	自営業	72	11.1	9.7	37.5	31.9	20.8	19.4	9.7	26.4	40.3	4.2	16.7	15.3	45.8	11.1	15.3	12.5	19.4	5.6	
	自由業	14	7.1	7.1	35.7	14.3	7.1	14.3	0.0	35.7	35.7	0.0	14.3	0.0	64.3	14.3	35.7	14.3	21.4	0.0	
	会社員	386	7.5	10.6	36.5	17.1	13.0	25.4	9.1	37.0	50.3	6.2	23.6	12.4	37.8	4.1	22.5	9.8	23.3	6.5	
	公務員・教員	53	5.7	7.5	28.3	9.4	9.4	32.1	5.7	34.0	52.8	5.7	15.1	17.0	35.8	3.8	15.1	9.4	26.4	5.7	
	農・林・漁業	5	20.0	0.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0	
	主婦・主夫(パートなど)	173	4.6	13.3	48.6	19.1	9.2	21.4	11.0	39.3	33.5	8.7	20.2	9.8	41.6	6.9	26.0	14.5	13.9	7.5	
	主婦・主夫(専業)	256	3.1	9.0	54.7	19.5	7.0	26.2	6.3	27.3	40.2	4.3	19.1	8.2	38.7	6.3	14.8	10.2	22.3	13.3	
	学生	24	0.0	8.3	41.7	12.5	12.5	29.2	8.3	25.0	54.2	4.2	45.8	8.3	41.7	8.3	29.2	20.8	29.2	0.0	
	無職	291	5.8	10.0	56.0	22.0	14.8	27.1	8.2	30.9	43.6	7.6	15.1	13.1	41.6	6.9	10.7	11.7	16.2	17.5	
	その他	72	5.6	9.7	36.1	22.2	13.9	20.8	9.7	30.6	38.9	18.1	11.1	11.1	48.6	8.3	13.9	18.1	29.2	12.5	
居住区別	行政区分	門司区	143	7.0	11.2	42.7	18.2	9.1	21.0	9.8	32.2	39.9	7.0	19.6	12.6	41.3	6.3	20.3	12.6	16.8	16.8
		小倉北区	209	4.8	10.0	48.3	19.6	14.4	25.8	10.0	33.5	41.6	7.7	19.1	12.0	42.1	11.0	14.8	10.0	25.8	7.2
		小倉南区	282	7.1	8.2	47.2	16.7	13.5	21.3	8.5	33.3	42.2	6.4	18.8	11.0	37.9	5.0	17.7	11.7	19.1	10.3
		若松区	141	2.8	8.5	45.4	32.6	12.8	27.7	6.4	34.8	46.1	6.4	11.3	14.2	31.9	4.3	17.0	19.1	21.3	9.9
		八幡東区	144	6.9	12.5	38.9	23.6	13.2	25.0	8.3	32.6	43.8	6.9	21.5	10.4	39.6	10.4	18.1	12.5	21.5	13.9
		八幡西区	354	5.4	11.3	45.5	17.2	8.8	26.3	6.5	30.8	45.2	7.1	21.8	11.9	43.8	4.8	20.6	9.6	20.1	9.9
		戸畑区	81	7.4	11.1	50.6	14.8	17.3	33.3	13.6	38.3	49.4	8.6	22.2	7.4	42.0	2.5	12.3	9.9	17.3	4.9
		居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	45	6.7	11.1	28.9	22.2	11.1	15.6	6.7	35.6	31.1	8.9	8.9	4.4	35.6	4.4	17.8	13.3
門司(大里)地区	73			2.7	12.3	50.7	13.7	11.0	23.3	13.7	34.2	43.8	5.5	28.8	16.4	42.5	8.2	21.9	15.1	17.8	13.7
門司(東部)地区	25			20.0	8.0	44.0	24.0	0.0	24.0	4.0	20.0	44.0	8.0	12.0	16.0	48.0	4.0	20.0	4.0	20.0	12.0
小倉北区	小倉地区		41	2.4	9.8	34.1	19.5	12.2	22.0	2.4	22.0	29.3	2.4	24.4	7.3	36.6	9.8	7.3	12.2	14.6	12.2
	小倉(東部)地区		89	6.7	7.9	53.9	20.2	18.0	31.5	10.1	34.8	42.7	6.7	14.6	13.5	44.9	12.4	15.7	5.6	25.8	7.9
	小倉(西部)地区		79	3.8	12.7	49.4	19.0	11.4	21.5	13.9	38.0	46.8	11.4	21.5	12.7	41.8	10.1	17.7	13.9	31.6	3.8
小倉南区	城野地区		66	9.1	6.1	40.9	19.7	9.1	16.7	7.6	25.8	37.9	6.1	18.2	6.1	45.5	6.1	18.2	9.1	18.2	9.1
	管根地区		128	3.9	8.6	53.9	15.6	15.6	21.9	9.4	39.1	45.3	10.2	19.5	15.6	39.1	6.3	19.5	14.8	21.9	6.3
	徳力地区		88	10.2	9.1	42.0	15.9	13.6	23.9	8.0	30.7	40.9	1.1	18.2	8.0	30.7	2.3	14.8	9.1	15.9	17.0
若松区	若松地区		63	1.6	6.3	49.2	39.7	9.5	36.5	6.3	31.7	46.0	6.3	11.1	12.7	30.2	6.3	17.5	25.4	19.0	11.1
	二島地区		78	3.8	10.3	42.3	26.9	15.4	20.5	6.4	37.2	46.2	6.4	11.5	15.4	33.3	2.6	16.7	14.1	23.1	9.0
八幡東区	八幡東(東部)地区		77	7.8	10.4	40.3	22.1	18.2	29.9	9.1	31.2	44.2	3.9	19.5	7.8	42.9	13.0	19.5	14.3	20.8	11.7
	八幡東(西部)地区		67	6.0	14.9	37.3	25.4	7.5	19.4	7.5	34.3	43.3	10.4	23.9	13.4	35.8	7.5	16.4	10.4	22.4	16.4
八幡西区	黒崎地区		92	2.2	12.0	40.2	14.1	4.3	23.9	3.3	33.7	51.1	8.7	29.3	13.0	43.5	6.5	18.5	3.3	25.0	9.8
	折尾地区		124	7.3	11.3	41.9	16.1	12.9	27.4	5.6	29.0	49.2	4.0	19.4	10.5	43.5	4.8	18.5	11.3	25.0	12.1
	上津役地区		82	3.7	13.4	56.1	18.3	9.8	32.9	12.2	36.6	40.2	11.0	19.5	14.6	57.3	3.7	22.0	13.4	14.6	4.9
香月地区	56		8.9	7.1	46.4	23.2	5.4	17.9	5.4	21.4	33.9	5.4	17.9	8.9	25.0	3.6	26.8	10.7	8.9	12.5	
戸畑区	戸畑地区		81	7.4	11.1	50.6	14.8	17.3	33.3	13.6	38.3	49.4	8.6	22.2	7.4	42.0	2.5	12.3	9.9	17.3	4.9

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

(1)のうち、特に不快または危険と感じる市民のモラルやマナー

【全体的傾向】

問2の(1)で選択した、低下していると感じるモラル・マナーのうち、特に不快または危険と感じるものを尋ねてみた。

結果は、「飼い犬のふんを放置すること」(45.6%)が最も多く、次いで、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(43.6%)、「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」(40.3%)の順で続き、これらは4割以上を占めた。

なお、「その他」(278人)で挙げられた具体例のうち、多いものから以下に掲載する(注:カッコ内は人数。1人が複数の具体例を挙げている場合がある)。

- 携帯電話などを操作しながら歩行・運転する(88人)
- 横断歩道を渡らずに道路を横断する(46人)
- 自動車を運転中に窓からゴミを捨てる(38人)
- 自転車の危険運転(23人)
- ネコへの餌やり(19人)
- 野生鳥類(ハト、スズメ、カラス等)への餌やりなど(17人)
- 自転車のマナー違反(横並び運転や無灯火)(11人)
- 自動車のマナー違反(10人)

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、女性(47.7%)が男性(42.3%)を上回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、男性(45.4%)が女性(42.2%)を上回った。総合3位の「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」は、女性(40.9%)が男性(39.6%)をわずかに上回った。なお、全ての項目で男女差が5.9ポイント以下となっており、性別による大きな差は見られなかった。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、70歳以上(53.8%)が最も多く、次いで、60歳代(51.6%)と、高年層で5割を上回った。最も少ないのは30歳代(31.8%)で、次いで20歳代(37.4%)と続いており、30歳代以降は、年齢が高くなるにつれて、割合が多くなる傾向にあった。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、20歳代(51.4%)が最も多く、唯一5割を上回った。一方、最も少ないのは70歳以上(39.2%)で、唯一4割を下回った。総合3位の「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」は20歳代(51.4%)が最も多く、唯一5割を上回った。最も少ないのは、50歳代(38.4%)で、次いで40歳代(38.7%)、70歳以上(38.9%)と、中高年層で比較的少ない傾向にあった。
- ◇ 居住年数別では、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、5年未満(56.3%)が最も多く、次いで2年未満(52.6%)が続き、これらの居住年数層で5割を上回った。一方、最も少ないのは1年未満(13.6%)で、次いで3年未満(17.6%)が続き、居住歴が短い層でも傾向にバラツキが見られた。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、5年未満(52.1%)で最も多く、次いで10年未満(51.0%)、2年未満(47.4%)と続いた。最も少ないのは3年未満(35.3%)で、全ての居住年数層で3割を上回った。総合3位の「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」は5年未満(45.8%)で最も多く、最も少ない30年以上(38.3%)との差は7.5ポイントと、居住年数による大きな差は見られなかった。
- ◇ 職業別では、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、無職(56.0%)で最も多く、

次いで、主婦・主夫（専業）（54.7%）、主婦・主夫（パートなど）（48.6%）が続いた。一方、公務員・教員（28.3%）で最も少なく、唯一3割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、学生（54.2%）で最も多く、次いで公務員・教員（52.8%）、会社員（50.3%）と続き、この3つの職業層で5割を上回った。最も少なかったのは、主婦・主夫（パートなど）（33.5%）だった。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、自由業（64.3%）で最も多く、次いで多いその他（48.6%）の差は15.7ポイントと突出して多かった。一方、最も少なかったのは公務員・教員（35.8%）で、次いで、会社員（37.8%）、主婦・主夫（専業）（38.7%）と続き、この3つの職業層のみ4割を下回った。

◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、戸畑区（50.6%）で最も多く、唯一5割を上回った。最も少なかったのは八幡東区（38.9%）で、唯一4割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、戸畑区（49.4%）で最も多く、最も少なかった門司区（39.9%）との差は9.5と、区による大きな差は見られなかった。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は八幡西区（43.8%）で最も多く、次いで、小倉北区（42.1%）、戸畑区（42.0%）と続いた。最も少なかったのは、若松区（31.9%）であった。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は上津役地区（56.1%）で最も多く、次いで小倉（東部）地区及び曾根地区（53.9%）、門司（大里）地区（50.7%）、戸畑地区（50.6%）と続き、これらの地区で5割を上回った。一方、最も少なかったのは門司港地区（28.9%）で、唯一3割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は黒崎地区（51.1%）で最も多く、次いで戸畑地区（49.4%）、折尾地区（49.2%）と続いた。最も少なかったのは小倉地区（29.3%）で、唯一3割を下回った。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、上津役地区（57.3%）で最も多く、唯一5割を上回った。一方、香月地区（25.0%）で最も少なく、唯一3割を下回った。行政区の八幡西区を見ると、最も多い上津役地区（57.3%）と最も少ない香月地区（25.0%）で32.3ポイントの差があり、区内で傾向の違いが大きかった。

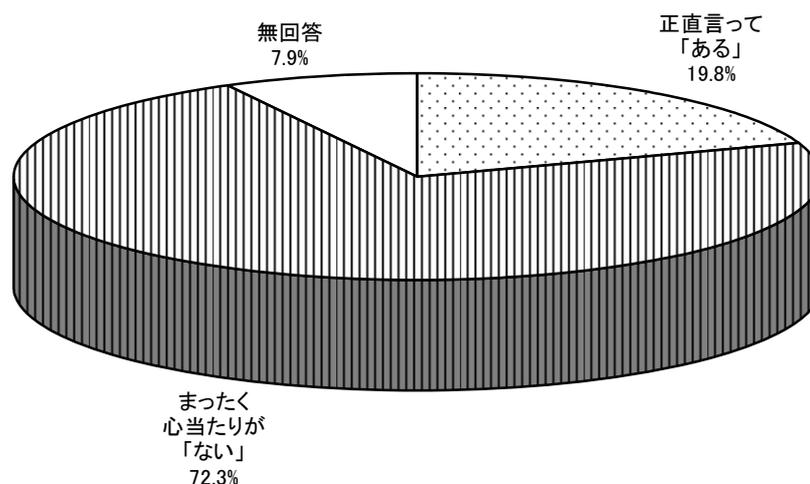
(3) 1年間における自身がした迷惑行為の有無

問3 恐縮ですが、あなたご自身のことでお答え下さい。あなたはこの1年間で、問2に示した16項目の迷惑行為をしたことが、1つでもありますか、それともありませんか。

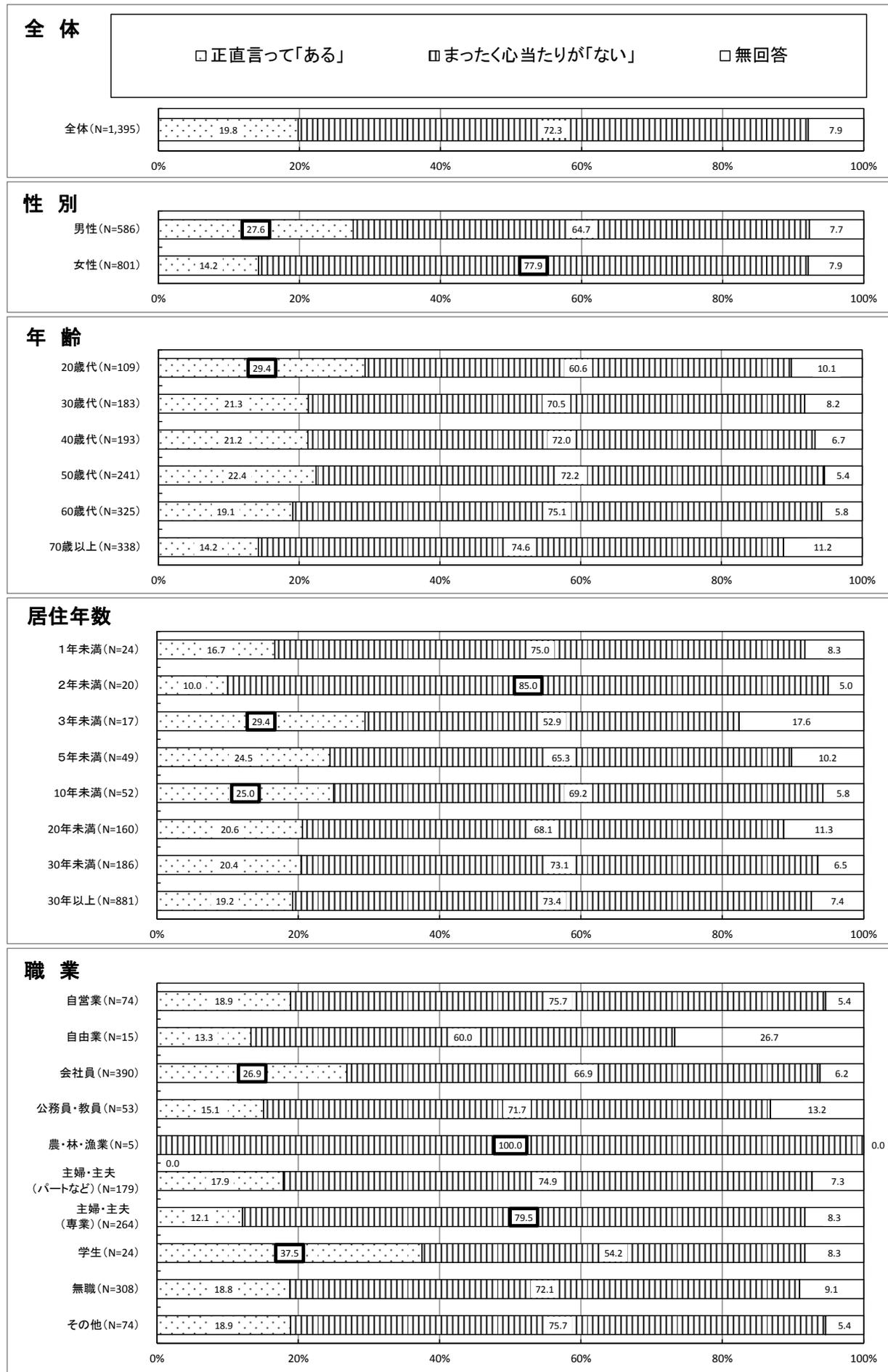
N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 正直言って「ある」	276	19.8
2 まったく心当たりが「ない」	1,009	72.3
無回答	110	7.9

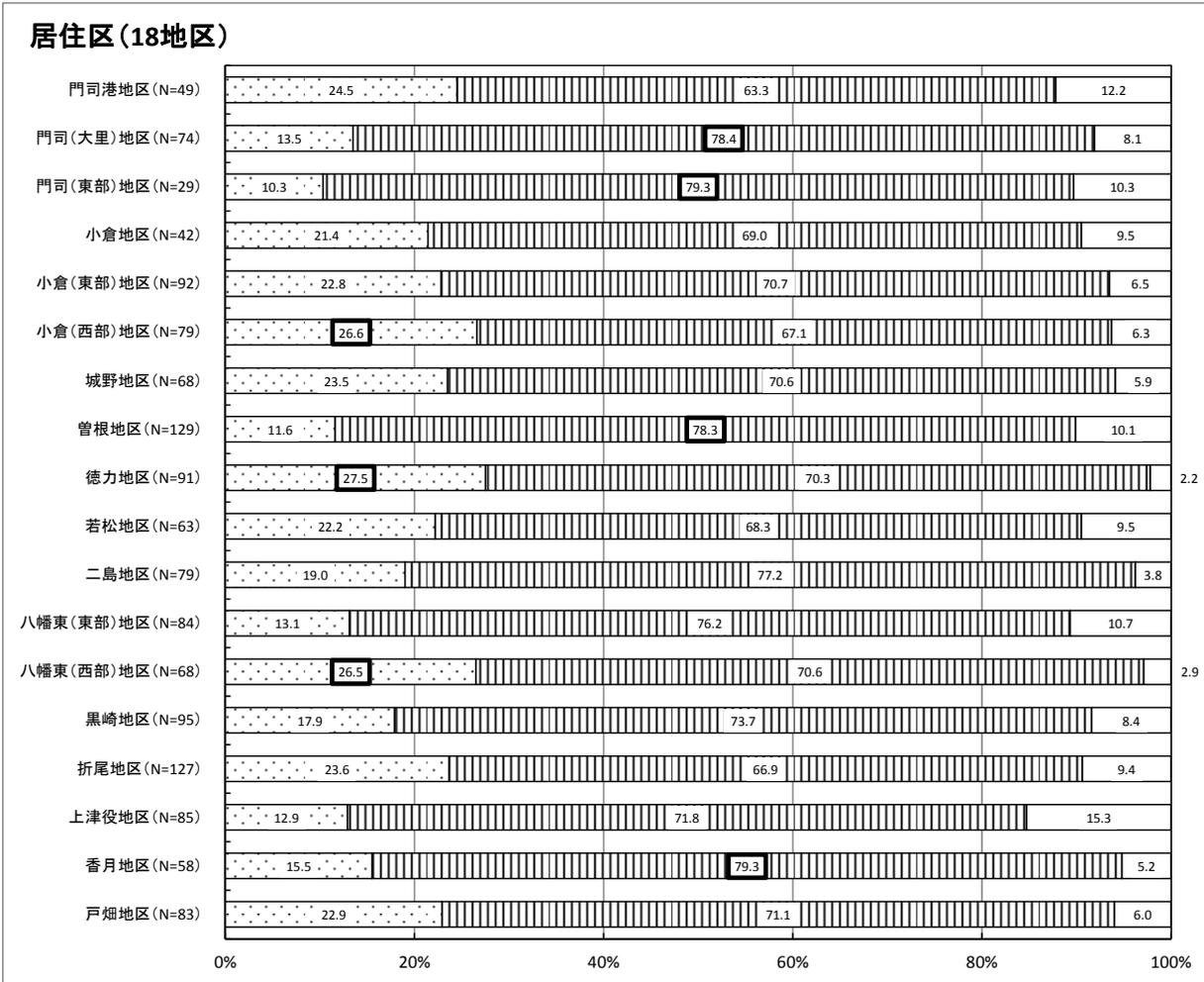
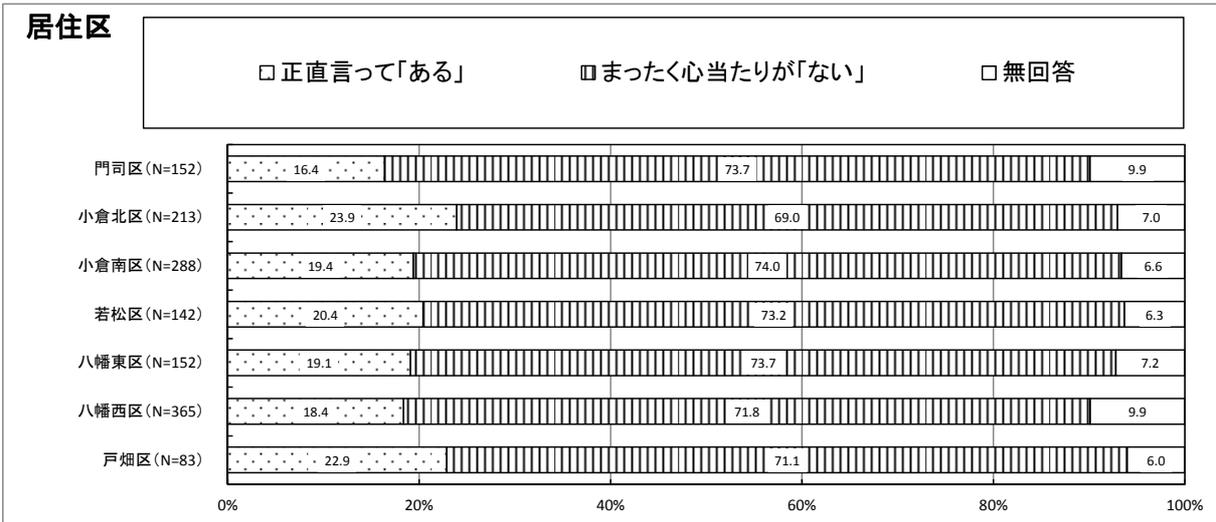
◇ 過去1年間に迷惑行為をしたことは、『まったく心当たりが「ない」』市民が7割強。



問3 1年間における自身がした迷惑行為の有無



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

1年間における自身がした迷惑行為の有無

【全体的傾向】

この1年間でご自身が迷惑行為をしたかを尋ねたところ、「まったく心当たりが『ない』」が72.3%となり、7割強の市民が迷惑行為をしていないと回答した。「正直言って『ある』」は19.8%と、ほぼ5人に1人がこの1年間に迷惑行為をしたことがあるとの結果になった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「正直言って『ある』」は男性（27.6%）が女性（14.2%）を大きく上回った。
- ◇ 年齢別では、「正直言って『ある』」は20歳代（29.4%）で最も多く、次いで50歳代（22.4%）、30歳代（21.3%）、40歳代（21.2%）の順で続いた。最も少ないのは70歳以上（14.2%）で、次いで60歳代（19.1%）と続き、これらの高年層は2割を下回った。
- ◇ 居住年数別では、「正直言って『ある』」は3年未満（29.4%）で最も多く、次いで10年未満（25.0%）、5年未満（24.5%）が続いた。最も少ないのは2年未満（10.0%）で、次いで1年未満（16.7%）と、30年以上（19.2%）と続き、これらの居住年数層で2割を下回った。
- ◇ 職業別では、「正直言って『ある』」は学生（37.5%）で最も多く、続く会社員（26.9%）と比較しても10.6ポイント上回るなど、突出していた。最も少ないのは主婦・主夫（専業）（12.1%）で、次いで自由業（13.3%）、公務員・教員（15.1%）が続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「正直言って『ある』」は小倉北区（23.9%）、戸畑区（22.9%）、若松区（20.4%）で多く、これらは2割を上回った。最も少ないのは、門司区（16.4%）で、最も多い小倉北区との差は7.5ポイントと、大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「正直言って『ある』」は徳力地区（27.5%）で最も多く、次いで小倉（西部）地区（26.6%）、八幡東（西部）地区（26.5%）が僅差で続いた。最も少ないのは門司（東部）地区（10.3%）で、次いで曾根地区（11.6%）、上津役地区（12.9%）、八幡東（東部）地区（13.1%）、門司（大里）地区（13.5%）が続いた。なお、行政区の小倉北区では、全ての地区で2割を上回っていた。

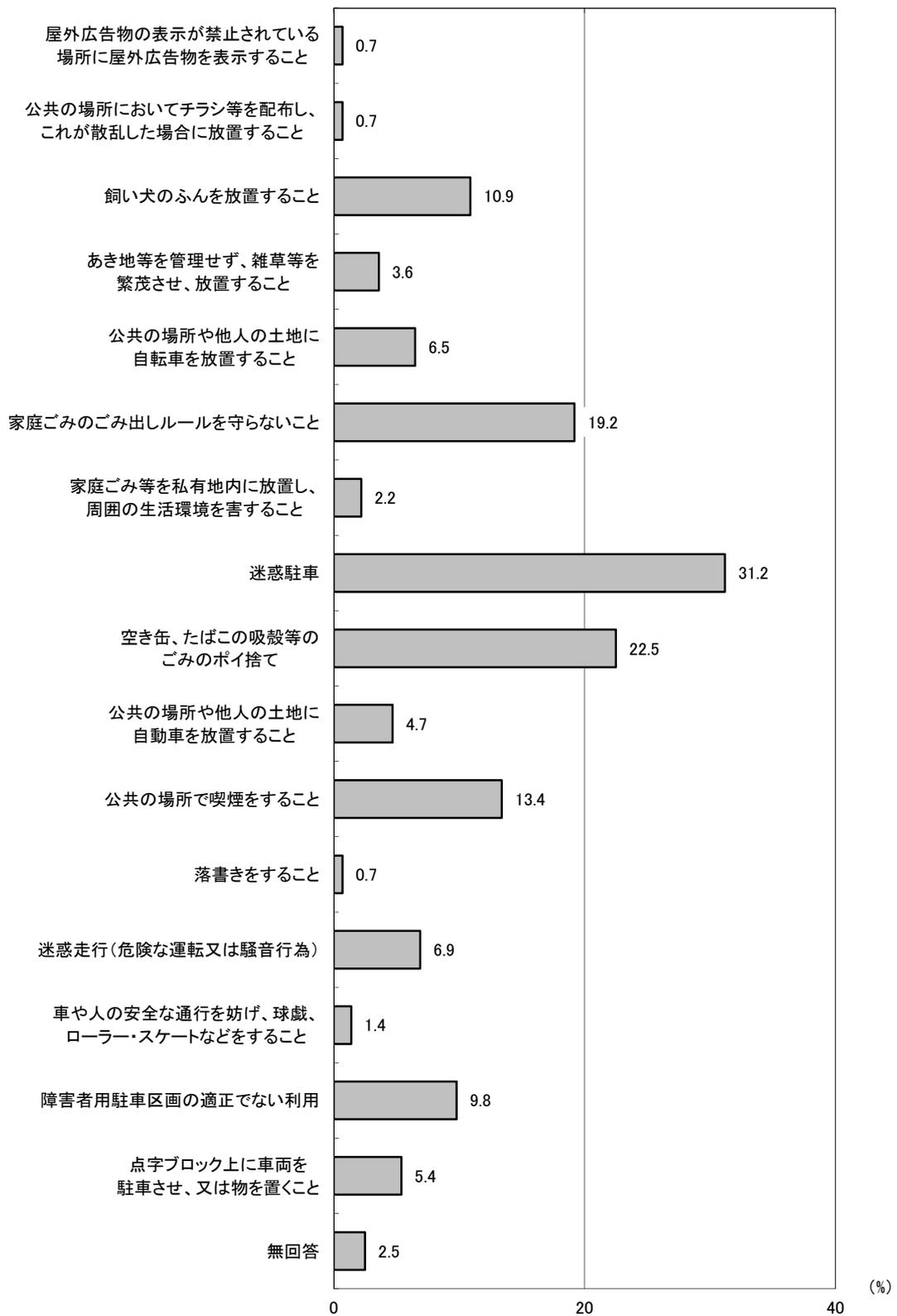
(3) - 1 自身がした迷惑行為の内容

副問3-1 問3で「1 ある」と回答した方におたずねします。
この1年間にあなたがしたモラル・マナー違反の内容を、次の内容からいくつでも選んで下さい。

N : 276 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	2	0.7
2 公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	2	0.7
3 飼い犬のふんを放置すること	30	10.9
4 あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	10	3.6
5 公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること	18	6.5
6 家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	53	19.2
7 家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること	6	2.2
8 迷惑駐車	86	31.2
9 空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	62	22.5
10 公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること	13	4.7
11 公共の場所で喫煙をすること	37	13.4
12 落書きをすること	2	0.7
13 迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）	19	6.9
14 車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	4	1.4
15 障害者用駐車区画の適正でない利用	27	9.8
16 点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	15	5.4
無回答	7	2.5

◇ 過去1年間にモラル・マナー違反をしたことがある市民の中で、最も多い違反内容は、「迷惑駐車」で3割強。



副問3-1 あなたがしたモラル・マナー違反の内容について

		サンプル数	公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	飼育のふんを放置すること	置き地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	公共の場所や他人の土地に自転車やバイクを放置すること	家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	環境を害すること	家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活を迷惑すること	迷惑駐車	空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	公共の場所や他人の土地に自動車やバイクを放置すること	公共の場所や他人の土地に自転車やバイクを放置すること	落書きをすること	迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）	車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	障害者用駐車区画の適正でない利用	置くこと	点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	無回答		
全体		276	0.7	0.7	10.9	3.6	6.5	19.2	2.2	31.2	22.5	4.7	13.4	0.7	6.9	1.4	9.8	5.4	2.5				
性別	男性	162	1.2	1.2	6.8	3.7	7.4	14.2	1.9	37.0	32.1	5.6	19.1	1.2	9.3	1.9	6.8	5.6	1.2				
	女性	114	0.0	0.0	16.7	3.5	5.3	26.3	2.6	22.8	8.8	3.5	5.3	0.0	3.5	0.9	14.0	5.3	4.4				
年齢別	20歳代	32	0.0	0.0	3.1	0.0	12.5	21.9	0.0	28.1	28.1	0.0	25.0	0.0	3.1	0.0	0.0	6.3	0.0				
	30歳代	39	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	20.5	0.0	17.9	30.8	2.6	28.2	0.0	7.7	0.0	12.8	2.6	0.0				
	40歳代	41	0.0	0.0	7.3	2.4	4.9	17.1	0.0	29.3	17.1	2.4	9.8	0.0	4.9	2.4	9.8	9.8	2.4				
	50歳代	54	0.0	0.0	5.6	3.7	3.7	13.0	5.6	35.2	24.1	7.4	9.3	0.0	1.9	0.0	7.4	3.7	3.7				
	60歳代	62	1.6	1.6	16.1	3.2	6.5	24.2	3.2	35.5	16.1	6.5	4.8	1.6	8.1	3.2	9.7	1.6	4.8				
	70歳以上	48	2.1	2.1	20.8	10.4	12.5	18.8	2.1	35.4	22.9	6.3	12.5	2.1	14.6	2.1	16.7	10.4	2.1				
	居住年数別	1年未満	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2年未満	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	3年未満	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	5年未満	12	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	41.7	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0		
	10年未満	13	0.0	0.0	15.4	7.7	0.0	15.4	0.0	15.4	38.5	0.0	30.8	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
	20年未満	33	3.0	3.0	18.2	3.0	15.2	18.2	6.1	30.3	33.3	6.1	9.1	3.0	6.1	6.1	9.1	12.1	0.0	0.0	0.0		
	30年未満	38	0.0	0.0	7.9	0.0	10.5	18.4	5.3	34.2	26.3	7.9	18.4	0.0	7.9	0.0	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0		
	30年以上	169	0.6	0.6	10.7	4.7	4.7	17.8	1.2	33.1	18.3	4.1	11.2	0.6	7.7	0.6	12.4	4.1	3.6	0.0	0.0		
職業別	自営業	14	0.0	0.0	7.1	7.1	0.0	21.4	0.0	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0		
	自由業	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	会社員	105	0.0	0.0	4.8	0.0	2.9	13.3	1.0	24.8	32.4	3.8	21.0	0.0	5.7	0.0	8.6	3.8	1.0	0.0	0.0		
	公務員・教員	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	農・林・漁業	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	主婦・主夫(パートなど)	32	0.0	0.0	9.4	9.4	6.3	21.9	3.1	25.0	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	3.1	21.9	9.4	6.3	0.0	0.0	0.0	
	主婦・主夫(専業)	32	0.0	0.0	21.9	3.1	6.3	25.0	6.3	28.1	9.4	3.1	3.1	0.0	6.3	3.1	9.4	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0	
	学生	9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	44.4	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	無職	58	3.4	3.4	20.7	8.6	12.1	24.1	3.4	37.9	25.9	5.2	15.5	3.4	10.3	3.4	10.3	6.9	1.7	0.0	0.0	0.0	
	その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	0.0	14.3	14.3	14.3	21.4	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
居住区別	行政区分	門司区	25	0.0	0.0	20.0	8.0	8.0	4.0	4.0	44.0	28.0	8.0	4.0	0.0	4.0	0.0	12.0	4.0	4.0	0.0	0.0	
		小倉北区	51	2.0	2.0	7.8	2.0	9.8	15.7	3.9	31.4	27.5	11.8	25.5	2.0	5.9	2.0	7.8	7.8	2.0	0.0	0.0	
		小倉南区	56	1.8	1.8	14.3	1.8	5.4	26.8	1.8	32.1	12.5	3.6	7.1	1.8	7.1	3.6	10.7	8.9	3.6	0.0	0.0	
		若松区	29	0.0	0.0	17.2	10.3	6.9	13.8	3.4	34.5	27.6	3.4	10.3	0.0	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
		八幡東区	29	0.0	0.0	10.3	6.9	3.4	20.7	0.0	17.2	31.0	3.4	10.3	0.0	13.8	0.0	17.2	0.0	3.4	0.0	0.0	
		八幡西区	67	0.0	0.0	7.5	1.5	4.5	22.4	0.0	31.3	17.9	1.5	13.4	0.0	10.4	1.5	9.0	6.0	3.0	0.0	0.0	
		戸畑区	19	0.0	0.0	0.0	0.0	10.5	21.1	5.3	26.3	26.3	0.0	21.1	0.0	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
		居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	12	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	8.3	8.3	41.7	33.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
門司(大里)地区	10			0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	50.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	
門司(東部)地区	3			0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
小倉北区	小倉地区		9	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1	33.3	11.1	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	小倉(東部)地区		21	0.0	0.0	9.5	0.0	9.5	4.8	4.8	33.3	28.6	14.3	19.0	0.0	4.8	0.0	9.5	4.8	4.8	0.0	0.0	
	小倉(西部)地区		21	4.8	4.8	9.5	4.8	4.8	28.6	4.8	38.1	23.8	9.5	19.0	4.8	9.5	4.8	9.5	14.3	0.0	0.0	0.0	
小倉南区	城野地区		16	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	25.0	0.0	12.5	25.0	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	
	管根地区		15	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0	20.0	0.0	40.0	13.3	6.7	6.7	0.0	20.0	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0	0.0	
	徳力地区		25	4.0	4.0	16.0	0.0	4.0	32.0	4.0	40.0	4.0	0.0	12.0	4.0	4.0	4.0	12.0	8.0	4.0	0.0	0.0	
若松区	若松地区		14	0.0	0.0	14.3	14.3	7.1	21.4	7.1	28.6	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	二島地区		15	0.0	0.0	20.0	6.7	6.7	6.7	0.0	40.0	20.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
八幡東区	八幡東(東部)地区		11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0	18.2	54.5	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	八幡東(西部)地区		18	0.0	0.0	16.7	11.1	5.6	16.7	0.0	16.7	16.7	5.6	5.6	0.0	11.1	0.0	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0	
八幡西区	黒崎地区		17	0.0	0.0	11.8	0.0	5.9	35.3	0.0	23.5	0.0	5.9	11.8	0.0	17.6	5.9	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
	折尾地区		30	0.0	0.0	3.3	3.3	6.7	23.3	0.0	43.3	20.0	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	3.3	0.0	0.0	
	上津役地区		11	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	18.2	0.0	27.3	18.2	0.0	36.4	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
戸畑区	戸畑地区		9	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	44.4	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	11.1	0.0	0.0	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

自身がした迷惑行為の内容

【全体的傾向】

問3にて、16項目の迷惑行為を過去1年間にしたことが『正直言って「ある」』と回答した276人に、その内容を尋ねてみた。

その結果、「迷惑駐車」(31.2%)が最も多く、3割強であった。次いで「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(22.5%)、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」(19.2%)の順となった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、総合1位の「迷惑駐車」は、男性(37.0%)が女性(22.8%)を大きく上回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、男性(32.1%)が女性(8.8%)を23.3ポイント差で非常に大きく上回り、「公共の場所で喫煙をすること」も、男性(19.1%)が女性(5.3%)を大きく上回り、たばこに関連するモラル・マナー違反は男性のほうが多い傾向にあった。一方、総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は女性(26.3%)が男性(14.2%)を大きく上回った。「飼い犬のふんを放置すること」も女性(16.7%)が男性(6.8%)を9.9ポイント差で上回り、「障害者用駐車区画の適正でない利用」も女性(14.0%)が男性(6.8%)を7.2ポイント差で上回り、これらのモラル・マナー違反は女性のほうが多い傾向にあった。
- ◇ 年齢別では、総合1位の「迷惑駐車」は60歳代(35.5%)で最も多く、次いで、70歳以上(35.4%)、50歳代(35.2%)と続き、これらの年齢層で3割を上回った。最も少ないのは30歳代(17.9%)で、唯一2割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は30歳代(30.8%)で最も多く、次いで、20歳代(28.1%)、50歳代(24.1%)と続き、若年層を中心に多かった。最も少ないのは60歳代(16.1%)であった。総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は、60歳代(24.2%)で最も多く、次いで20歳代(21.9%)、30歳代(20.5%)と続いた。最も少ないのは50歳代(13.0%)で、年齢による傾向はみられなかった。高年層で多い傾向にあった迷惑行為は、「飼い犬のふんを放置すること」(60歳代16.1%、70歳以上20.8%)で、高年層のみ1割を上回った。また、70歳以上のみ1割を上回った迷惑行為として、「あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること」(10.4%)、「迷惑走行(危険な運転又は騒音行為)」(14.6%)、「点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと」(10.4%)が挙げられた。一方、「公共の場で喫煙すること」は、30歳代(28.2%)で最も多く、次いで20歳代(25.0%)と続き、これらの年齢層のみ2割を上回り、若年層で多い傾向にあった。
- ◇ 居住年数別では、サンプル数が10人未満であった1年未満、2年未満、3年未満はコメントでは触れないこととする。総合1位の「迷惑駐車」は30年未満(34.2%)で最も多く、次いで30年以上(33.1%)、20年未満(30.3%)と続き、これらの居住年数層で3割を上回り、居住歴が長い層で多かった。最も少なかったのは、10年未満(15.4%)で、次いで5年未満(16.7%)と続き、これらの居住年数層で2割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は10年未満(38.5%)で最も多く、次いで20年未満(33.3%)が続き、これら居住年数層のみ3割を上回った。最も少なかったのは5年未満(16.7%)であった。総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は5年未満(41.7%)で最も多く、唯一4割を上回った。一方、10年未満から30年以上の各層は全て1割台となっており、傾向に違いが

見られた。

- ◇ 職業別では、サンプル数が10人未満であった自由業、公務員・教員、学生はコメントでは触れないこととする。総合1位の「迷惑駐車」は、自営業（64.3%）で最も多く、次いで多い無職（37.9%）との差は26.4ポイントと、突出していた。なお、最も少ないのはその他（14.3%）で、唯一2割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、会社員（32.4%）で最も多く、唯一3割を上回った。最も少ないのは主婦・主夫（パートなど）（3.1%）で、次いで主婦・主夫（専業）（9.4%）と続き、これらの職業層は1割を下回った。総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は、主婦・主夫（専業）（25.0%）で最も多く、次いで、自営業及びその他（21.4%）が続いた。最も少ないのは会社員（13.3%）で、唯一2割を下回った。なお、自営業は「公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること」（14.3%）と「点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと」（14.3%）で唯一1割を上回り、他の職業層に比べ、自動車に関する内容での違反が比較的多い傾向が見られた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「迷惑駐車」は門司区（44.0%）で最も多く、唯一4割を上回った。最も少ないのは八幡東区（17.2%）で、唯一2割を下回った。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、八幡東区（31.0%）で最も多く、唯一3割を上回った。一方、最も少ないのは小倉南区（12.5%）で、次いで八幡西区（17.9%）と続き、これらの2区で2割を下回った。総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は、小倉南区（26.8%）で最も多かった。一方、最も少なかったのは門司区（4.0%）で、唯一1割を下回った。

行政区を18地区に細分化して見ると（なお、サンプル数が10人未満であった門司（東部）地区、小倉地区、香月地区はコメントでは触れないこととする）、総合1位の「迷惑駐車」は、門司（大里）地区（50.0%）で最も多く、次いで、折尾地区（43.3%）、門司港地区（41.7%）、曾根、徳力及び二島地区の3地区（40.0%）が続き、行政区の門司区は、区内全体で割合が多い傾向が見られた。一方、最も少ないのは城野地区（12.5%）で、行政区の小倉南区では、地区による違いが大きい傾向にあった。総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、八幡東（東部）地区（54.5%）で最も多く、次いで多い若松地区（35.7%）との差は18.8ポイントと突出して多かった。一方、最も少ないのは黒崎地区（0.0%）で、次いで、徳力地区（4.0%）と続き、これらの地区は1割を下回った。総合3位の「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」は、黒崎地区（35.3%）で最も多く、次いで、徳力地区（32.0%）、小倉（西部）地区（28.6%）が続いた。一方、最も少ないのは門司（大里）地区（0.0%）で、次いで、小倉（東部）地区（4.8%）、二島地区（6.7%）、門司港地区（8.3%）で少なく、これらの地区は1割を下回った。行政区の門司区は、区内全体で割合が低い傾向にあった。

(3) - 2 自身が迷惑行為をした理由

副問3-2 同じく、問3で「1 ある」と回答した方におたずねします。

あなたが迷惑行為をした理由は何ですか。次の1~16の項目のうち、副問題3-1であなたが違反したと回答した項目それぞれについて、理由の該当欄に1つずつ○をつけてください。

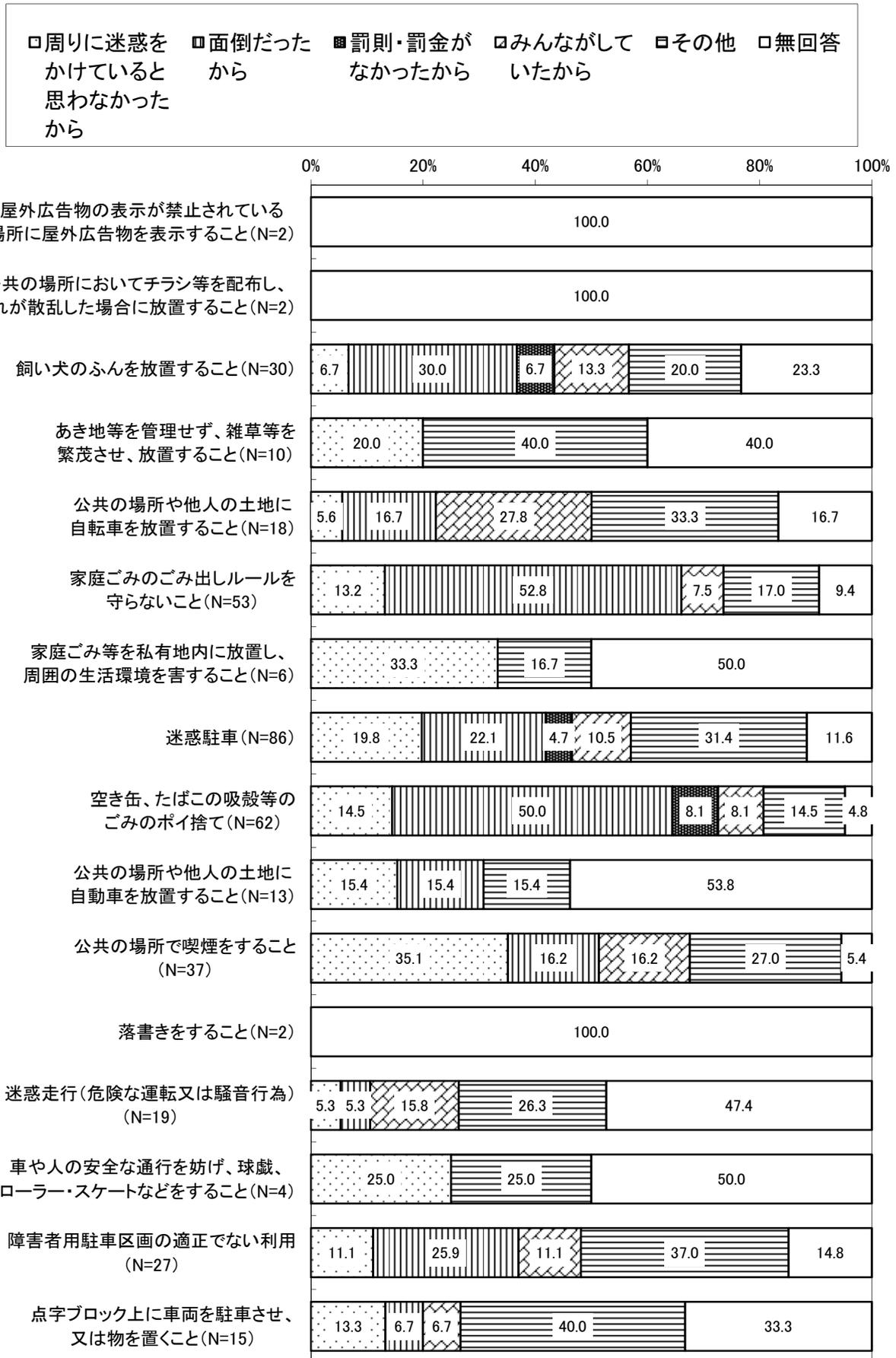
上段：回答数（人） 下段：割合（％）

項目	N	周りに迷惑をかけていると思わなかったから	面倒だったから	罰則・罰金がなかったから	みんながしてしつから	その他	無回答
1 屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること	2	0	0	0	0	0	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2 公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること	2	0	0	0	0	0	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
3 飼い犬のふんを放置すること	30	2	9	2	4	6	7
	100.0	6.7	30.0	6.7	13.3	20.0	23.3
4 あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること	10	2	0	0	0	4	4
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0
5 公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること	18	1	3	0	5	6	3
	100.0	5.6	16.7	0.0	27.8	33.3	16.7
6 家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと	53	7	28	0	4	9	5
	100.0	13.2	52.8	0.0	7.5	17.0	9.4
7 家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること	6	2	0	0	0	1	3
	100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0
8 迷惑駐車	86	17	19	4	9	27	10
	100.0	19.8	22.1	4.7	10.5	31.4	11.6
9 空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て	62	9	31	5	5	9	3
	100.0	14.5	50.0	8.1	8.1	14.5	4.8
10 公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること	13	2	2	0	0	2	7
	100.0	15.4	15.4	0.0	0.0	15.4	53.8
11 公共の場所で喫煙をすること	37	13	6	0	6	10	2
	100.0	35.1	16.2	0.0	16.2	27.0	5.4
12 落書きをすること	2	0	0	0	0	0	2
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
13 迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）	19	1	1	0	3	5	9
	100.0	5.3	5.3	0.0	15.8	26.3	47.4
14 車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること	4	1	0	0	0	1	2
	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
15 障害者用駐車区画の適正でない利用	27	3	7	0	3	10	4
	100.0	11.1	25.9	0.0	11.1	37.0	14.8
16 点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと	15	2	1	0	1	6	5
	100.0	13.3	6.7	0.0	6.7	40.0	33.3

◇ 迷惑行為をした理由で、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」を選んだ割合は、「公共の場所で喫煙をすること」（35.1％）が4割弱で最多。

※標本数Nが少ない（10サンプル未満）の項目を除く。

副問3-2 自身が迷惑行為をした理由



自身が迷惑行為をした理由

【全体的傾向】

同じく、問3にて16項目の迷惑行為を過去1年間にしたことが『正直言って「ある」』と回答した276人に、その理由を副問3-1の内容（迷惑行為）別に尋ねてみた。

その結果、最もサンプル数が多い「迷惑駐車」でも86サンプルにとどまった。また、16項目のうち「屋外広告物の表示が禁止されている場所に屋外広告物を表示すること」「公共の場所においてチラシ等を配布し、これが散乱した場合に放置すること」「家庭ごみ等を私有地内に放置し、周囲の生活環境を害すること」「落書きをすること」「車や人の安全な通行を妨げ、球戯、ローラー・スケートなどをすること」の5項目でサンプル数が10未満にとどまった。そのため、まずは本頁においては16項目の全体集計結果から、傾向をみることにした。

結果、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「公共の場所で喫煙をすること」(35.1%)が最も多く、唯一3割を上回った。次いで、「あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること」(20.0%)、「迷惑駐車」(19.8%)の順になっている（サンプル数が10未満の項目を除く。以降同様）。

「面倒だったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」(52.8%)が最も多く、次いで、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(50.0%)と続き、この2項目は5割以上となった。

「罰金・罰則がなかったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為では、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(8.1%)が最も多かったが、1割を下回った。

「みんながしていたから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること」(27.8%)が最も多く、唯一2割を上回った。次いで、「公共の場所で喫煙をすること」(16.2%)、「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」(15.8%)と続いた。

なお、「その他」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「あき地等を管理せず、雑草等を繁茂させ、放置すること」及び「点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと」がともに40.0%で最も多く、次いで、「障害者用駐車区画の適正でない利用」(37.0%)、「公共の場所や他人の土地に自転車を放置すること」(33.3%)、「迷惑駐車」(31.4%)と続いた。これらの迷惑行為は、本設問の選択肢以外の理由で迷惑行為をしてしまう割合が高いことが推察される。

次頁では、サンプル数が最も多かった「迷惑駐車」(サンプル数86)について、全体的傾向及び属性別に見た傾向を確認する。

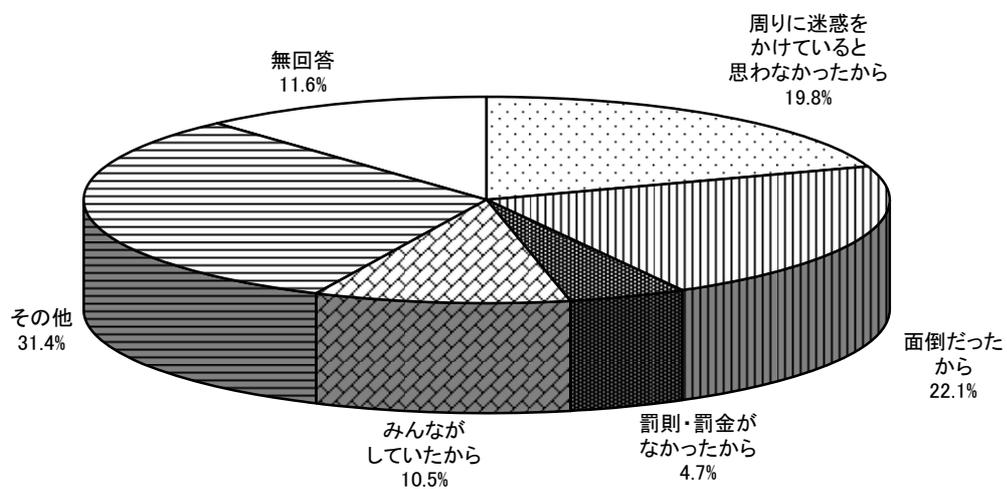
なお、16項目の迷惑行為すべての全体集計および属性別集計は、「資料編 1. クロス集計表」に記載しており、そちら参照されたい。

(3) - 2 自身が迷惑行為をした理由 (迷惑駐車)

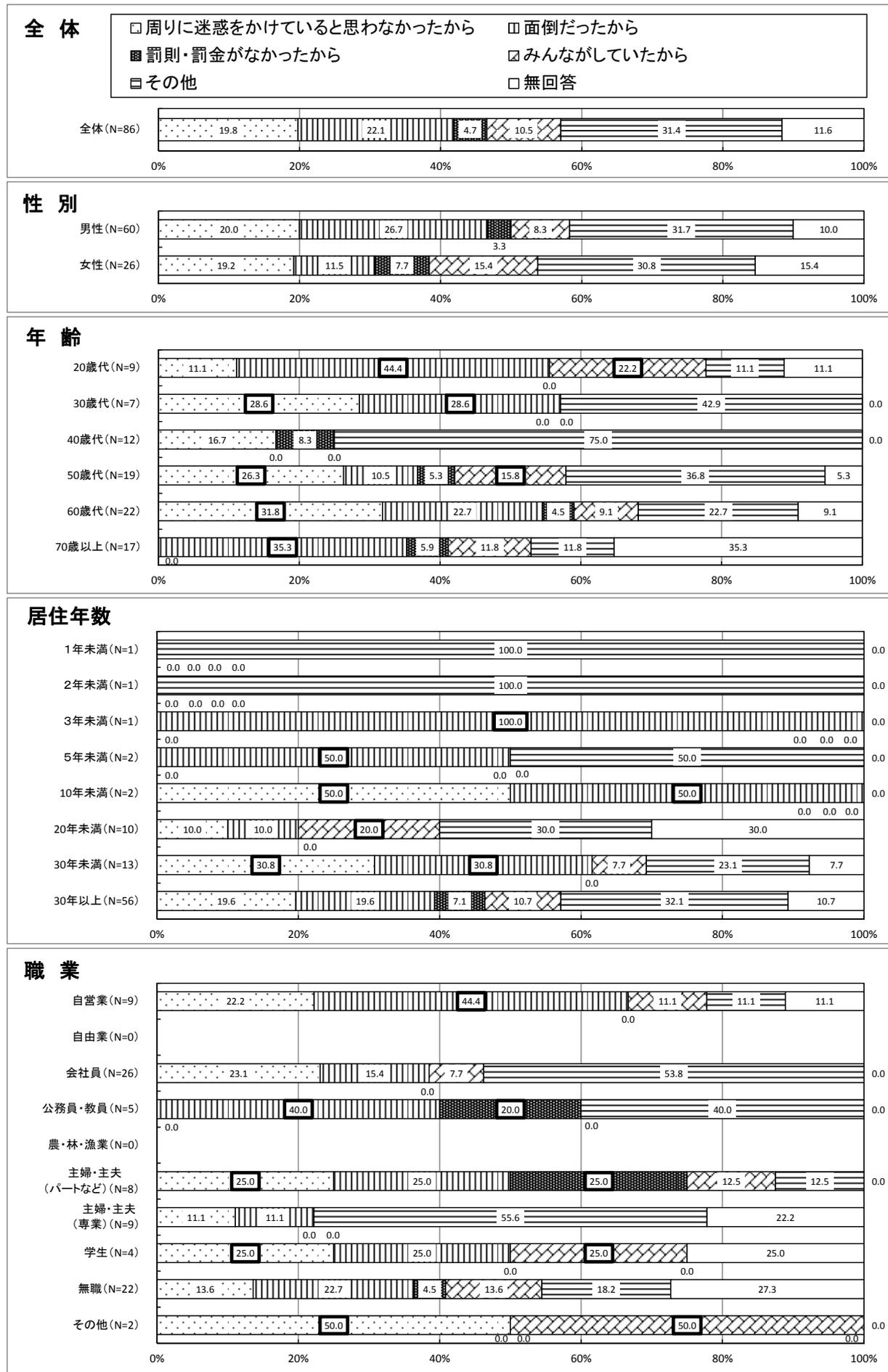
N : 86 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 周りに迷惑をかけていると思わなかったから	17	19.8
2 面倒だったから	19	22.1
3 罰則・罰金がなかったから	4	4.7
4 みんながしていたから	9	10.5
5 その他	27	31.4
無回答	10	11.6

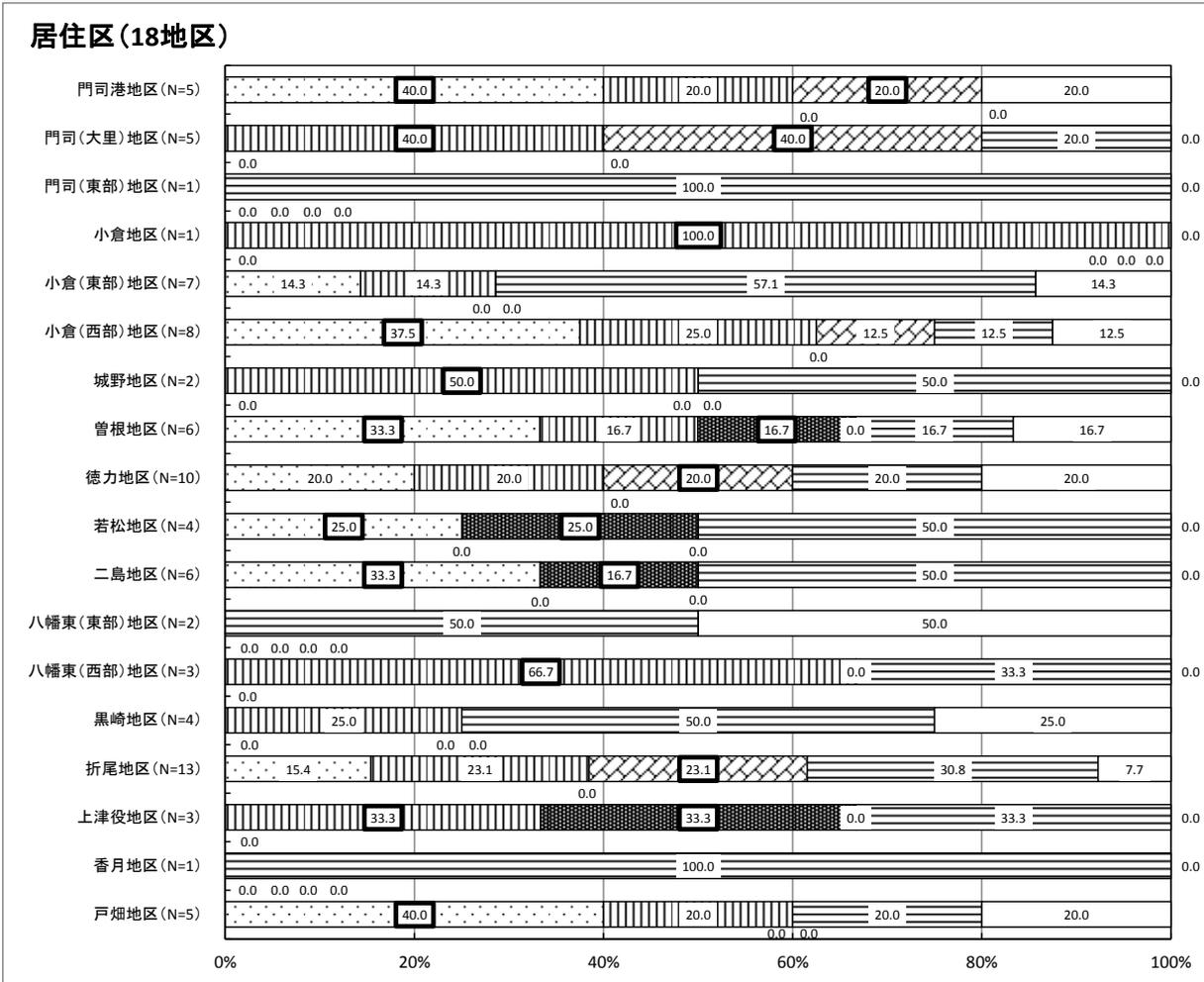
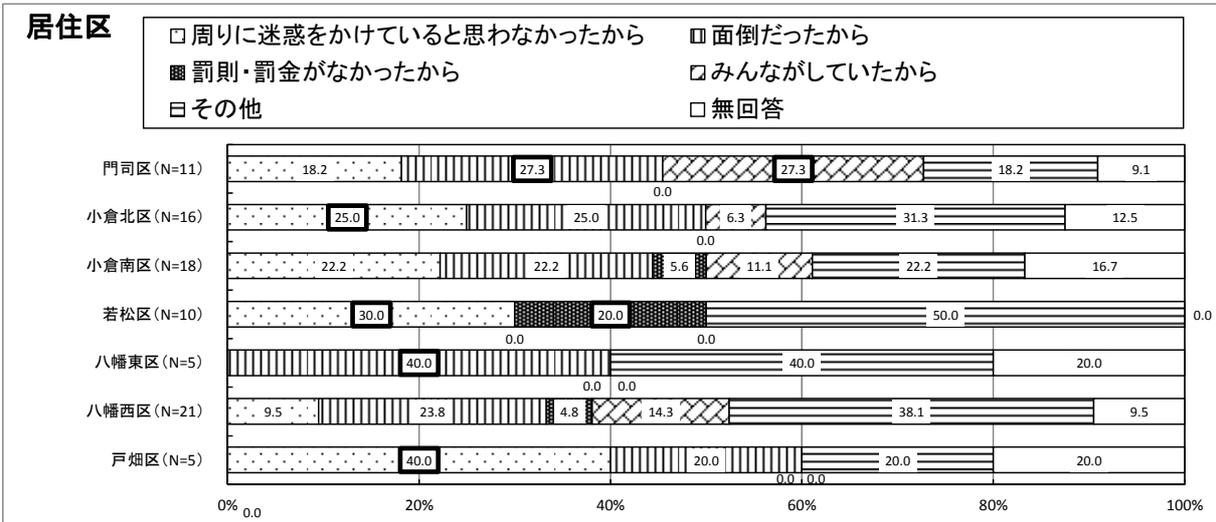
◇ 迷惑駐車をした理由は、「面倒だったから」(22.1%)が2割強。



副問 3-2 自身が迷惑行為をした理由 (迷惑駐車)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

自身が迷惑行為をした理由(迷惑駐車)

【全体的傾向】

問3で迷惑行為をしたことが『ある』と回答した人のうち、迷惑行為の内容を「迷惑駐車」と回答した86人に、その理由を尋ねてみた。結果は、「面倒だったから」(22.1%)が最も多く、次いで、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」(19.8%)が続いた。一方、「罰則・罰金がなかったから」(4.7%)は極端に少なく、1割を下回った。なお、「その他」(31.4%)が3割強

になっており、本設問の選択肢以外の理由で迷惑駐車をしてしまう人が多数いると見られる。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「その他」以外の理由では、男性は「面倒だったから」(26.7%)が最も多く、女性(11.5%)を大きく上回った。一方、女性は「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」(19.2%)が最も多かったが、男性(20.0%)とほとんど差がなかった。最も少なかったのは、男女とも「罰則・罰金がなかったから」で、女性(7.7%)が男性(3.3%)を上回った。
- ◇ 年齢別では、サンプル数が10人未満であった20歳代、30歳代はコメントでは触れないこととする。「面倒だったから」が最も多かったのは70歳以上(35.3%)で、次いで60歳代(22.7%)が続き、高年層で割合が多い傾向にあった。「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」は60歳代(31.8%)が最も多かった。なお、「その他」は、40歳代(75.0%)で突出して多く、次いで、30歳代(42.9%)、50歳代(36.8%)と続いた。
- ◇ 居住年数別では、サンプル数が10以上の、20年未満、30年未満、30年以上についてのみ、コメントで触れるものとする。「面倒だったから」が最も多かったのは30年未満(30.8%)で、唯一3割を上回った。「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」も30年未満(30.8%)で唯一3割を上回った。「みんながしていたから」は、20年未満(20.0%)、30年以上(10.7%)が1割を上回り、「罰金・罰金がなかったから」は、30年以上(7.1%)のみ回答が見られた。
- ◇ 職業別では、サンプル数が10以上の、会社員と無職についてのみ、コメントで触れるものとする。「面倒だったから」は無職(22.7%)が、会社員(15.4%)を上回ったが、その差は7.3ポイントと、職業間で大きな差は見られなかった。一方、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」は、会社員(23.1%)が無職(13.6%)を上回ったが、その差は9.5ポイントと、この項目も職業間で大きな差は見られなかった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると(サンプル数が10人未満であった八幡東区、戸畑区はコメントでは触れないこととする)、「面倒だったから」は門司区(27.3%)で最も多く、最も少ない小倉南区(22.2%)との差は5.1ポイントと、区による大きな違いは見られなかった。「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」は、若松区(30.0%)で最も多く、八幡西区(9.5%)で最も少なく、区によって違いが見られた。なお、「罰則・罰金がなかったから」は若松区(20.0%)で突出して多かった。

行政区を18地区に細分化して見ると(サンプル数が10以上の、徳力地区と折尾地区のみ、コメントで触れるものとする)、「面倒だったから」は折尾地区(23.1%)が徳力地区(20.0%)を上回ったが、その差は3.1ポイントと、区による大きな違いは見られなかった。「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」も、折尾地区(23.1%)が徳力地区(20.0%)を上回ったが、その差は3.1ポイントと、区による大きな違いは見られなかった。

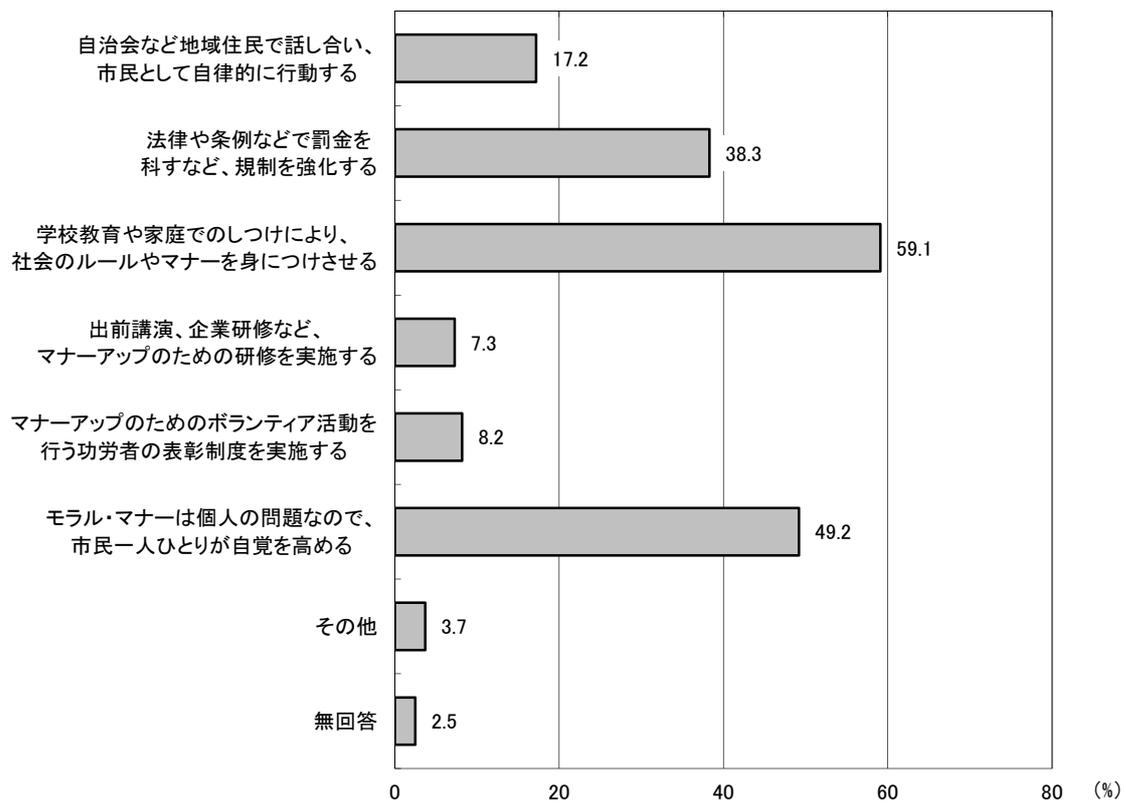
(4) モラル・マナー向上に効果的な取り組み

問4 ここからは、全ての方におたずねします。市民のモラル・マナーがもっとよくなるためには、あなたは、どのような取り組みが特に効果的だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

N : 1,395 人

	項目	回答数 (人)	割合 (%)
1	自治会など地域住民で話し合い、市民として自的に行動する	240	17.2
2	法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する	534	38.3
3	学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる	824	59.1
4	出前講演、企業研修など、マナーアップのための研修を実施する	102	7.3
5	マナーアップのためのボランティア活動を行う功労者の表彰制度を実施する	115	8.2
6	モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める	686	49.2
7	その他	52	3.7
	無回答	35	2.5

◇ 約6割の市民が「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」取り組みが市民のモラル・マナー向上に特に効果的であると感じている。



問4 モラル・マナー向上に効果的な取り組み

		サンプル数	自治会など地域住民で話し合い、市民として	化する	法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する	学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる	出前講演、企業研修など、マナーアップのための研修を実施する	マナーアップのためのボランティア活動を行う	マナーアップの表彰制度を実施する	モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める	その他	無回答
全体		1,395	17.2	38.3	59.1	7.3	8.2	49.2	3.7	2.5		
性別	男性	586	19.3	38.2	57.3	8.0	9.7	46.4	4.8	2.9		
	女性	801	15.6	38.5	60.3	6.9	7.1	51.3	3.0	2.2		
年齢別	20歳代	109	8.3	43.1	55.0	6.4	11.0	48.6	5.5	1.8		
	30歳代	183	14.2	54.1	57.9	4.4	8.2	44.3	3.8	0.5		
	40歳代	193	14.5	40.4	59.1	13.0	7.8	48.2	2.6	1.0		
	50歳代	241	11.6	46.1	53.9	10.0	12.0	44.8	4.1	2.1		
	60歳代	325	19.7	33.8	62.5	7.7	6.5	48.6	5.2	2.5		
	70歳以上	338	24.9	25.7	61.2	3.8	6.5	56.5	2.1	5.0		
居住年数別	1年未満	24	25.0	50.0	45.8	4.2	12.5	45.8	0.0	0.0		
	2年未満	20	15.0	40.0	45.0	0.0	20.0	45.0	5.0	5.0		
	3年未満	17	17.6	35.3	52.9	5.9	0.0	58.8	0.0	0.0		
	5年未満	49	6.1	46.9	65.3	8.2	8.2	53.1	0.0	0.0		
	10年未満	52	13.5	44.2	63.5	1.9	9.6	51.9	5.8	0.0		
	20年未満	160	15.6	43.1	51.9	6.3	13.8	48.8	4.4	2.5		
	30年未満	186	13.4	47.8	55.4	11.3	7.0	37.6	8.1	2.2		
	30年以上	881	19.0	34.4	61.4	7.3	7.2	51.4	3.0	2.8		
職業別	自営業	74	21.6	33.8	64.9	5.4	13.5	40.5	1.4	4.1		
	自由業	15	13.3	60.0	53.3	13.3	6.7	33.3	13.3	0.0		
	会社員	390	12.6	43.8	56.7	7.9	9.5	47.2	5.6	1.8		
	公務員・教員	53	15.1	52.8	60.4	9.4	1.9	45.3	3.8	0.0		
	農・林・漁業	5	20.0	40.0	60.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0		
	主婦・主夫(パートなど)	179	12.3	40.8	58.1	11.7	6.7	49.2	2.8	2.8		
	主婦・主夫(専業)	264	20.1	36.0	61.4	6.4	6.8	51.1	3.0	1.9		
	学生	24	12.5	50.0	62.5	0.0	4.2	45.8	0.0	0.0		
	無職	308	22.4	31.8	58.1	5.8	7.1	54.5	2.9	4.2		
	その他	74	18.9	27.0	63.5	5.4	14.9	47.3	4.1	1.4		
居住区別	行政区分	門司区	152	20.4	33.6	57.2	8.6	9.2	51.3	3.3	2.0	
		小倉北区	213	14.6	43.7	55.4	8.9	8.5	48.8	4.2	2.3	
		小倉南区	288	16.3	37.8	66.3	5.6	7.6	50.3	5.6	1.7	
		若松区	142	23.9	33.8	57.0	7.7	7.7	47.2	6.3	0.0	
		八幡東区	152	21.1	37.5	50.7	2.6	9.9	46.7	4.6	5.3	
		八幡西区	365	13.4	39.2	59.2	8.5	8.5	49.0	1.4	3.8	
		戸畑区	83	19.3	39.8	65.1	9.6	4.8	50.6	1.2	0.0	
		居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	49	24.5	26.5	53.1	6.1	6.1	61.2	6.1
門司(大里)地区	74			13.5	37.8	63.5	12.2	9.5	50.0	1.4	0.0	
門司(東部)地区	29			31.0	34.5	48.3	3.4	13.8	37.9	3.4	6.9	
小倉北区	小倉地区		42	9.5	45.2	54.8	7.1	7.1	42.9	9.5	4.8	
	小倉(東部)地区		92	12.0	52.2	56.5	8.7	9.8	44.6	4.3	2.2	
	小倉(西部)地区		79	20.3	32.9	54.4	10.1	7.6	57.0	1.3	1.3	
小倉南区	城野地区		68	14.7	29.4	72.1	7.4	7.4	55.9	4.4	1.5	
	菅根地区		129	17.1	48.1	64.3	7.8	8.5	41.9	3.9	1.6	
	徳力地区		91	16.5	29.7	64.8	1.1	6.6	58.2	8.8	2.2	
若松区	若松地区		63	23.8	34.9	54.0	9.5	12.7	41.3	4.8	0.0	
	二島地区		79	24.1	32.9	59.5	6.3	3.8	51.9	7.6	0.0	
八幡東区	八幡東(東部)地区		84	20.2	36.9	57.1	1.2	10.7	46.4	3.6	4.8	
	八幡東(西部)地区		68	22.1	38.2	42.6	4.4	8.8	47.1	5.9	5.9	
八幡西区	黒崎地区		95	12.6	37.9	62.1	11.6	6.3	48.4	1.1	3.2	
	折尾地区		127	15.7	44.1	55.9	10.2	6.3	46.5	1.6	3.1	
	上津役地区		85	9.4	37.6	60.0	4.7	14.1	50.6	1.2	5.9	
戸畑区	戸畑地区		58	15.5	32.8	60.3	5.2	8.6	53.4	1.7	3.4	
戸畑区	戸畑地区		83	19.3	39.8	65.1	9.6	4.8	50.6	1.2	0.0	

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

モラル・マナー向上に効果的な取り組み

【全体的傾向】

この設問では、市民のモラル・マナー向上に効果的な取り組みについて、尋ねてみた。

その結果、「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」(59.1%)が最も多く、約6割を占めた。次いで「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」(49.2%)、「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」(38.3%)の順になった。

なお、「その他」(52人)で挙げられた取り組みのうち、多いものから以下に掲載する(注:カッコ内は人数)。

- メディア等を活用した広報による啓蒙(「昔より良くなった点のPR」を含む)(11人)
- 取締り担当者の増員や権限拡大(5人)
- 学校はしつけの場ではないので、家庭でのしつけが一番(4人)
- 幼稚園・小学校低学年から重点に教育する(3人)
- ごみ箱を増やすなど、迷惑行為をしないですむ工夫をする(3人)

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、女性(60.3%)が男性(57.3%)を上回った。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、女性(51.3%)が男性(46.4%)をやや上回った。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は、男性(38.2%)と女性(38.5%)の差がほとんどなかった。

◇ 年齢別では、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、60歳代(62.5%)で最も多く、次いで70歳以上(61.2%)が続いた。これらの高年層は6割を上回った。最も少なかったのは50歳代(53.9%)で、最も多かった60歳代との差は8.6ポイントと、年齢層による大きな差は見られなかった。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、70歳以上(56.5%)が最も多く、唯一5割を上回った。最も少ないのは30歳代(44.3%)であった。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は30歳代(54.1%)が最も多く、唯一5割を上回った。最も少なかったのは70歳以上(25.7%)で、次いで60歳代(33.8%)が続き、これらの高年層では4割を下回った。「自治会など地域住民で話し合い、市民として自律的に行動する」は、70歳以上(24.9%)で最も多く、唯一2割を上回った。

◇ 居住年数別では、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、5年未満(65.3%)で最も多く、次いで10年未満(63.5%)、30年以上(61.4%)と続いた。最も少なかったのは2年未満(45.0%)で、次いで1年未満(45.8%)と、これらの居住歴が短い層で5割を下回った。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、3年未満(58.8%)で最も多く、次いで、5年未満(53.1%)、10年未満(51.9%)と続いた。最も少ないのは30年未満(37.6%)で唯一4割を下回り、次いで、2年未満(45.0%)、1年未満(45.8%)と続いた。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は、1年未満(50.0%)で最も多く、次いで30年未満(47.8%)、5年未満(46.9%)が続いた。少なかったのは30年以上(34.4%)、3年未満(35.3%)でこれらは4割を下回った。「自治会など地域住民で話し合い、市民として自律的に行動する」は、

1年未満(25.0%)で最も多く、唯一2割を上回った。

◇ 職業別は、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、自営業(64.9%)で最も多く、次いで、その他(63.5%)、学生(62.5%)と続いた。最も少ないのは自由業(53.3%)で、全ての職業層で5割を上回った。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、無職(54.5%)で最も多く、次いで主婦・主夫(専業)(51.1%)、主婦・主夫(パートなど)(49.2%)が続いた。最も少ないのは自由業(33.3%)で、唯一4割を下回った。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は、自由業(60.0%)で最も多く、次いで、公務員・教員(52.8%)、学生(50.0%)と続き、これらの職業層で5割以上となった。一方少なかったのは、無職(31.8%)、自営業(33.8%)、主婦・主夫(専業)(36.0%)で、これらの職業層では4割を下回った。

◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、小倉南区(66.3%)で最も多く、次いで戸畑区(65.1%)、八幡西区(59.2%)の順で続いた。最も少なかったのは八幡東区(50.7%)で、やや区で違いがあるものの、全ての区で5割を上回った。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、最も多い門司区(51.3%)と最も少ない八幡東区(46.7%)との差は4.6ポイントと、区による大きな違いは見られなかった。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は、最も多い小倉北区(43.7%)で唯一4割を上回った。最も少ないのは門司区(33.6%)で、全ての区で3割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」は、城野地区(72.1%)で最も多く、次いで、戸畑地区(65.1%)、徳力地区(64.8%)、曾根地区(64.3%)と続き、行政区の小倉南区は全ての地区で6割を上回った。最も少ないのは八幡東(西部)地区(42.6%)で、次いで門司(東部)地区(48.3%)が続き、この2地区で5割を下回った。総合2位「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」は、門司港地区(61.2%)で最も多く、唯一6割を上回った。一方で、最も少ない門司(東部)地区(37.9%)は唯一4割を下回るなど、行政区の門司区内で傾向に差がみられた。総合3位「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」は、小倉(東部)地区(52.2%)で最も多く、唯一5割を上回った。少なかったのは、門司港地区(26.5%)、城野地区(29.4%)、徳力地区(29.7%)で、これらは3割を下回った。「自治会など地域住民で話し合い、市民として自律的に行動する」は、門司(東部)地区(31.0%)が最も多く、次いで、門司港地区(24.5%)、二島地区(24.1%)、若松地区(23.8%)と続き、行政区の門司区や若松区で比較的多い傾向にあった。

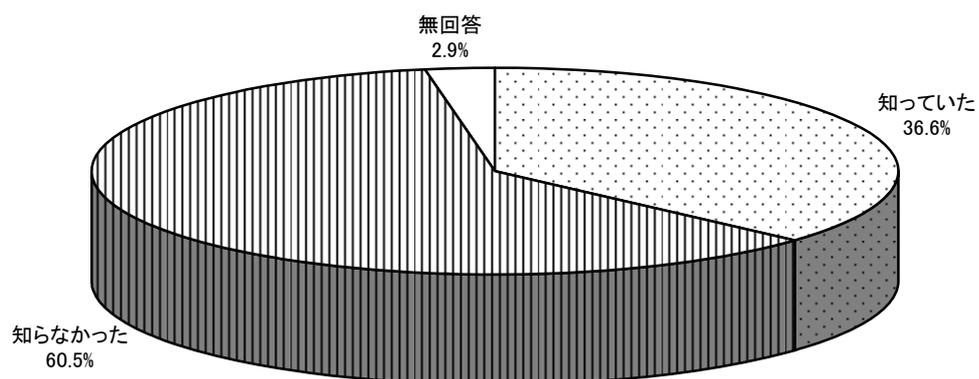
(5) 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度

問5 迷惑行為を防止するために、「モラル・マナーアップ関連条例」が制定されていることをご存知でしたか。

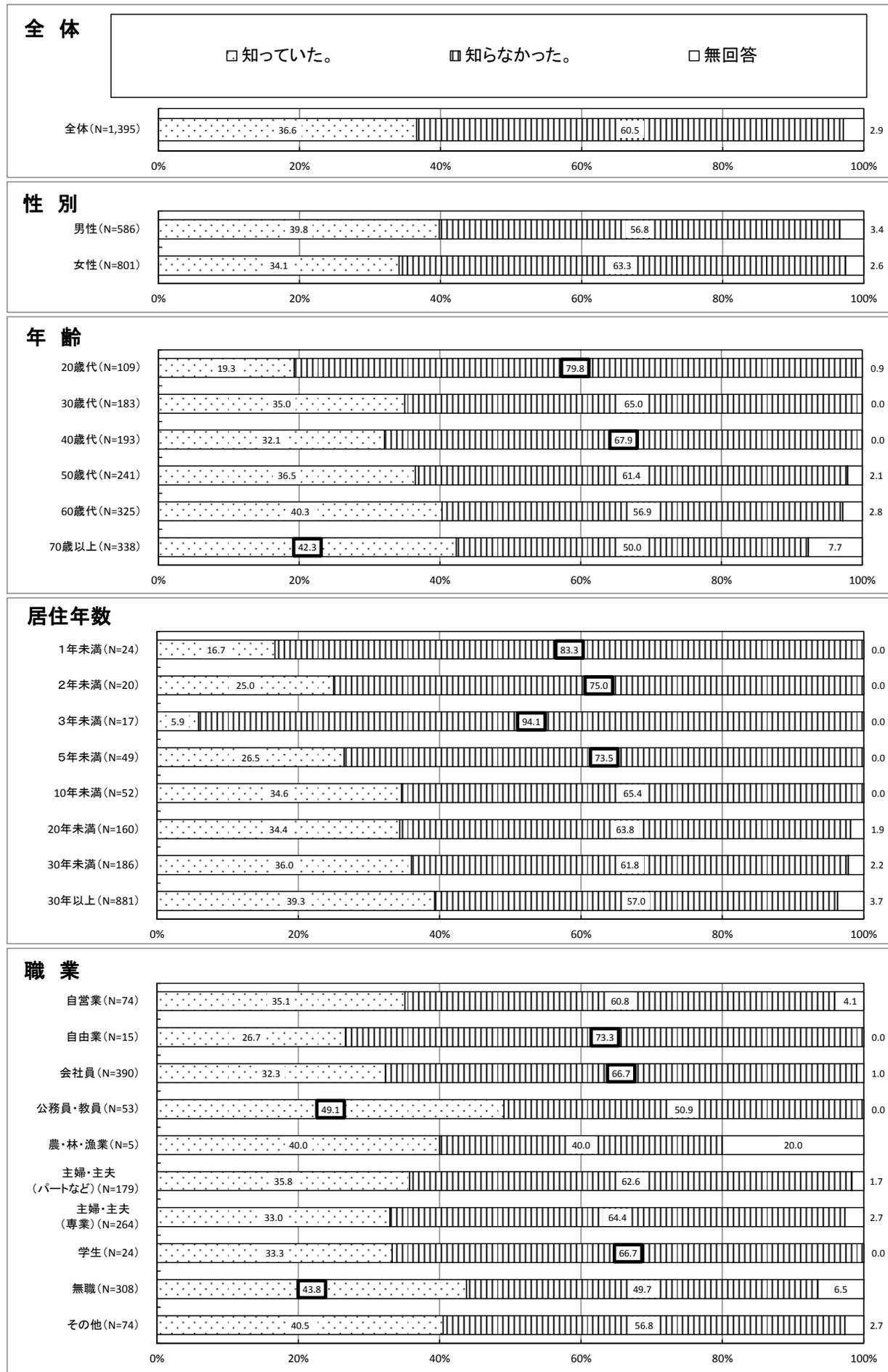
N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 知っていた	510	36.6
2 知らなかった	844	60.5
無回答	41	2.9

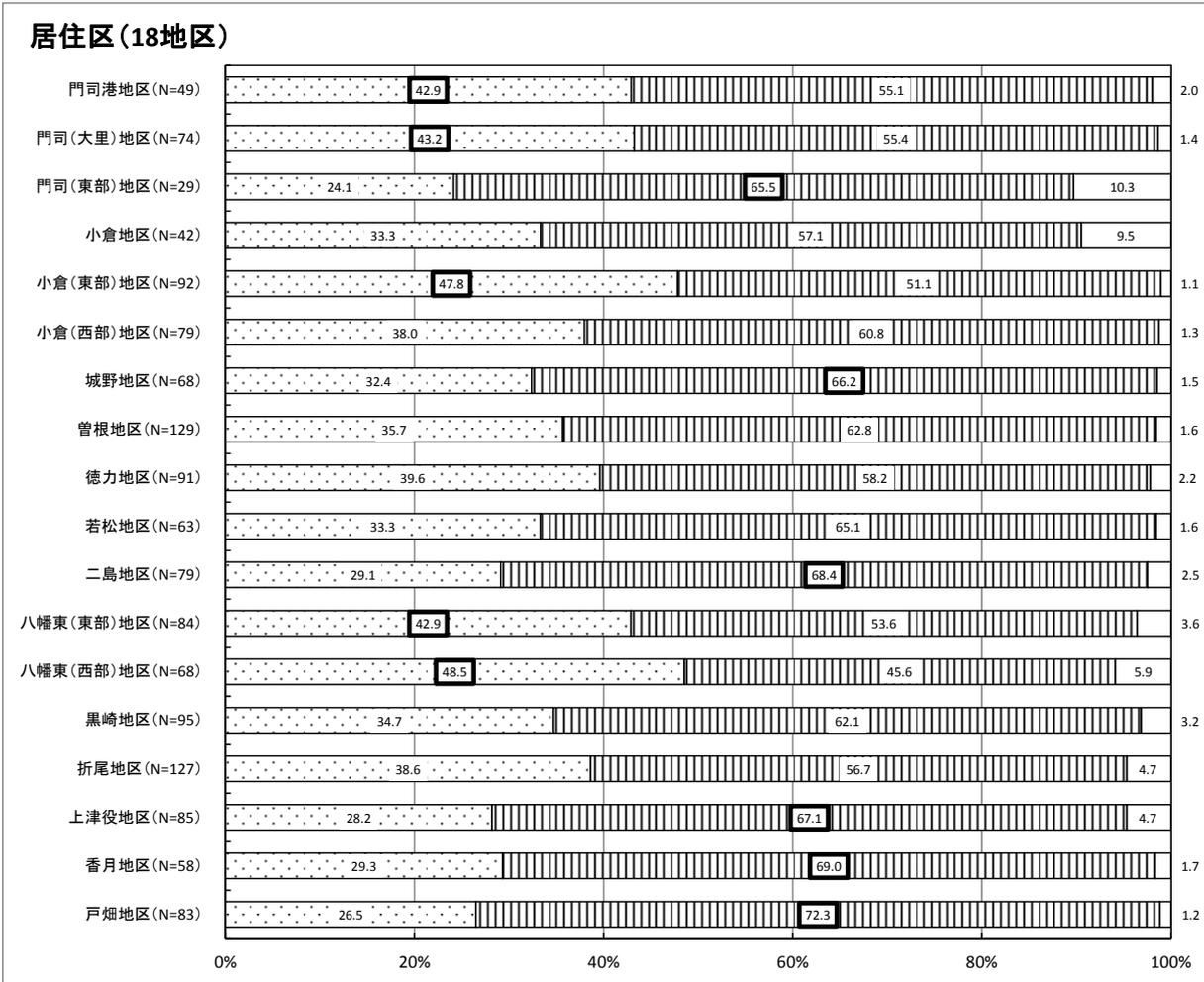
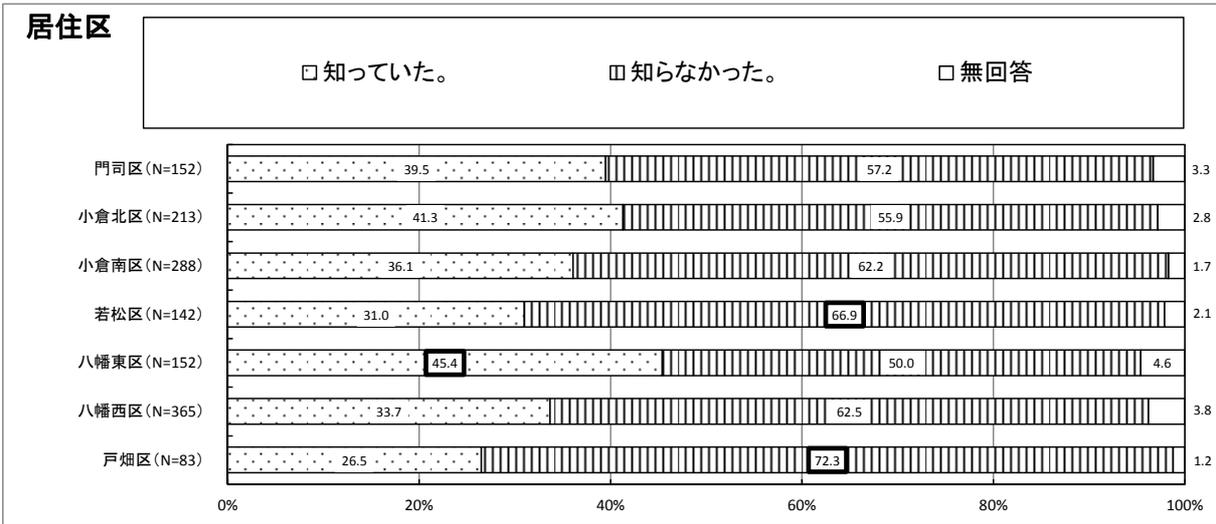
◇ 「モラル・マナーアップ関連条例」を約6割の市民が「知らなかった」としている。



問5 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について

【全体的傾向】

「モラル・マナーアップ関連条例」を知っているかについて、尋ねてみた。
その結果、「知らなかった」(60.5%)が約6割を占めた。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、「知っていた」は、男性（39.8%）が、女性（34.1%）をやや上回った。
- ◇ 年齢別では、「知っていた」が最も多かったのは70歳以上（42.3%）で、次いで60歳代（40.3%）が続き、これらの高年齢層で4割を上回った。一方で、最も少ないのは20歳代（19.3%）で、次いで少ない40歳代（32.1%）との差は12.8ポイントと、他の年齢層と比べて特に少なかった。
- ◇ 居住年数別では、「知っていた」が最も多かったのは30年以上（39.3%）で、次いで、30年未満（36.0%）、10年未満（34.6%）、20年未満（34.4%）の順で続き、これらの居住年数層は3割を上回り、居住歴が長い年齢層で多かった。一方、最も少なかったのは3年未満（5.9%）で、唯一1割を下回った。
- ◇ 職業別では、「知っていた」は公務員・教員（49.1%）が最も多く、次いで、無職（43.8%）、その他（40.5%）と続き、これらの職業層で4割を上回った。最も少なかったのは、自由業（26.7%）で唯一3割を下回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「知っていた」が最も多かったのは八幡東区（45.4%）で、次いで小倉北区（41.3%）、門司区（39.5%）が続いた。最も少なかったのは、戸畑区（26.5%）で、唯一3割を下回り、区による違いが見られた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「知っていた」が最も多かったのは、八幡東（西部）地区（48.5%）で、次いで小倉（東部）地区（47.8%）、門司（大里）地区（43.2%）、門司港地区及び八幡東（東部）地区（42.9%）と続いた。行政区の八幡東地区は区内全体で「知っている」の割合が比較的多かった。一方、「知っていた」が最も少なかったのは、門司（東部）地区（24.1%）で、行政区の門司区では、区内で違いがみられた。

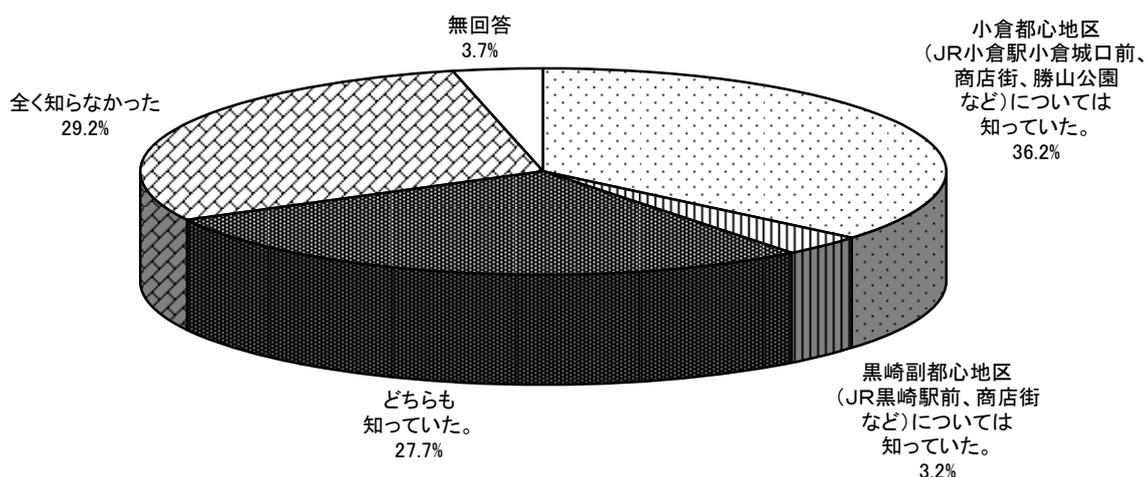
(6) 「迷惑行為防止重点地区」の認知度

問6 「路上喫煙」や「ごみのポイ捨て」などの迷惑行為を行った場合、条例に基づき過料1,000円が徴収される「迷惑行為防止重点地区」についてご存知でしたか。次の中から1つだけ選んでください。

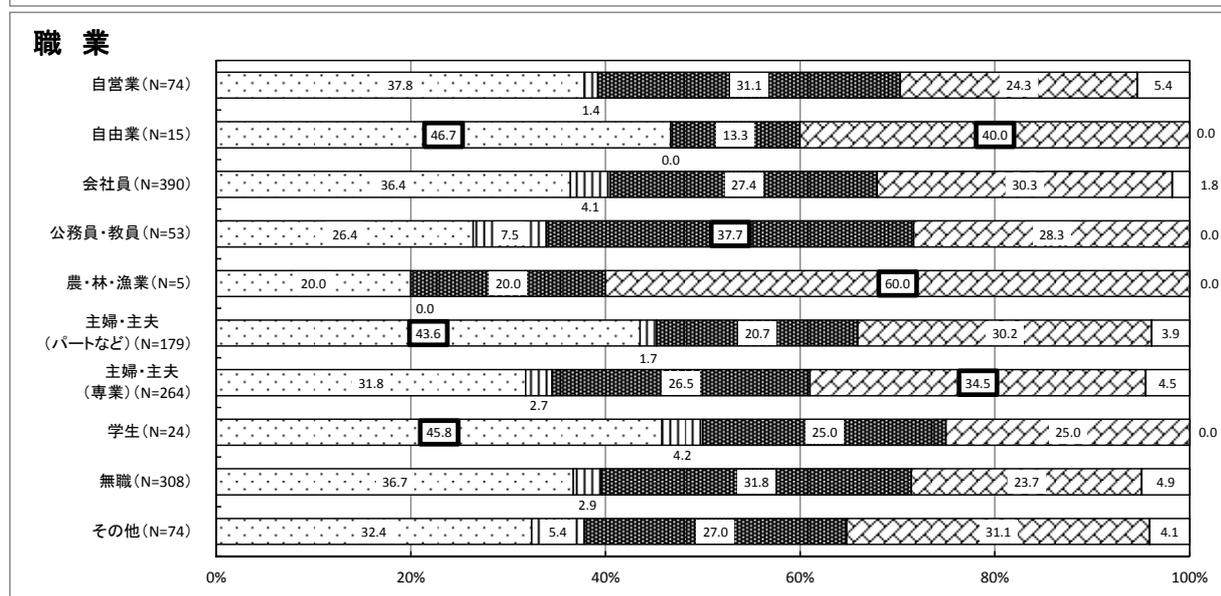
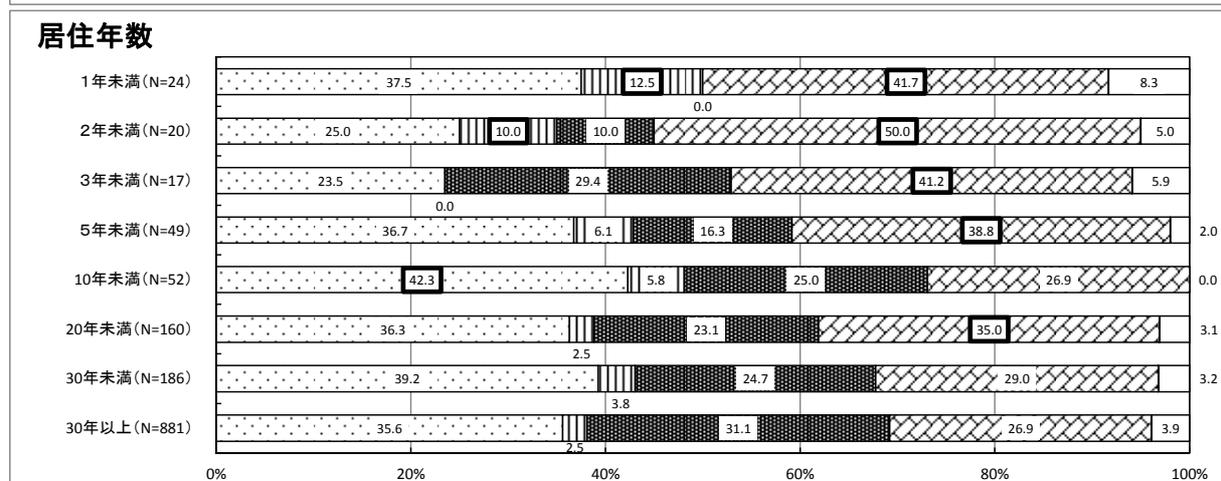
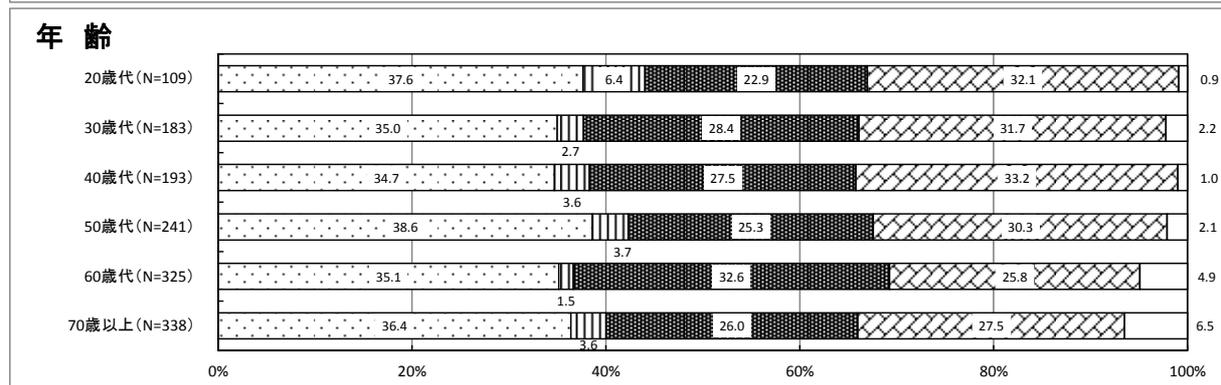
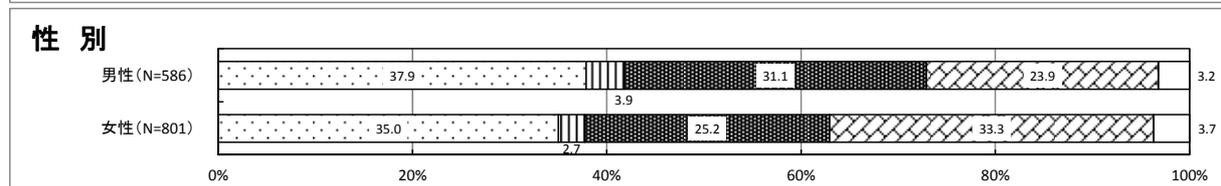
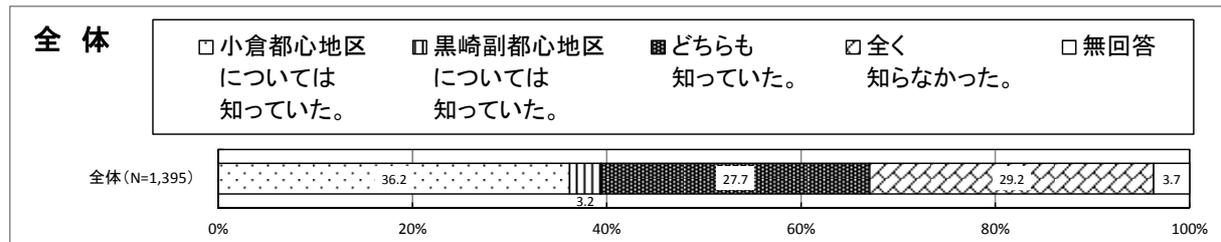
N : 1,395人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた	505	36.2
2 黒崎副都心地区(JR黒崎駅前、商店街など)については知っていた	45	3.2
3 どちらも知っていた	386	27.7
4 全く知らなかった	408	29.2
無回答	51	3.7

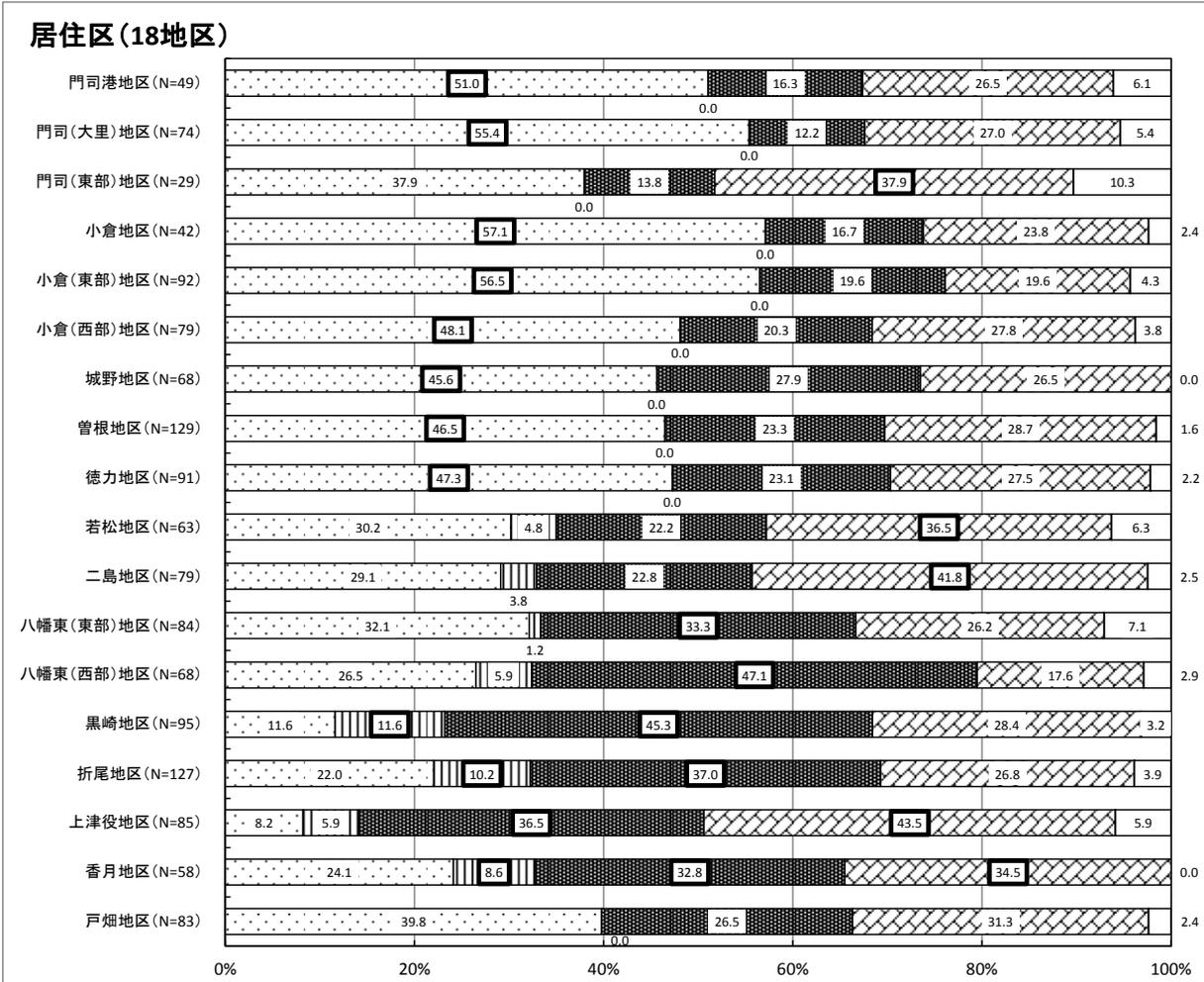
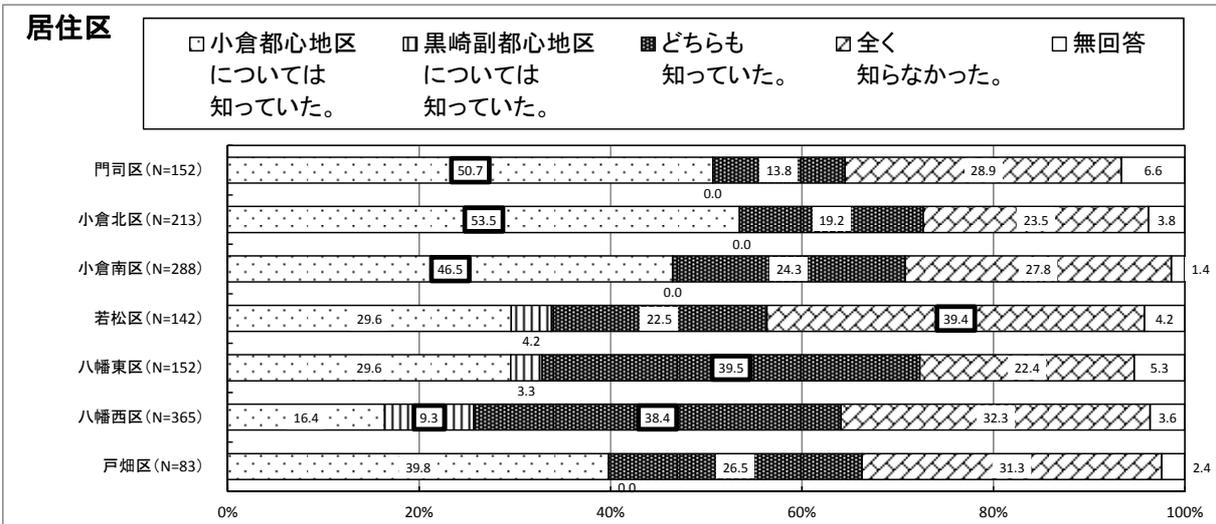
◇ 4割弱の市民が、「小倉都心地区(JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など)については知っていた」。



問6 「迷惑行為防止重点地区」の認知度



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」の認知度

【全体的傾向】

「迷惑行為防止重点地区」について、知っているか尋ねてみた。

最も多かったのが、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」で36.2%となった。次いで「全く知らなかった」（29.2%）、「どちらも知っていた」（27.7%）の順になった。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」は、男女ともに最も多く、男性（37.9%）が女性（35.0%）をわずかに上回った。次いで多かったのは、男性は「どちらも知っていた」（31.1%）に対し、女性は「全く知らなかった」（33.3%）だった。
- ◇ 年齢別でも、すべての年齢層で「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が最も多かった。50歳代（38.6%）を筆頭に、20歳代（37.6%）、70歳以上（36.4%）、60歳代（35.1%）と続き、最も少ないのは40歳代（34.7%）で、最も多い50歳代との差は3.9%と、年齢層による大きな差は見られなかった。「まったく知らなかった」が最も多かったのは、40歳代（33.2%）で、「どちらも知っていた」が最も多かったのは60歳代（32.6%）だった。
- ◇ 居住年数別では、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」は10年未満（42.3%）で最も多く、次いで、30年未満（39.2%）、1年未満（37.5%）の順で続いた。「まったく知らなかった」が最も多かったのは、2年未満（50.0%）で唯一5割台となっており、次いで、3年未満（41.2%）、1年未満（41.7%）と続き、居住歴が短い層で多い傾向にあった。「どちらも知っていた」は30年以上（31.1%）が最も多く、次いで、3年未満（29.4%）、10年未満（25.0%）と続き、最も少ない1年未満は0.0%と回答した人がいなかった。
- ◇ 職業別では、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が最も多かったのは、自由業（46.7%）で、次いで学生（45.8%）、主婦・主夫（パートなど）（43.6%）が続き、これらは4割を上回った。一方、最も少なかったのは公務員・教員（26.4%）で唯一3割を下回った。「どちらも知っていた」が最も多かったのは、公務員・教員（37.7%）で、次いで無職（31.8%）、自営業（31.1%）が続き、これらは3割を上回った。「まったく知らなかった」は、自由業（40.0%）で最も多く、唯一4割台であった。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が多かったのは、地域柄、小倉北区（53.5%）は最も多く、次いで門司区（50.7%）と続き、これらの区は5割を上回った。最も少ないのは、八幡西区（16.4%）で、最も多い小倉北区との差は37.1ポイントと、区による違いが大きい。「黒崎副都心地区については知っていた」も、地域柄、八幡西区（9.3%）が最も多かった。「どちらも知っていた」は、八幡東区（39.5%）が最も多く、次いで八幡西区（38.4%）が続き、これらの2区は3割を上回った。「まったく知らなかった」が最も多かったのは、若松区（39.4%）だった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が多かったのは、小倉地区（57.1%）、小倉（東部）地区（56.5%）、門司（大里）地区（55.4%）、門司港地区（51.0%）で、これらの地区は5割を上回った。「どちらも知っている」は、八幡東（西部）地区（47.1%）が最も多く、次いで、黒崎地区（45.3%）が続き、これらの2地区で4割を上回った。「全く知らなかった」は、上津役地区（43.5%）で最も多く、次いで、二島地区（41.8%）が続き、この2地区は4割を上回った。

(6) - 1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状

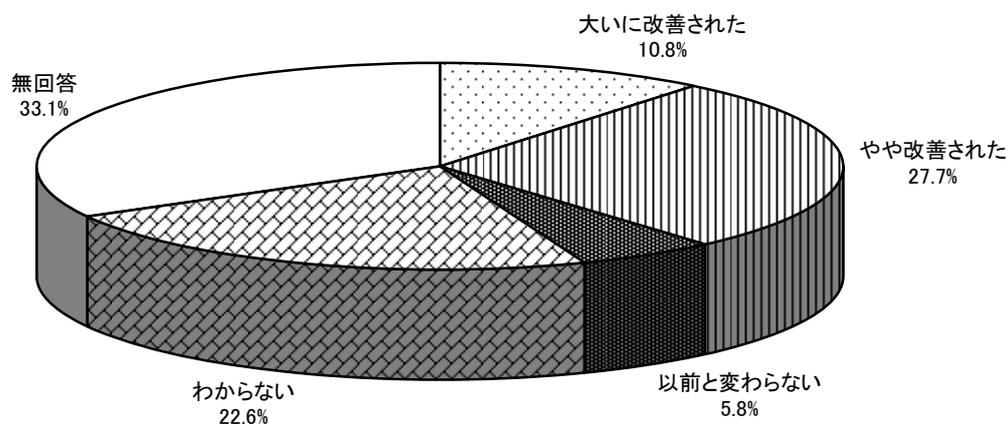
副問6-1 4「全く知らなかった」以外の回答をした方におたずねします。
 迷惑行為防止重点地区における迷惑行為の現状をどう思いますか。地区ごとの該当欄に1つつつ〇をつけてください。

①小倉都心地区

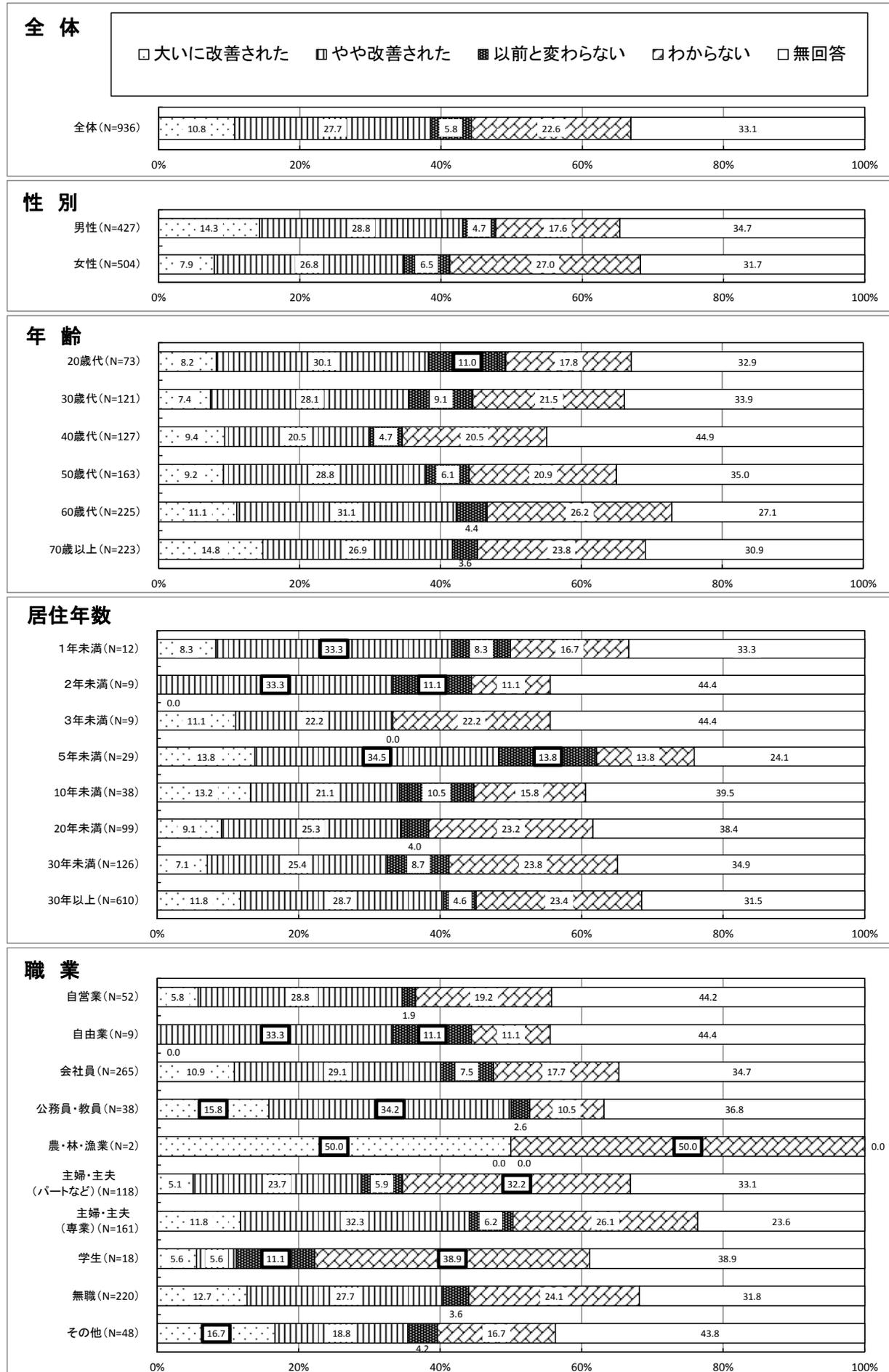
N : 936人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 大いに改善された	101	10.8
2 やや改善された	259	27.7
3 以前と変わらない	54	5.8
4 わからない	212	22.6
無回答	310	33.1

- ◇ 迷惑行為防止重点地区を知っている市民の3割弱が、「小倉都心地区」の迷惑行為は「やや改善された」と感じている。
- ◇ 「大いに改善された」(10.8%)と「やや改善された」(27.7%)を合わせた『改善された』は4割弱。



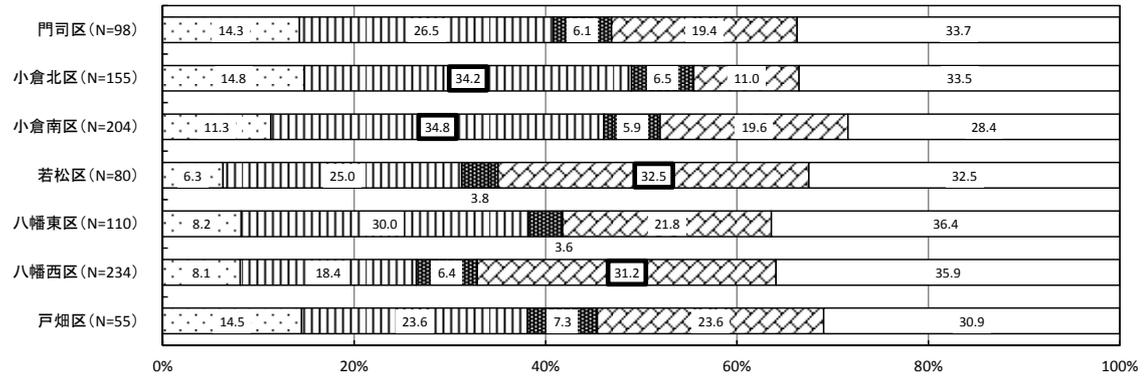
副問 6-1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ①小倉都心地区



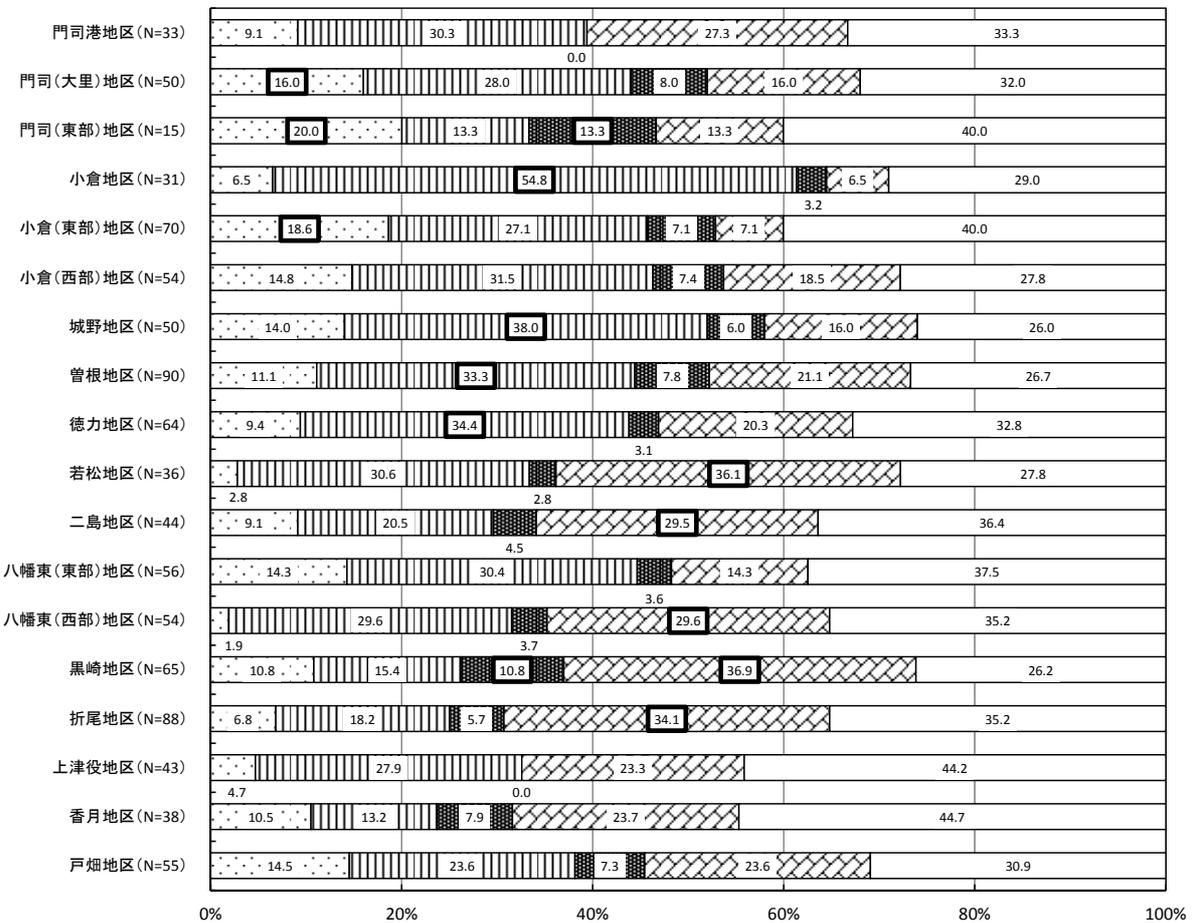
(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住区

□ 大いに改善された □ やや改善された ■ 以前と変わらない □ わからない □ 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ①小倉都心地区

【全体的傾向】

この設問では、「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「小倉都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねてみた。

最も多かったのが、「やや改善された」(27.7%)で、次いで「わからない」(22.6%)、「大いに改善された」(10.8%)の順になった。「大いに改善された」と「やや改善された」を合わせた『改

善された』は38.5%で、4割弱を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、男性は「やや改善された」(28.8%)が最も多く、女性は「わからない」(27.0%)が最も多かった(「無回答」を除く。以降同様)。『改善された』は、男性(43.1%)が女性(34.7%)を上回り、男性のほうが肯定的な傾向にあった。
- ◇ 年齢別では、「やや改善された」が最も多かったのは60歳代(31.1%)で、次いで20歳代(30.1%)、50歳代(28.8%)、30歳代(28.1%)と続いた。『改善された』は、60歳代(42.2%)が最も多く、次いで70歳以上(41.7%)と続き、これらの年齢層で4割を上回り、高年層で比較的肯定的な傾向が見られた。一方、「わからない」が最も多かったのは60歳代(26.2%)で、次いで70歳以上(23.8%)、30歳代(21.5%)が続いた。「以前と変わらない」は20歳代(11.0%)が最も多く、唯一1割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「やや改善された」が最も多かったのは、5年未満(34.5%)で、次いで、1年未満及び2年未満(33.3%)が続き、居住歴が短い層でやや割合が多かった。『改善された』は、5年未満(48.3%)が最も多く、次いで、1年未満(41.6%)、30年以上(40.5%)と続いた。「わからない」が多かったのは、30年未満(23.8%)、30年以上(23.4%)、20年未満(23.2%)、3年未満(22.2%)で、これらの居住年数層で2割を上回った。
- ◇ 職業別では、サンプル数が10人未満であった自由業については、コメントでは触れないことにする。「やや改善された」が最も多かったのは、公務員・教員(34.2%)で、次いで、主婦・主夫(専業)(32.3%)が続き、これらは3割を上回った。『改善された』も公務員・教員(50.0%)で最も多く、次いで、主婦・主夫(専業)(44.1%)、無職(40.4%)、会社員(40.0%)と続き、これらの職業層では4割以上であった。「わからない」は、学生(38.9%)で最も多く、次いで、主婦・主夫(パートなど)(32.2%)が続き、これらの職業層では3割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「やや改善された」は、小倉南区(34.8%)で最も多く、次いで、小倉北区(34.2%)、八幡東区(30.0%)と続き、これら3区は3割台であった。『改善された』は小倉北区(49.0%)で最も多く、次いで、小倉南区(46.1%)、門司区(40.8%)で続いた。「わからない」は、若松区(32.5%)が最も多く、次いで、八幡西区(31.2%)が続き、これらの2区は3割を上回った。

行政区を18地区に細分化して見ると、「やや改善された」は小倉地区(54.8%)で最も多く、続く城野地区(38.0%)との差は16.8ポイントと、突出している。『改善された』も小倉地区(61.3%)が最も多く、城野地区(52.0%)、小倉(西部)地区(46.3%)、小倉(東部)地区(45.7%)、八幡東(東部)地区(44.7%)、曾根地区(44.4%)、門司(大里)地区(44.0%)、徳力(43.8%)で4割を上回った。「わからない」は、黒崎地区(36.9%)、若松地区(36.1%)、折尾地区(34.1%)で多く、これらの地区で3割を上回った。「以前と変わらない」は、門司(東部)地区(13.8%)で最も多く、次いで、黒崎地区(10.8%)が続き、これらの2区で1割を上回った。

(6) - 1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状

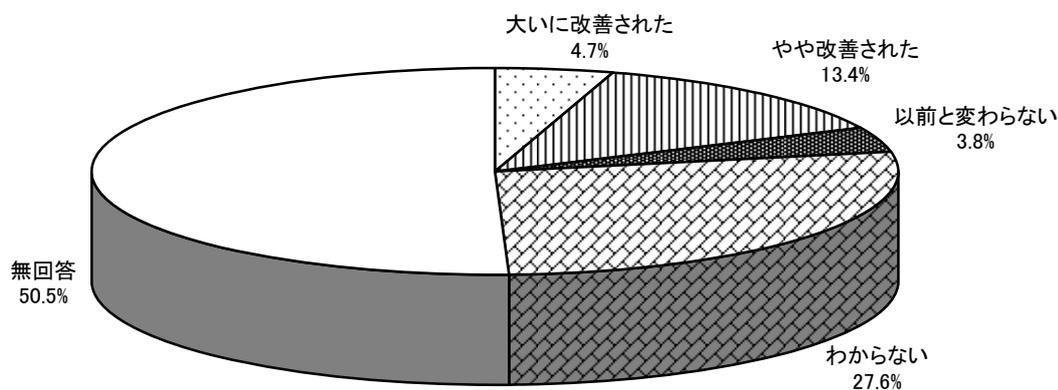
副問6-1 4 「全く知らなかった」以外の回答をした方におたずねします。
 迷惑行為防止重点地区における迷惑行為の現状をどう思いますか。地区ごとの該当欄に1つずつ○をつけてください。

②黒崎副都心地区

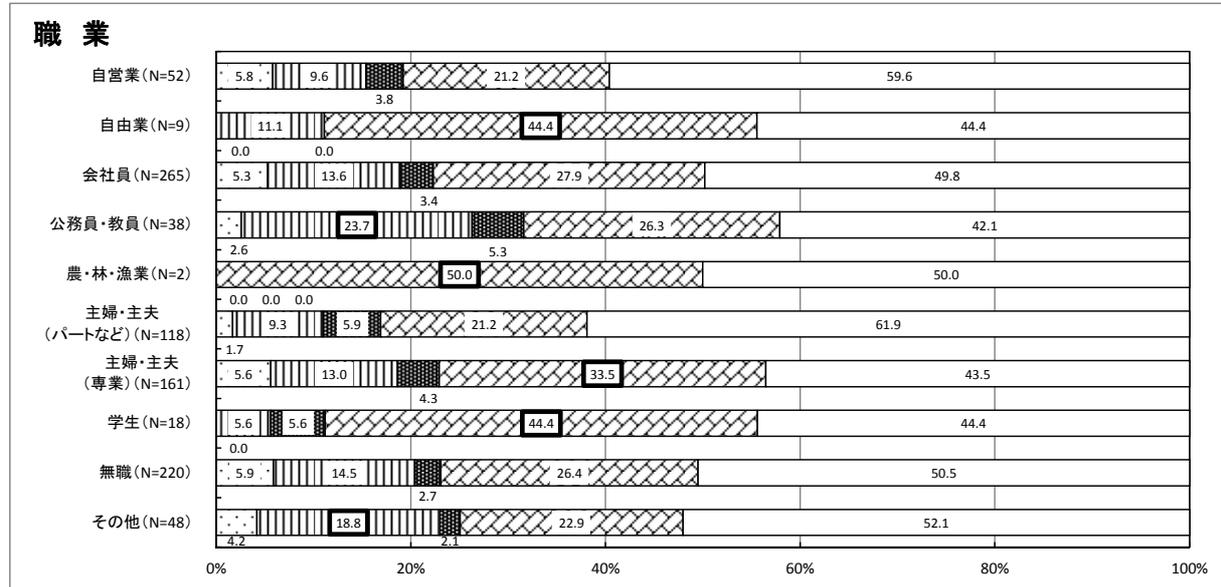
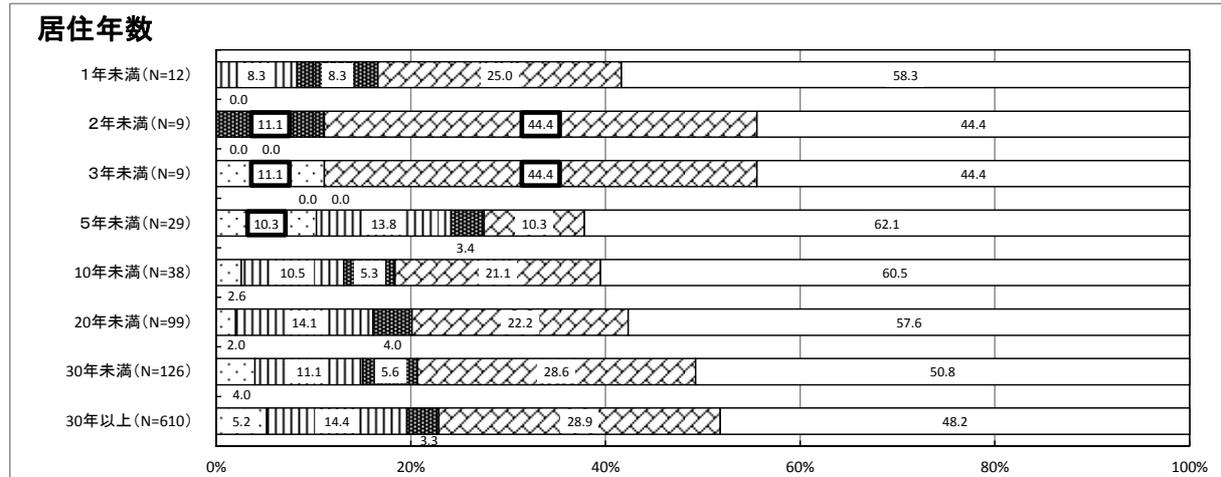
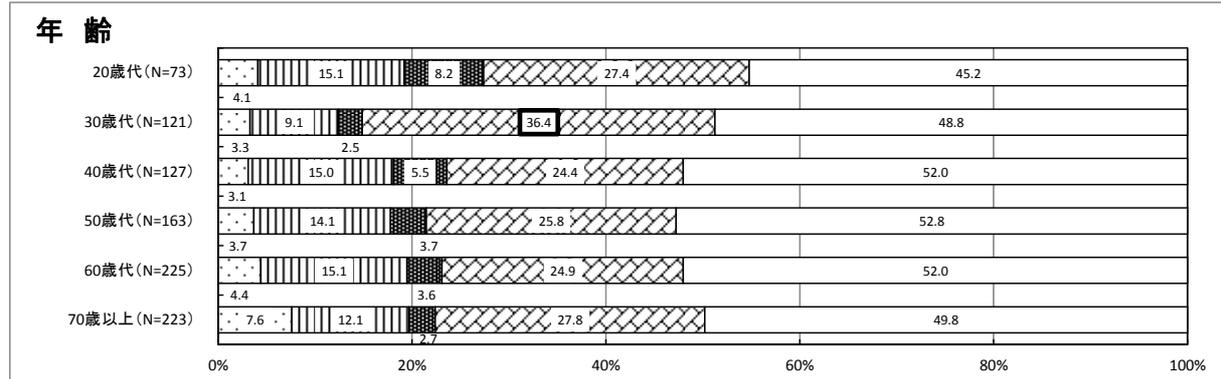
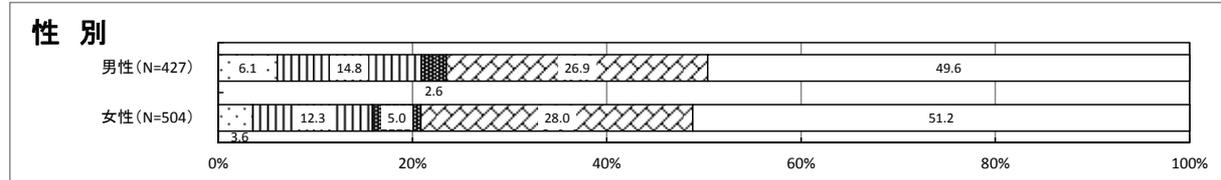
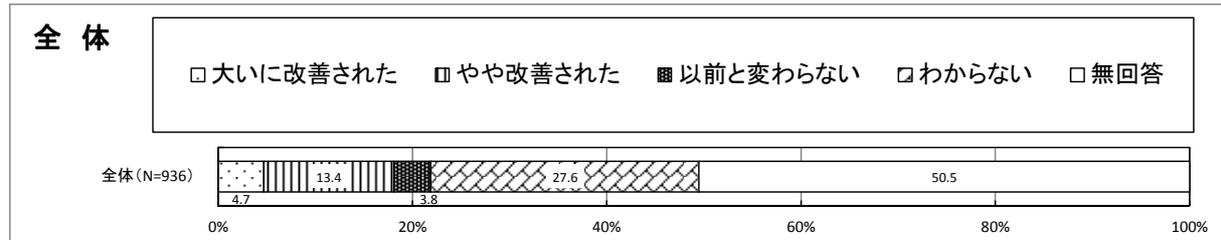
N : 936 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 大いに改善された	44	4.7
2 やや改善された	125	13.4
3 以前と変わらない	36	3.8
4 わからない	258	27.6
無回答	473	50.5

- ◇ 迷惑行為防止重点地区を知っている市民の3割弱が、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状が「わからない」。
- ◇ 「大いに改善された」(4.7%)と「やや改善された」(13.4%)を合わせた『改善された』は2割弱。



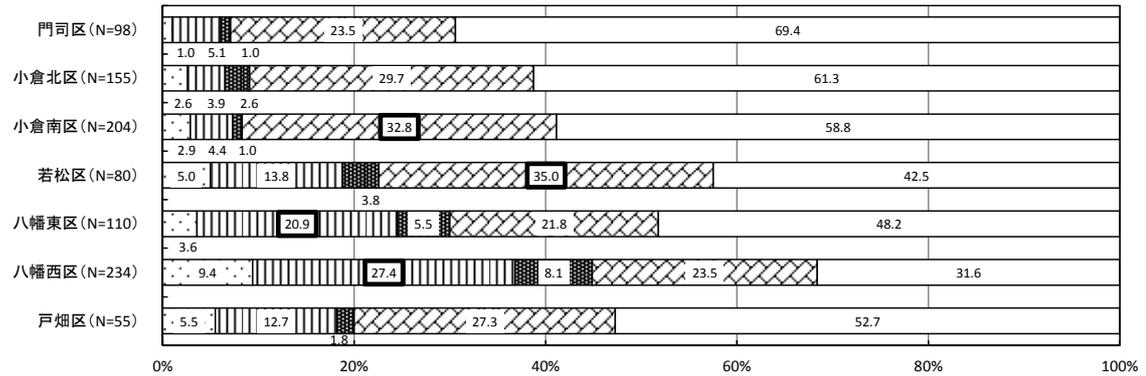
副問6-1 「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ②黒崎副都心地区



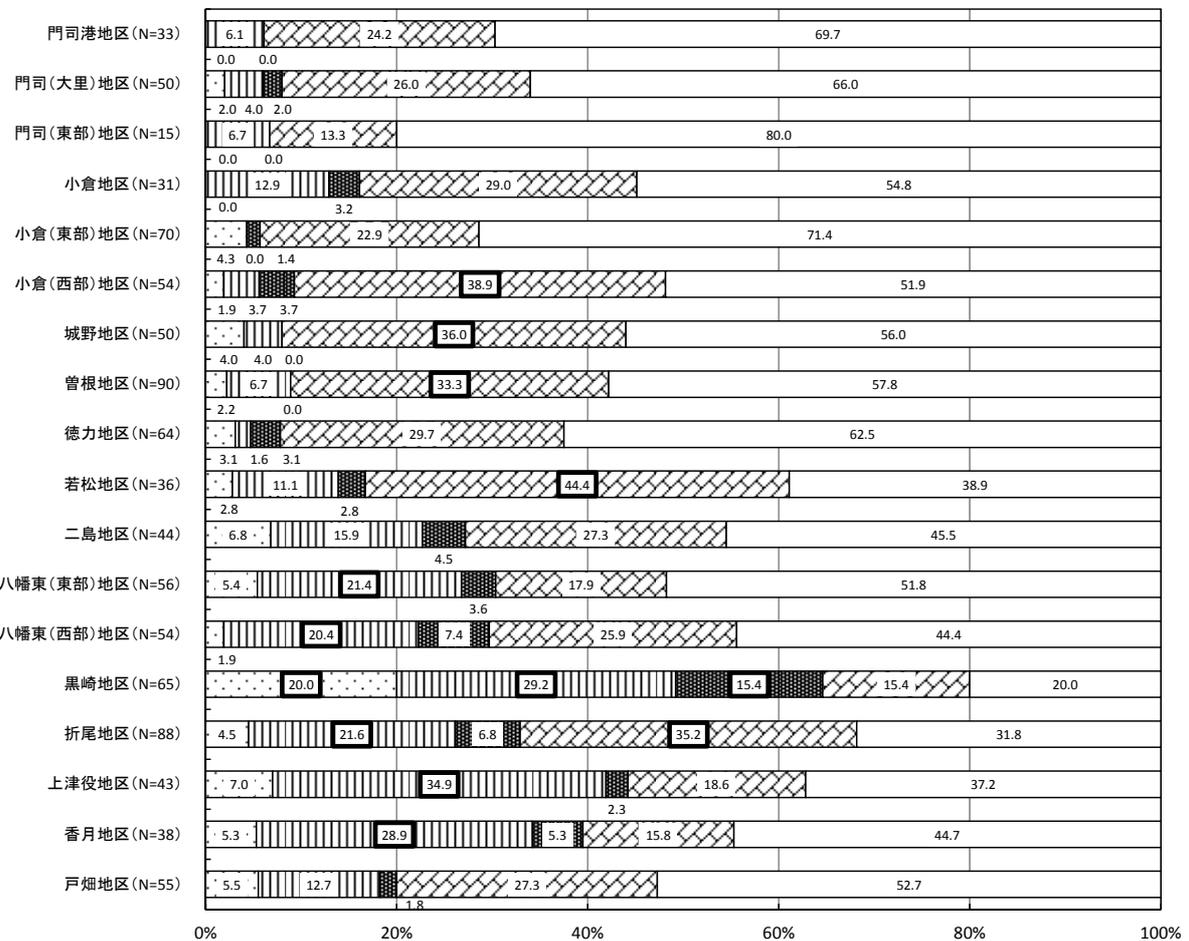
(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住区

□ 大いに改善された □ やや改善された ■ 以前と変わらない □ わからない □ 無回答



居住区(18地区)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止重点地区」における迷惑行為の現状 ②黒崎副都心地区

【全体的傾向】

同じく、「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねてみた。

最も多かったのが「わからない」(27.6%)で、次いで「やや改善された」(13.4%)、「大いに改善された」(4.7%)の順になっている。「大いに改善された」と「やや改善された」を合わせた

『改善された』は18.1%で、2割弱となった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「わからない」が男性（26.9%）・女性（28.0%）ともに最も多く、割合はやや女性が男性を上回った。「やや改善された」は、男性（14.8%）が女性（12.3%）を幾分上回り、『改善された』も、男性（20.9%）が女性（15.9%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、すべての年代で「わからない」が最も多く、30歳代（36.4%）で唯一3割を上回った。「やや改善された」は、20歳代と60歳代が同率の15.1%で最も多く、以後40歳代（15.0%）、50歳代（14.1%）、70歳以上（12.1%）、30歳代（9.1%）の順となった。『改善された』は、70歳以上（19.7%）が最も多く、30歳代（12.4%）が最も少なく、その差は7.3ポイントと年齢層による大きな違いは見られなかった。
- ◇ 居住年数別では、サンプル数が10人未満であった2年未満、3年未満についてはコメントでは触れないことにする。ほとんどの年数層で「わからない」が最も多く、割合では30年以上（28.9%）が最も多く、5年未満（10.3%）が最も少なかった。「やや改善された」は30年以上（14.4%）で最も多く、次いで20年未満（14.1%）、5年未満（13.8%）と続いた。『改善された』は、5年未満（24.1%）が最も多く、唯一2割を上回った。一方、1年未満（8.3%）が最も少なく、唯一1割を下回った。
- ◇ 職業別では、サンプル数が10人未満であった自由業については、コメントでは触れないことにする。すべての職業で「わからない」が最も多く、中でも学生（44.4%）は、4割を上回った。一方、最も少なかったのは、自営業及び主婦・主夫（パートなど）（21.2%）だった。「やや改善された」が最も多かったのは、公務員・教員（23.7%）で、唯一2割を上回った。最も少なかったのは学生（5.6%）で、次いで、主婦・主夫（パートなど）（9.3%）、自営業（9.6%）で、これらの職業層では1割を下回った。『改善された』も、教員・公務員（26.3%）が最も多く、次いで、その他（23.0%）、無職（20.4%）と続き、これらの職業層で2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、ほとんどの区で「わからない」が最も多く、その中で、若松区（35.0%）、小倉南区（32.8%）が3割を上回った。一方、八幡東区（21.8%）が最も少なかった。「やや改善された」は八幡西区（27.4%）が最も多く、次いで八幡東区（20.9%）が続き、この2区は2割を上回った。『改善された』は、八幡西区（36.8%）で最も多く、次いで八幡東区（24.5）と続いた。一方、門司区（6.1%）、小倉北区（6.5%）、小倉南区（7.3%）は1割を下回り、区による違いがみられた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「わからない」が最も多いのは若松地区（44.4%）で、次いで、小倉（西部）地区（38.9%）、城野地区（36.0%）、折尾地区（35.2%）の順で続いた。最も少ないのは門司（東部）地区（13.3%）で、次いで、黒崎地区（15.4%）、香月地区（15.8%）と続いた。『改善された』は、黒崎地区（49.2%）が最も多く、次いで、上津役地区（41.9%）が続き、これらの2地区で4割を上回った。一方、小倉（東部）地区（4.3%）と徳力地区（4.7%）では特に少なく、5%に満たなかった。

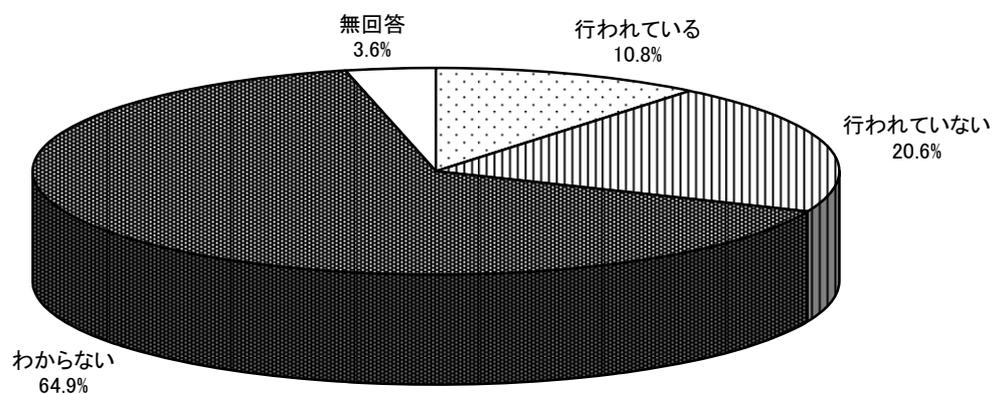
(7) 居住地域における迷惑行為防止活動の有無

問7 あなたのお住まいの地域で、迷惑行為の防止のための活動が行われていますか。次の中から1つだけ選んでください。

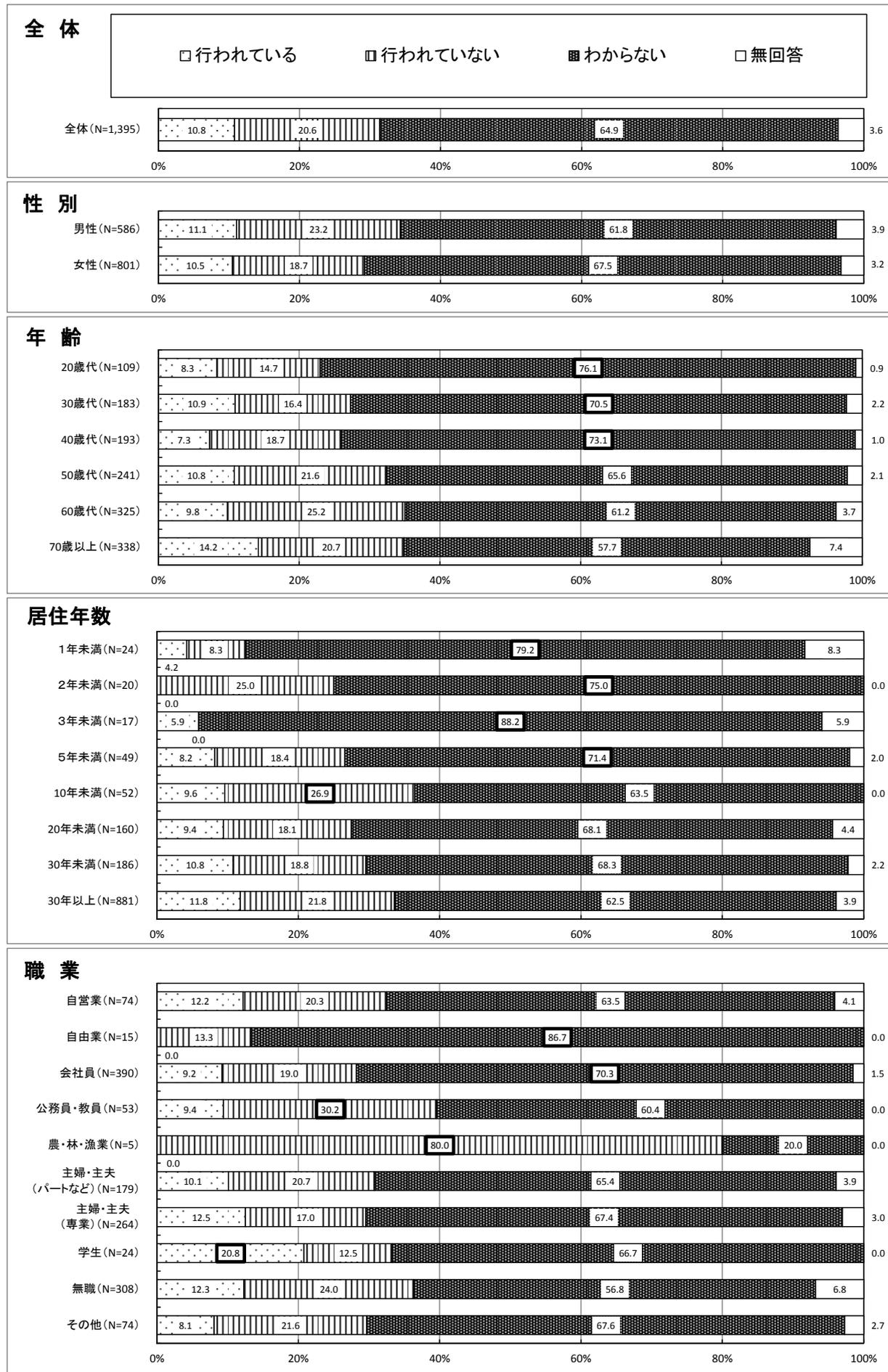
N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 行われている	151	10.8
2 行われていない	288	20.6
3 わからない	906	64.9
無回答	50	3.6

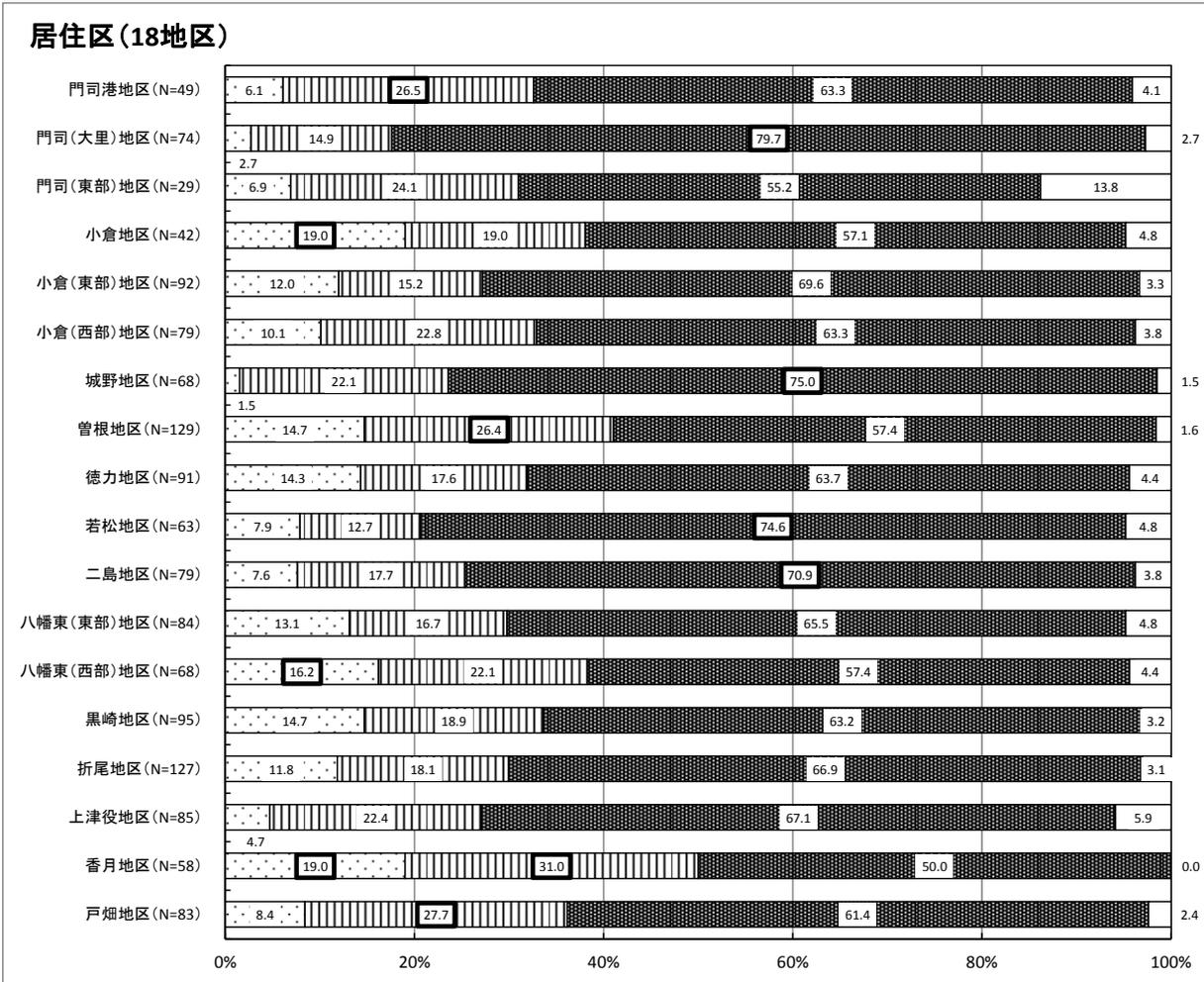
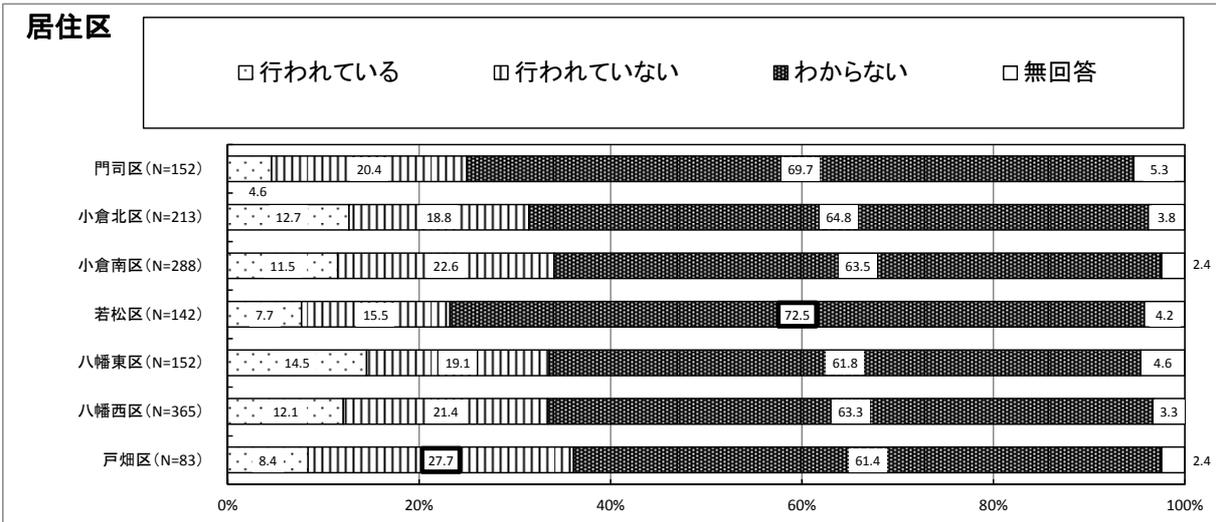
◇ 6割強の市民が、迷惑行為の防止のための活動が行われているかが「わからない」。



問7 居住地域における迷惑行為防止活動の有無



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住地域における迷惑行為防止活動の有無

【全体的傾向】

この設問では、お住まいの地域で迷惑行為防止のための活動が行われているかを尋ねてみた。その結果、「わからない」(64.9%)が最も多く、6割強を占めている。次いで、「行われていない」(20.6%)、「行われている」(10.8%)の順になった。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「わからない」が男性（61.8%）・女性（67.5%）ともに最も多く、女性が男性を上回った。「行われていない」は男性（23.2%）が女性（18.7%）を上回り、「行われている」も男性（11.1%）が女性（10.5%）をやや上回っている。
- ◇ 年齢別では、「わからない」が20歳代（76.1%）で最も多く、次いで、40歳代（73.1%）、30歳代（70.5%）と続き、これらの年齢層で7割を上回った。最も少なかったのは70歳以上（57.7%）で、全ての年齢層で5割を上回った。「行われていない」が最も多かったのは60歳代（25.2%）で、次いで50歳代（21.6%）、70歳以上（20.7%）が続き、これらの年齢層は2割を上回った。
- ◇ 居住年数別では、「わからない」が3年未満（88.2%）で最も多く、次いで、1年未満（79.2%）、2年未満（75.0%）、5年未満（71.4%）と続き、これらの居住年数層で7割を上回り、居住歴が短い層で多い傾向にあった。「行われていない」は、10年未満（26.9%）で最も多く、次いで、2年未満（25.0%）、30年以上（21.8%）と続き、3年未満（0.0%）は回答した人がいなかった。「行われている」は30年以上（11.8%）で最も多く、次いで、30年未満（10.8%）と続き、居住年数が長い層で比較的多かった。
- ◇ 職業別では、「わからない」は自由業（86.7%）で最も多く、8割を上回った。次いで、会社員（70.3%）、その他（67.6%）、主婦・主夫（専業）（67.4%）、学生（66.7%）、主婦・主夫（パートなど）（65.4%）の順で続いた。「行われていない」は、公務員・教員（30.2%）で最も多く、唯一3割を上回った。「行われている」は、学生（20.8%）で最も多く、2割を上回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、すべての区で「わからない」が最も多く、特に若松区（72.5%）は唯一7割を上回った。最も少ないのは戸畑区（61.4%）で、全ての区で6割を上回った。「行われていない」は、戸畑区（27.7%）で最も多く、「行われている」は、八幡東区（14.5%）で最も多かった。

行政区を18地区に細分化して見ると、「わからない」が最も多かったのは門司（大里）地区（79.7%）で、次いで、城野地区（75.0%）、若松地区（74.6%）、二島地区（70.9%）と続き、これらの地区は7割を上回った。最も少なかったのは、香月地区（50.0%）で、全ての区で半数以上となった。「行われていない」は、香月地区（31.0%）で最も多く、唯一3割を上回った。「行われている」は、小倉地区及び香月地区（19.0%）で最も多かった。

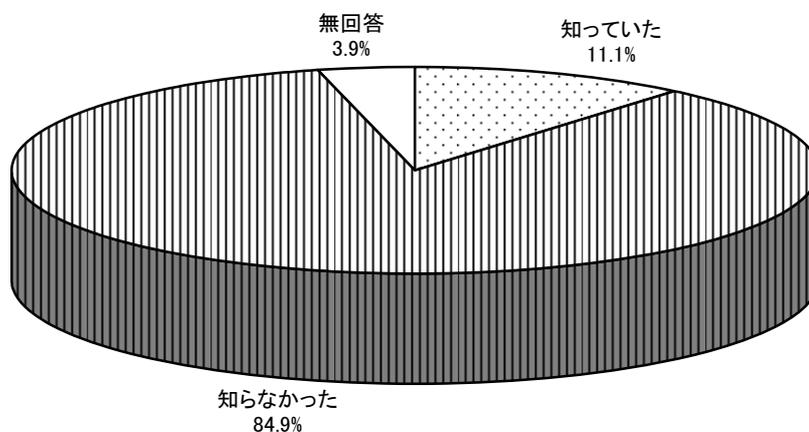
(8) 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度

問8 地域団体による迷惑行為の防止に向けた活動を市が支援する「迷惑行為防止活動推進地区」として、市内に5地区（門司港レトロ地区、若松南海岸地区、下曾根駅南側大通り地区、八幡駅前地区、戸畑駅前浅生地区）を指定していますが、「迷惑行為防止活動推進地区」についてご存知でしたか。

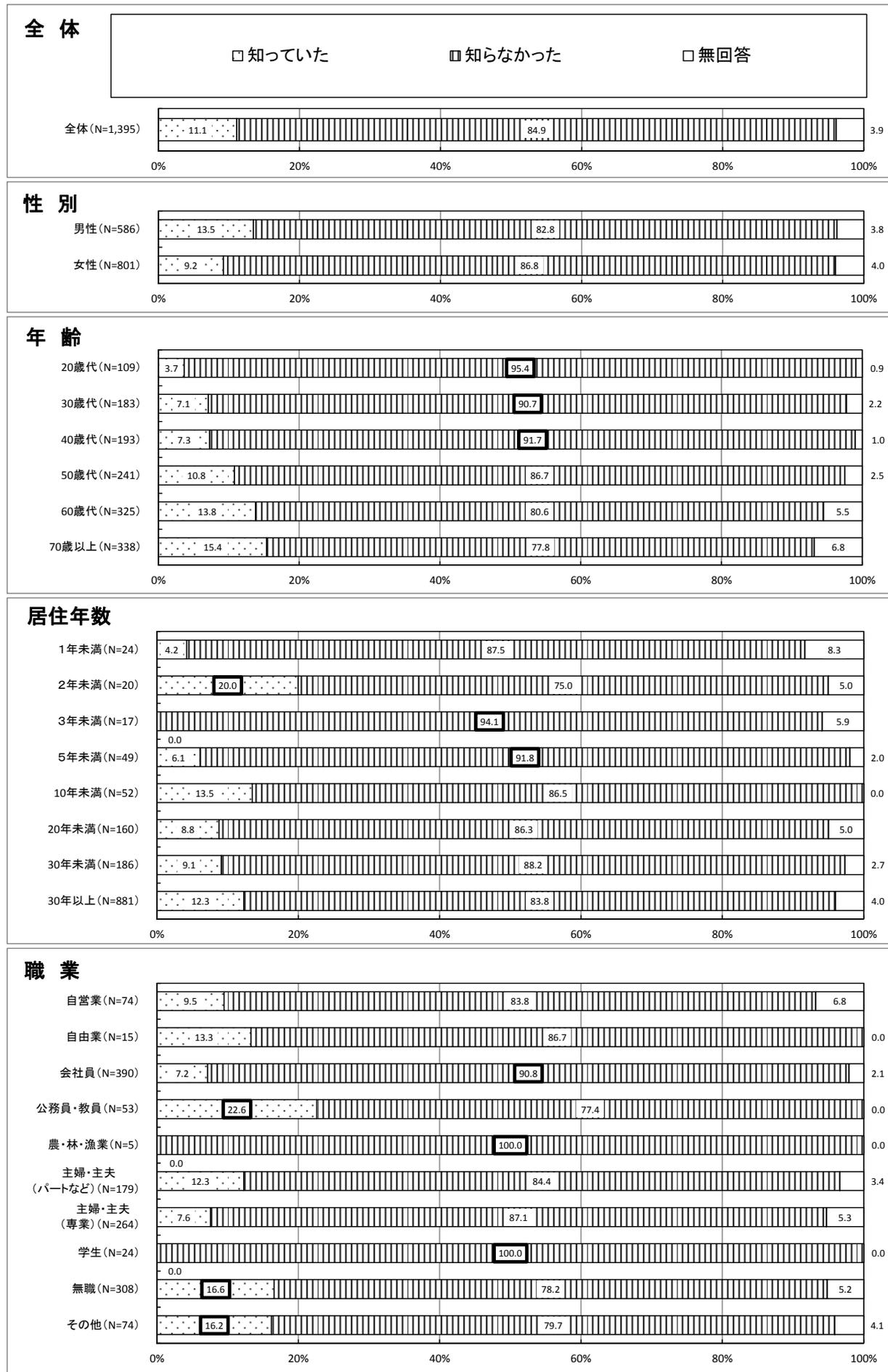
N : 1,395 人

項目	回答数（人）	割合（％）
1 知っていた	155	11.1
2 知らなかった	1,185	84.9
無回答	55	3.9

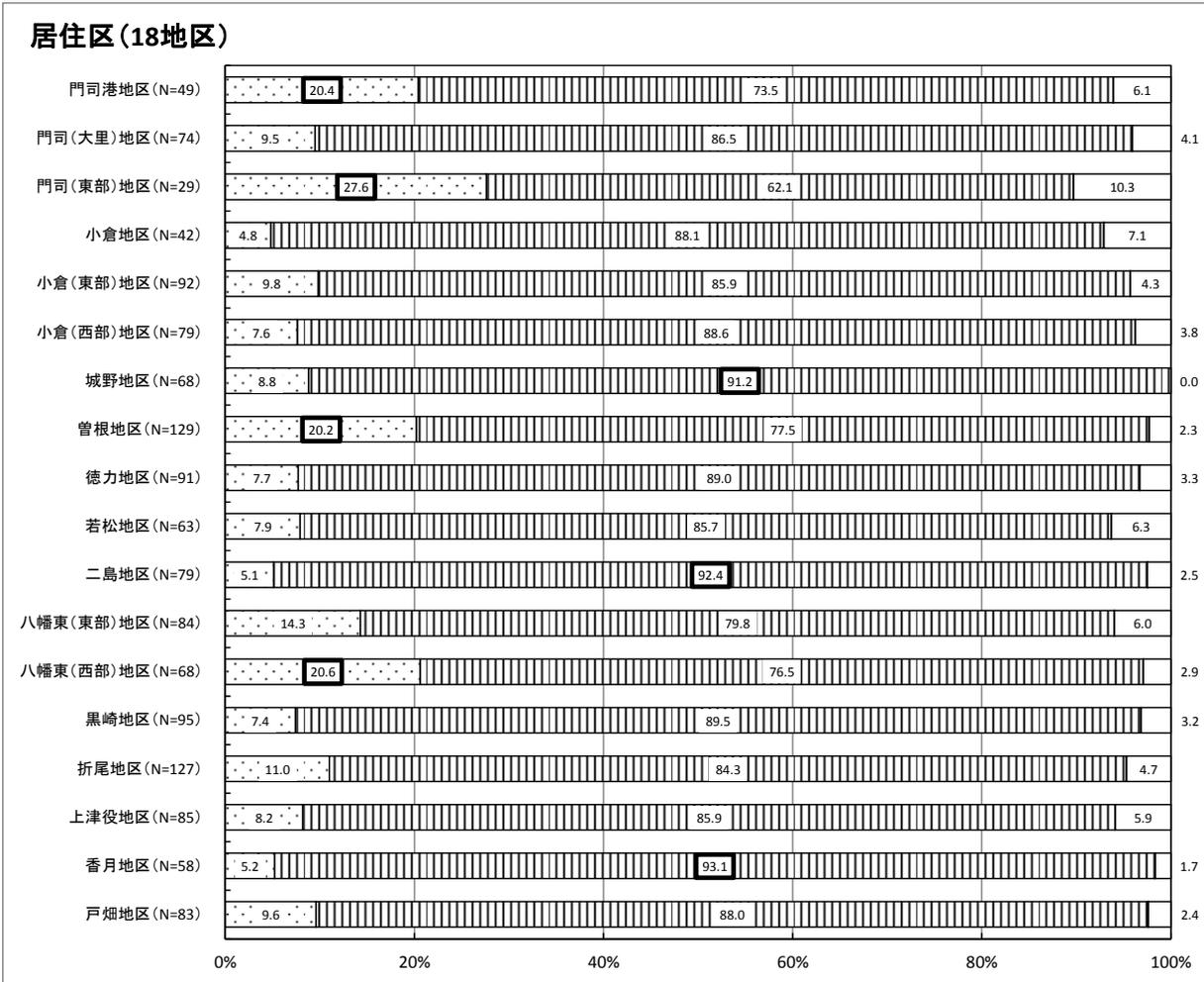
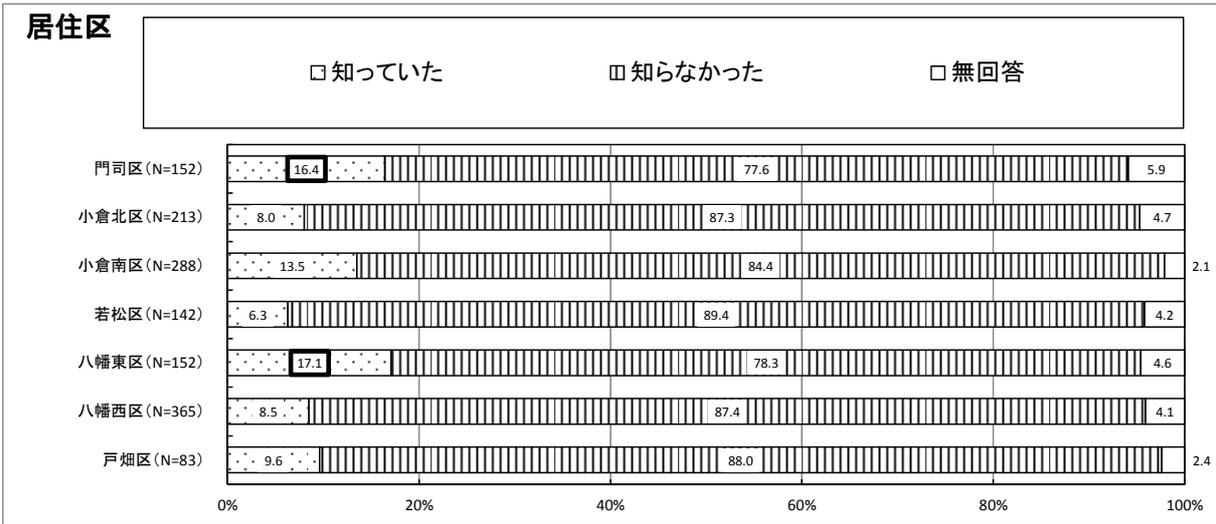
◇ 8割強の市民が、「迷惑行為防止活動推進地区」を「知らなかった」。



問8 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度

【全体的傾向】

この設問では、「迷惑行為防止活動推進地区」について知っているかを尋ねてみた。結果は、「知らなかった」(84.9%)が8割強を占めた。

【属性別にみた傾向】

- ◇ 性別では、「知らなかった」が、男性（82.8%）・女性（86.8%）ともに8割を上回った。「知っていた」は、男性（13.5%）が女性（9.2%）を上回った。
- ◇ 年齢別では、「知っていた」が最も多かったのは70歳以上（15.4%）で、以後60歳代（13.8%）、50歳代（10.8%）、40歳代（7.3%）、30歳代（7.1%）、20歳代（3.7%）の順で続き、年齢が高い層ほど、認知度が高かった。
- ◇ 居住年数別では、「知っていた」は2年未満（20.0%）で最も多く、唯一2割を占めた。次いで10年未満（13.5%）、30年以上（12.3%）が続き、これらは1割を上回った。一方で3年未満では、「知っていた」と回答した人はなく、1年未満（4.2%）、5年未満（6.1%）、20年未満（8.8%）、30年未満（9.1%）の順で少なかった。
- ◇ 職業別では、「知っていた」は公務員・教員（22.6%）で最も多く、唯一2割を占めた。次いで無職（16.6%）、その他（16.2%）、自由業（13.3%）、主婦・主夫（パートなど）（12.3%）が続き、これらは1割を上回った。「知らなかった」は学生（100.0%）で最も多く、次いで、会社員（90.8%）が続いた。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「知っていた」は八幡東区（17.1%）で最も多く、次いで、門司区（16.4%）、小倉南区（13.5%）が続き、これら3区は1割を上回った。最も少なかったのは若松区（6.3%）で、最も多い八幡東区との差は10.8ポイント差と、区によって違いがみられた。

行政区を18地区に細分化して見ると、「知っていた」が最も多かったのは、門司（東部）地区（27.6%）で、次いで八幡東（西部）（20.6%）、門司港地区（20.4%）、曾根地区（20.2%）の順で続き、これらは2割を上回った。「知らなかった」は香月地区（93.1%）で最も多く、次いで、二島地区（92.4%）、城野地区（91.2%）と続き、これらの地区は9割を上回った。

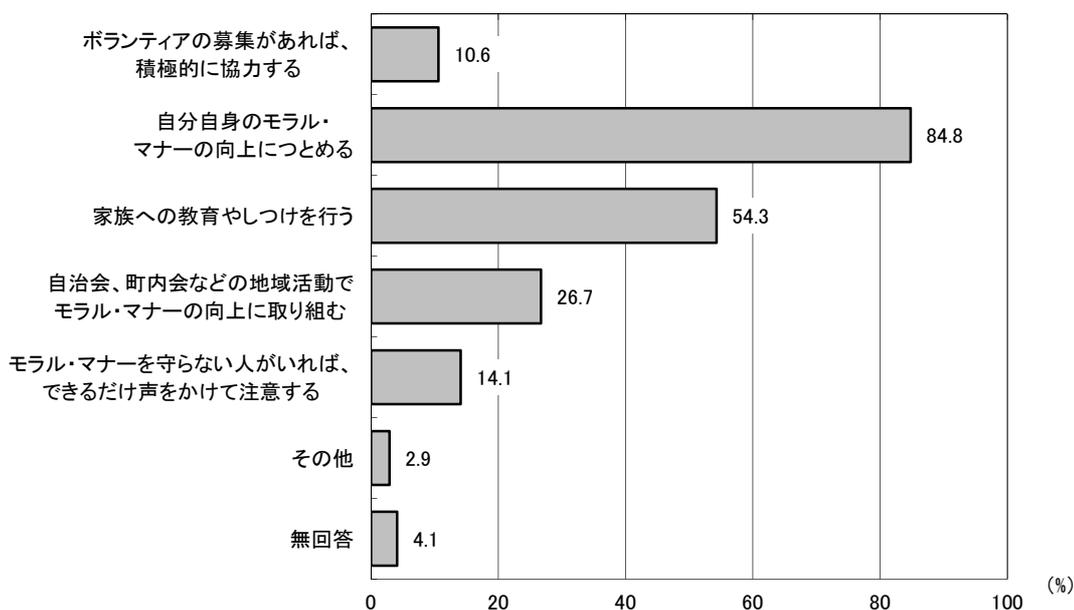
(9) 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組み

問9 モラル・マナーの向上のためには、さまざまな取り組みがあります。あなたなら、どのような取り組みへ参加や協力ができるとお考えですか。次の中からいくつでも選んでください。

N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 ボランティアの募集があれば、積極的に協力する	148	10.6
2 自分自身のモラル・マナーの向上につとめる	1,183	84.8
3 家族への教育やしつけを行う	758	54.3
4 自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む	373	26.7
5 モラル・マナーを守らない人がいれば、できるだけ声をかけて注意する	197	14.1
6 その他	40	2.9
無回答	57	4.1

◇ 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みは、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」が8割強で最多。



問9 あなたが参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みについて

		サンプル数	ボランティアの募集があれば、積極的に協力する	自分自身のモラル・マナーの向上につとめる	家族への教育やしつけを行う	自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む	モラル・マナーを知らない人がいれば、できるだけ声をかけて注意する	その他	無回答	
全体		1,395	10.6	84.8	54.3	26.7	14.1	2.9	4.1	
性別	男性	586	10.6	83.8	51.4	29.2	15.7	2.9	3.9	
	女性	801	10.7	85.8	56.7	25.2	13.0	2.7	4.0	
年齢別	20歳代	109	16.5	89.9	57.8	11.9	13.8	2.8	0.9	
	30歳代	183	7.1	90.2	69.9	17.5	8.2	3.3	2.7	
	40歳代	193	15.0	86.0	71.0	23.3	10.4	1.0	1.0	
	50歳代	241	11.2	86.3	55.6	27.8	10.0	3.7	3.3	
	60歳代	325	9.8	85.8	52.0	30.2	15.4	1.8	4.3	
	70歳以上	338	8.6	77.8	36.7	34.9	21.6	4.1	7.4	
居住年数別	1年未満	24	12.5	83.3	66.7	25.0	4.2	0.0	8.3	
	2年未満	20	5.0	85.0	80.0	5.0	0.0	5.0	0.0	
	3年未満	17	17.6	88.2	58.8	0.0	11.8	0.0	5.9	
	5年未満	49	10.2	89.8	59.2	18.4	4.1	2.0	2.0	
	10年未満	52	9.6	90.4	75.0	28.8	11.5	0.0	0.0	
	20年未満	160	10.6	85.6	58.8	23.8	15.0	3.8	4.4	
	30年未満	186	16.7	86.0	52.2	23.1	13.4	4.8	3.2	
	30年以上	881	9.4	84.0	51.6	29.6	15.6	2.6	4.2	
職業別	自営業	74	14.9	74.3	50.0	37.8	13.5	1.4	4.1	
	自由業	15	0.0	100.0	66.7	13.3	20.0	0.0	0.0	
	会社員	390	10.8	87.4	57.9	22.1	10.8	3.3	2.1	
	公務員・教員	53	9.4	90.6	77.4	30.2	7.5	1.9	0.0	
	農・林・漁業	5	0.0	80.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
	主婦・主夫(パートなど)	179	9.5	84.4	62.6	25.1	15.6	2.2	3.9	
	主婦・主夫(専業)	264	10.2	87.1	60.2	31.4	12.1	2.7	5.3	
	学生	24	25.0	91.7	54.2	8.3	12.5	0.0	0.0	
	無職	308	8.4	81.5	37.7	29.5	17.9	3.2	6.2	
	その他	74	17.6	82.4	50.0	23.0	23.0	4.1	2.7	
居住区別	行政区分	門司区	152	7.2	86.8	49.3	23.7	17.1	3.3	6.6
		小倉北区	213	12.2	84.5	48.8	27.2	12.2	5.2	5.2
		小倉南区	288	9.7	87.8	59.7	28.1	15.3	1.7	1.7
		若松区	142	7.7	81.0	57.7	30.3	12.0	3.5	3.5
		八幡東区	152	10.5	80.9	47.4	28.3	17.1	2.6	5.3
		八幡西区	365	12.3	84.9	57.8	25.5	13.7	2.7	4.1
		戸畑区	83	13.3	84.3	50.6	22.9	9.6	0.0	3.6
		居住区別(18地区別)	門司区	門司港地区	49	6.1	85.7	49.0	30.6	14.3
門司(大里)地区	74			8.1	89.2	52.7	20.3	17.6	2.7	4.1
門司(東部)地区	29			6.9	82.8	41.4	20.7	20.7	6.9	13.8
小倉北区	小倉地区		42	4.8	88.1	47.6	26.2	9.5	0.0	7.1
	小倉(東部)地区		92	17.4	81.5	47.8	27.2	13.0	8.7	5.4
	小倉(西部)地区		79	10.1	86.1	50.6	27.8	12.7	3.8	3.8
小倉南区	城野地区		68	4.4	88.2	58.8	25.0	17.6	2.9	1.5
	菅根地区		129	7.8	90.7	62.0	29.5	13.2	0.8	1.6
	徳力地区		91	16.5	83.5	57.1	28.6	16.5	2.2	2.2
若松区	若松地区		63	4.8	79.4	50.8	27.0	12.7	3.2	4.8
	二島地区		79	10.1	82.3	63.3	32.9	11.4	3.8	2.5
八幡東区	八幡東(東部)地区		84	7.1	82.1	50.0	32.1	16.7	1.2	4.8
	八幡東(西部)地区		68	14.7	79.4	44.1	23.5	17.6	4.4	5.9
八幡西区	黒崎地区		95	10.5	86.3	68.4	26.3	7.4	2.1	2.1
	折尾地区		127	15.0	85.0	58.3	25.2	13.4	3.9	4.7
	上津役地区		85	9.4	84.7	49.4	22.4	16.5	2.4	5.9
戸畑区	戸畑地区		58	13.8	82.8	51.7	29.3	20.7	1.7	3.4
戸畑区	戸畑地区		83	13.3	84.3	50.6	22.9	9.6	0.0	3.6

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組み

【全体的傾向】

この設問では、モラル・マナーの向上のために参加や協力ができる取り組みについて尋ねてみた。

その結果、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」(84.8%)が最も多く、8割強であった。次いで「家族への教育やしつけを行う」(54.3%)、「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」(26.7%)の順となった。

なお、「その他」(40人)には、以下の取り組みが寄せられた。

- 他人に注意して、逆ギレされた事がある。
- 自主的にボランティアをする。
- 守れていない状況を通報する。
- 学校と家庭の協調・協力
- 企業内教育

【属性別にみた傾向】

◇ 性別では、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は女性(85.8%)が男性(83.8%)をわずかに上回った。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」も、女性(56.7%)が男性(51.4%)を上回った。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は男性(29.2%)が女性(25.2%)を上回った。なお、全ての選択肢で男女の差が5.3ポイント未満になっており、性別による大きな差は見られなかった。

◇ 年齢別では、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、30歳代(90.2%)で最も多く、次いで20歳代(89.9%)、50歳代(86.3%)と続き、若年層でやや多い傾向がみられた。最も少ないのは70歳以上(77.8%)で、唯一8割を下回った。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」は、40歳代(71.0%)で最も多く、次いで、30歳代(69.9%)、20歳代(57.8%)と続き、子どもを持つ世代を中心に多い傾向にあった。最も少ないのは70歳以上(36.7%)で唯一4割を下回った。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、70歳以上(34.9%)で最も多く、次いで60歳代(30.2%)が続き、20歳代(11.9%)が最も少なく、年齢層が高くなるにつれ割合が多くなる傾向がみられた。「モラル・マナーを守らない人がいれば、できるだけ声をかけて注意する」は、70歳以上(21.6%)が最も多く、「ボランティアの募集があれば、積極的に協力する」は、20歳代(16.5%)が最も多かった。

◇ 居住年数別では、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、10年未満(90.4%)で最も多く、1年未満(83.3%)で最も少なくなっており、その差は7.1ポイントと、居住年数による大きな差は見られなかった。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」は、2年未満(80.0%)が最も多く、次いで、10年未満(75.0%)と続き、これらの居住年数層は7割を上回った。最も少なかったのは、30年以上(51.6%)で、次いで30年未満(52.2%)、3年未満及び20年未満(58.8%)で続き、居住歴が長い層を中心に比較的少ないという結果となった。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、30年以上(29.6%)、10年未満(28.8%)で多く、3年未満では回答した人がいなかった。

◇ 職業別では、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、自由業(100.0%)が最も多く、次いで、学生(91.7%)、公務員・教員(90.6%)が続き、これらの職業層は9割

を上回った。最も少ない自営業（74.3%）でも、7割を上回った。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」は、公務員・教員（77.4%）が最も多く、次いで、自由業（66.7%）、主婦・主夫（パートなど）（62.6%）、主婦・主夫（専業）（60.2%）の順で続いた。最も少ないのは無職（37.7%）で、次いで少ない自営業及びその他（50.0%）との差は12.3ポイントと極端に少なかった。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、自営業（37.8%）で最も多く、主婦・主夫（専業）（31.4%）、公務員・教員（30.2%）が続いた。一方、学生（8.3%）は極端に少なく、1割を下回った。

- ◇ 居住区を行政区別に見ると、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、小倉南区（87.8%）で最も多く、次いで門司区（86.8%）、八幡西区（84.9%）が続いた。最も少ない八幡東区でも80.9%と、全ての区で8割を上回った。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」は、小倉南区（59.7%）で最も多く、次いで八幡西区（57.8%）、若松区（57.7%）が続いた。最も少なかったのは八幡東区（47.4%）で、最も多い小倉南区との差は12.3ポイントと、区による差が出ている。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、最も多い若松区（30.3%）と、最も少ない戸畑区（22.9%）との差は7.4ポイントと、区による大きな差は見られなかった。

行政区を18地区に細分化して見ると、総合1位の「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、最も多い曾根地区（90.7%）で9割を上回った。次いで、門司（大里）地区（89.2%）、城野地区（88.2%）、小倉地区（88.1%）が続いた。若松地区及び八幡東（西部）地区（79.4%）が最も少なく、この2地区は8割を下回った。総合2位の「家族への教育やしつけを行う」は、黒崎地区（68.4%）で最も多く、次いで、二島地区（63.3%）、曾根地区（62.0%）と続き、これらの地区は6割を上回った。総合3位の「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」は、二島地区（32.9%）が最も多く、次いで、八幡東（東部）地区（32.1%）、門司港地区（30.6%）と続き、これらの地区は3割を上回った。最も少なかったのは門司（大里）地区（20.3%）で、全ての地区で2割を上回った。

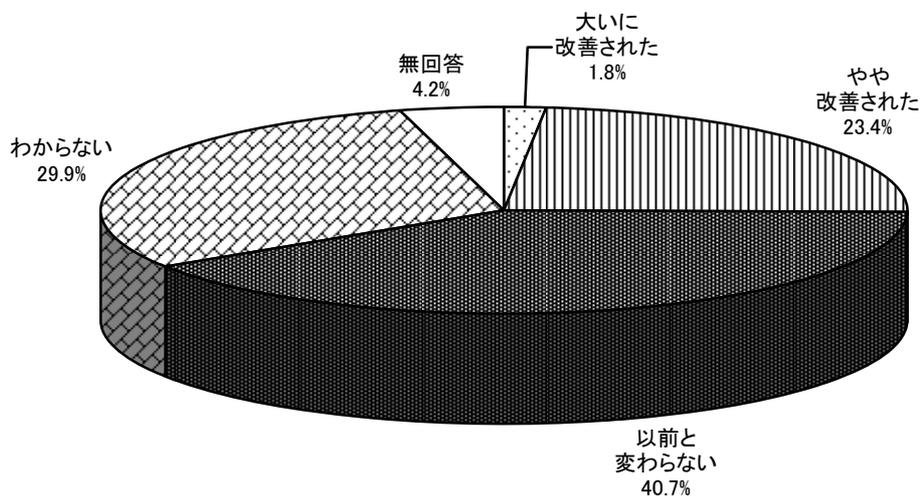
(10) 居住地域における迷惑行為の状況

問10 あなたのお住まいの地域における迷惑行為の状況は変わりましたか。次の中から1つだけ選んでください。

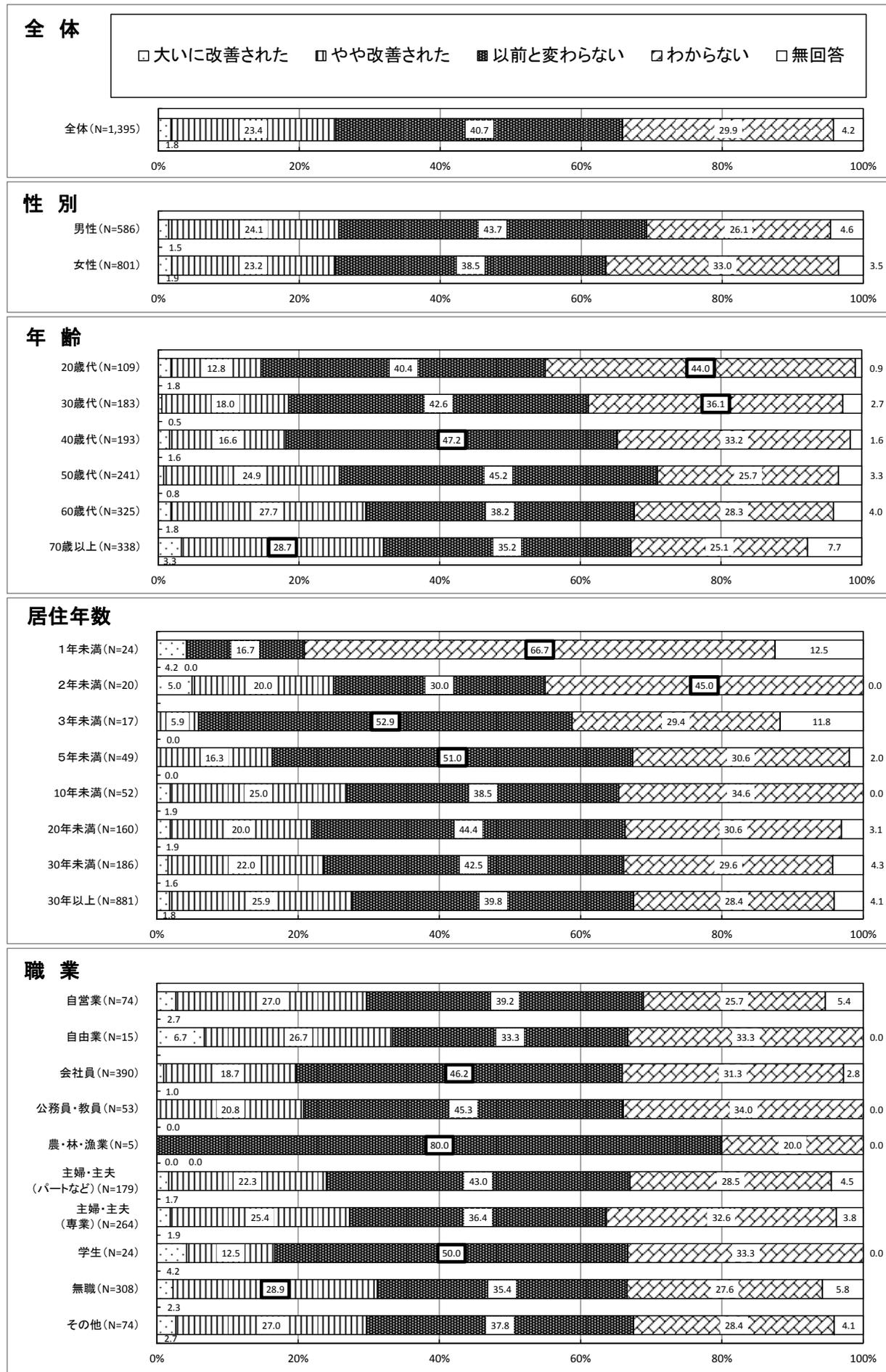
N : 1,395 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 大いに改善された	25	1.8
2 やや改善された	327	23.4
3 以前と変わらない	568	40.7
4 わからない	417	29.9
無回答	58	4.2

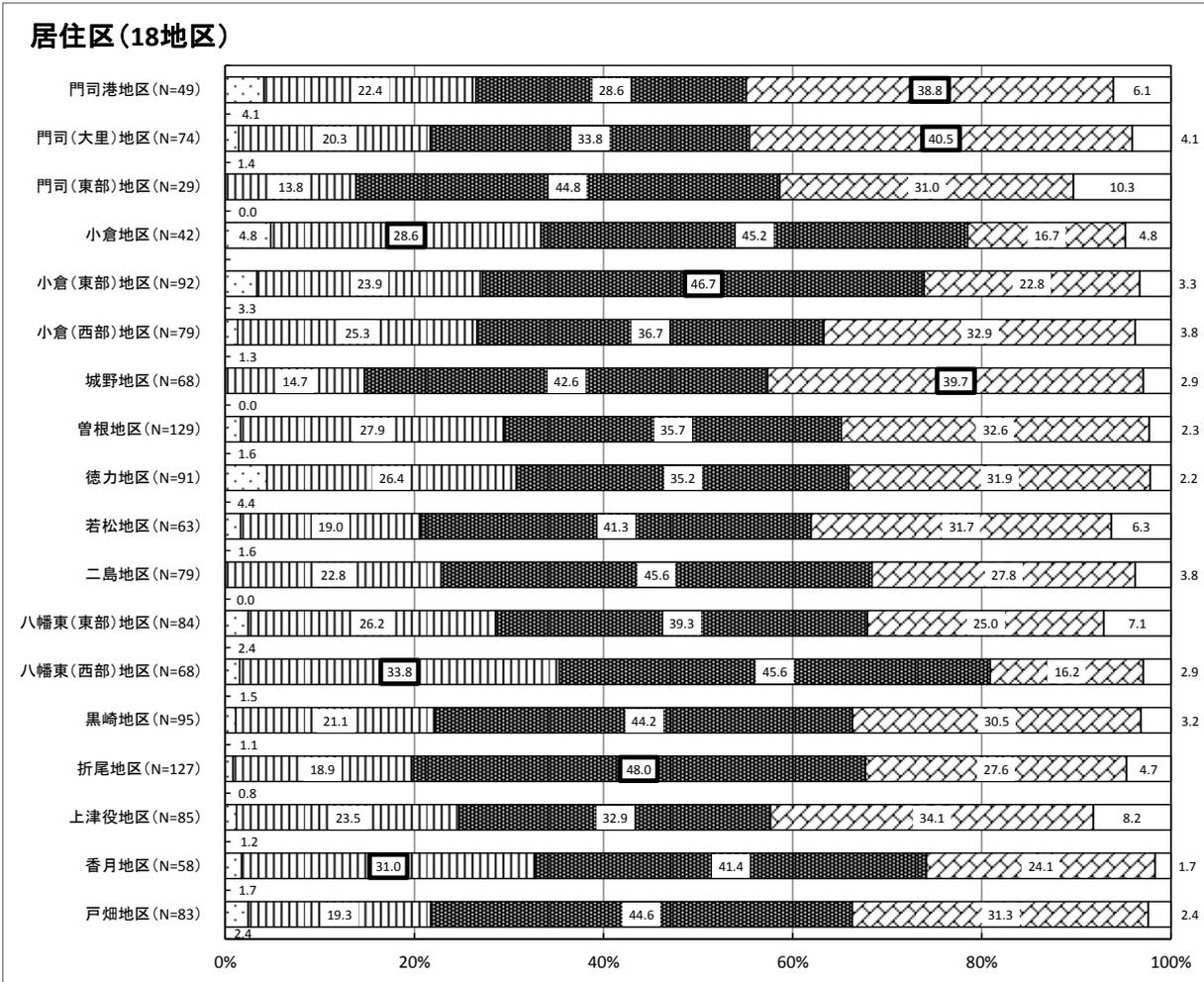
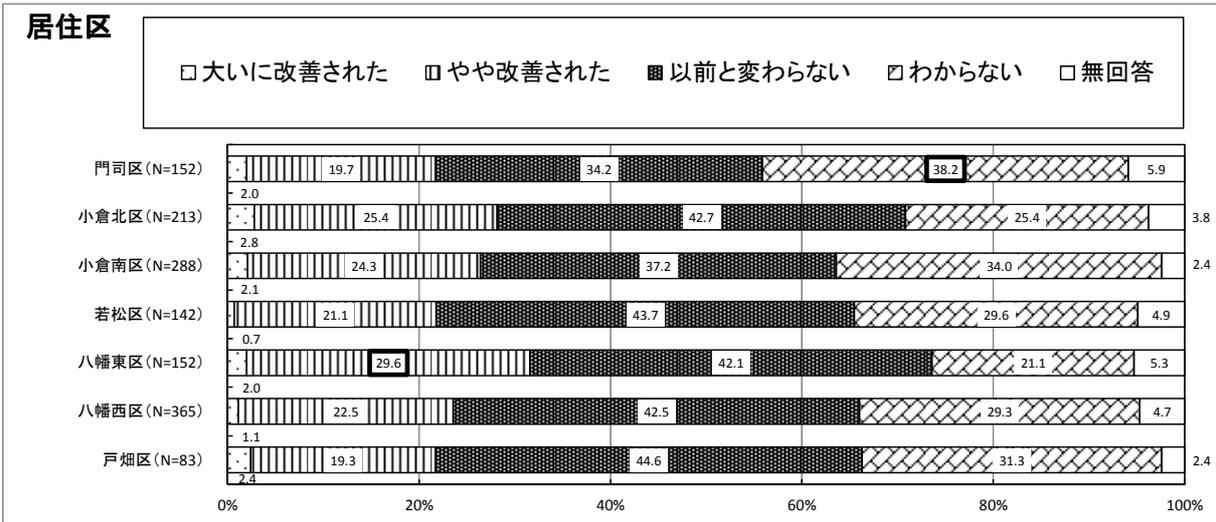
◇ 迷惑行為の状況は「以前と変わらない」が約4割で最多。「大いに改善された」(1.8%)と「やや改善された」(23.4%)を合わせた『改善された』は25.2%で、3割弱。



問 10 居住地における迷惑行為の状況



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)



(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「無回答」は除く)

居住地域における迷惑行為の状況

【全体的傾向】

次に、お住まいの地域における迷惑行為の状況について尋ねてみた。

その結果、「以前と変わらない」(40.7%)が最も多く、約4割を占めた。次いで「わからない」(29.9%)、「やや改善された」(23.4%)となっている。「大いに改善された」(1.8%)と「やや改善された」(23.4%)を合わせた『改善された』は25.2%で、3割弱を占めた。

【 属 性 別 に み た 傾 向 】

- ◇ 性別では、男女とも「以前と変わらない」が最も多く、男性（43.7%）が女性（38.5%）を上回った。次に多かったのは、男女とも「わからない」で、こちらは女性（33.0%）が男性（26.1%）を上回った。『改善された』は、男性（25.6%）と女性（25.1%）で大きな差は見られなかった。
- ◇ 年齢別では、20歳代以外の全ての年齢層で「以前と変わらない」が最も多く、その割合は40歳代（47.2%）が最も多く、50歳代（45.2%）、30歳代（42.6%）、20歳代（40.4%）は4割を上回った。20歳代のみ「わからない」が44.0%で「以前と変わらない」を上回った。『改善された』は、70歳以上（32.0%）、60歳代（29.5%）、50歳代（25.7%）、30歳代（18.5%）、40歳代（18.2%）、20歳代（14.6%）の順で多く、概ね年齢層が高い順に『改善された』と感じている。
- ◇ 居住年数別では、ほとんどの年数層で「以前と変わらない」が最も多く、特に3年未満（52.9%）、5年未満（51.0%）は5割を上回った。次いで20年未満（44.4%）、30年未満（42.5%）が続き、これらは4割を上回った。「わからない」は、1年未満（66.7%）で特に多く、2年未満（45.0%）との差は21.7ポイントと、突出している。『改善された』は、30年以上（27.7%）で最も多く、次いで10年未満（26.9%）、2年未満（25.0%）、30年未満（23.6%）、20年未満（21.9%）と続いた。一方、1年未満（4.2%）と3年未満（5.9%）は特に少なく、1割に満たなかった。
- ◇ 職業別では、「以前と変わらない」が最も多かったのは学生（50.0%）で、唯一5割となった。次いで、会社員（46.2%）、公務員・教員（45.3%）、主婦・主夫（パートなど）（43.0%）が続き、これらの職業層は4割を上回った。『改善された』は、自由業（33.4%）で最も多く、次いで、無職（31.2%）が続き、これらは3割を上回った。最も少ないのは学生（16.7%）で、次いで会社員（19.7%）が続き、これらの職業層は2割を下回った。
- ◇ 居住区を行政区別に見ると、「以前と変わらない」は戸畑区（44.6%）で最も多く、次いで、若松区（43.7%）、小倉北区（42.7%）の順で多かった。最も少なかったのは門司区（34.2%）であった。「わからない」は、門司区（38.2%）で最も多く、次いで、小倉南区（34.0%）が続き、ともに3割を上回った。『改善された』は八幡東区（31.6%）で最も多く、唯一3割を上回った。次いで、小倉北区（28.2%）、小倉南区（26.4%）、八幡西区（23.6%）の順で多かった。
行政区を18地区に細分化して見ると、「以前と変わらない」が最も多かったのは折尾地区（48.0%）で、次いで、小倉（東部）地区（46.7%）、二島地区及び八幡東（西部）地区（45.6%）と続く。「わからない」は、門司（大里）地区（40.5%）が最も多く、次いで、城野地区（39.7%）、門司港地区（38.8%）と続き、行政区の門司港地区でやや多く見られた。『改善された』は八幡東（西部）地区（35.3%）、小倉地区（33.4%）、香月地区（32.7%）、徳力地区（30.8%）で多く、これらは3割を上回った。少なかったのは、門司（東部）地区（13.8%）、城野地区（14.7%）、折尾地区（19.7%）でこれらは2割を下回った。

3 まとめ

本調査報告書の冒頭部分「調査の目的」で触れているが、本市では、迷惑行為の防止に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくため、「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例（基本条例）」を平成20年4月より施行している。また、同条例に基づき、「北九州市迷惑行為防止基本計画」を策定するなど、モラル・マナーアップを通じ、環境首都にふさわしい、迷惑行為のない、思いやりと優しさにあふれたまち・北九州市の実現を目指す取り組みを行っている。

そこで、平成25年度の市民意識調査では「市民のモラル・マナーについて」をテーマとし、更なるモラル・マナーアップ推進に向けた課題を把握し、今後の市政運営の参考とするために本調査を実施した。

調査結果の具体的な内容、詳細についてはすでに指摘したとおりであるが、最後にここで調査結果の簡単な要約を行い本調査の報告を終わることとする。

1. 公共の場での市民のモラル・マナーについて

- 「北九州市迷惑行為のない快適な生活環境の確保に関する条例（基本条例）」では、16項目の迷惑行為を具体的に示している。公共の場において、以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナーを、この16項目の中から回答してもらったところ、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が約7割（70.3%）で最も多かった。次いで、「飼い犬のふんを放置すること」（67.3%）、「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」（59.5%）、「迷惑駐車」（52.5%）の順で続き、これらの4項目は5割を上回った。居住区を行政区別で見ると、上位3位である「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」「飼い犬のふんを放置すること」「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」の3項目は、割合が最も多い区と最も少ない区のポイント差が全て9ポイント未満となっており、区による大きな差は見られなかった。これは逆に、これらの迷惑行為が北九州市全体の問題になっていることを示唆しているとも言えよう。なお、「その他」を回答した552人のうち、「携帯電話などを操作しながら歩行・運転する」を174人が挙げていた。前述の基本条例施行の後、携帯電話やスマートフォンの普及が進み、新たな迷惑行為が市民の間でクローズアップされていることも、本調査の結果として浮かんできたことと言える。
- 以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナーのうち、特に不快または危険と感じる項目を尋ねたところ、「飼い犬のふんを放置すること」が5割弱（45.6%）で最も多く、次いで、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が4割強（43.6%）、「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」が約4割（40.3%）の順で続き、これらの3項目は4割を上回った。居住区を行政区別で見たところ、上位3位のうち、総合2位の「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」は、最も多い戸畑区（49.4%）と最も少ない門司区（39.9%）との差は9.5ポイントと、区による大きな差は見られなかった。一方、総合1位の「飼い犬のふんを放置すること」は、戸畑区（50.6%）唯一5割を上回った。総合3位の「迷惑走行（危険な運転又は騒音行為）」は、最も多い八幡西区（43.8%）と若松区（31.9%）との差は11.9ポイントと、区によって傾向に違いが見られた。

2. 市民自身のモラル・マナーについて

- この1年間で北九州市民である回答者自身が迷惑行為をしたかを尋ねたところ、「まったく心当たりが『ない』」が7割強(72.3%)と、大勢を占めた。「正直言って『ある』」は19.8%と、ほぼ5人に1人がこの1年間に迷惑行為をしたことがあるとの結果になった。「正直言って『ある』」の回答者の属性を見ると、性別では、男性(27.6%)が女性(14.2%)より多い傾向にあった。年齢別では、20歳代が約3割(29.4%)で最も多く、60歳代(19.1%)や70歳以上(14.2%)の高年層は比較的少なかった。職業別では、年齢別を反映してか学生が4割弱(37.5%)で最も多く、続く会社員(26.9%)を10.6ポイント上回るなど、突出していた。なお、居住区を行政区別に見ると、最も多い小倉北区(23.9%)と最も少ない門司区(16.4%)の差は7.5ポイントと、区による大きな差は見られなかった。
- 1年間で迷惑行為をしたことが「正直言って『ある』」と回答した276人に、その内容を尋ねたところ、「迷惑駐車」が3割強(31.2%)で最も多く、次いで「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」が2割強(22.5%)、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」が2割弱(19.2%)の順となった。性別では、「迷惑駐車」「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」「公共の場所で喫煙をすること」で男性が女性を大きく上回り、たばこに関連するモラル・マナー違反は男性のほうが多い傾向にあった。一方、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」や「飼い犬のふんを放置すること」は女性が男性を上回るなど、性別で傾向に違いが見られた。職業別では、「迷惑駐車」は自営業で6割強(64.3%)と突出して多く、「公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること」と「点字ブロック上に車両を駐車させ、又は物を置くこと」も自営業が唯一1割を上回り、他の職業層に比べ自動車に関する内容での違反が比較的多い傾向が見られるなど、一部の職業で特有の傾向が見られた。
- 同じく、1年間で迷惑行為をしたことが「正直言って『ある』」と回答した276人に、その理由を16項目の迷惑行為別に尋ねてみたところ、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「公共の場所で喫煙をすること」(35.1%)が最も多く、唯一3割を上回った。「面倒だったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「家庭ごみのごみ出しルールを守らないこと」(52.8%)が最も多く、次いで、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(50.0%)と続き、この2項目は5割以上となった。「みんながしていたから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「公共の場所や他人の土地に自動車を放置すること」(27.8%)が最も多く、唯一2割を上回った。このように、迷惑行為の内容によって迷惑行為をした理由が異なる傾向にあり、理由に応じた対策を講じることが、モラル・マナーアップの向上に繋がるものと考えられる。なお、「罰金・罰則がなかったから」を選んだ割合が最も多かった迷惑行為は、「空き缶、たばこの吸殻等のごみのポイ捨て」(8.1%)が最も多かったが1割を下回った点は、モラル・マナーアップに向けた対策を考えるうえで興味深い結果となっている。
- 迷惑行為の内容で最も多かった「迷惑駐車」について詳細を見ると、「面倒だったから」が2割強(22.1%)で最も多く、「周りに迷惑をかけていると思わなかったから」が約2割(19.8%)で続いた。なお、「その他」(31.4%)が3割強になっており、本設問の選択肢以外の理由で迷惑駐車をしてしまう割合が高いことが推察される。

3. モラル・マナー向上に効果的な取り組みについて

- 市民のモラル・マナー向上に効果的な取り組みについて尋ねたところ、「学校教育や家庭でのしつけにより、社会のルールやマナーを身につけさせる」が約6割（59.1%）で最も多く、子どもの頃からモラル・マナーを身につけることを重視している傾向にあった。次いで「モラル・マナーは個人の問題なので、市民一人ひとりが自覚を高める」が約5割（49.2%）、「法律や条例などで罰金を科すなど、規制を強化する」が約4割（38.3%）の順になった。

4. 「モラル・マナーアップ関連条例」の認知度について

- 「モラル・マナーアップ関連条例」を知っているかについて尋ねたところ、「知らなかった」が約6割（60.5%）と過半数を占め、本条例の認知度を高める必要性を感じさせる結果となった。年齢別では、70歳以上（42.3%）や60歳代（40.3%）といった高年齢層での認知度が高かった。一方、最も少ない20歳代（19.3%）は、次いで少ない40歳代（32.1%）より極端に低く、若年層へのPRの必要性が浮き彫りになった。居住区を行政区別に見ると、「知っていた」が最も少なかったのは戸畑区（26.5%）で、唯一3割を下回っており、重点的なPRが有効と考えられる。

5. 「迷惑行為防止重点地区」の認知度と現状について

- 「迷惑行為防止重点地区」を知っているかを尋ねたところ、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が4割弱（36.2%）で最も多かった。なお、「全く知らなかった」が約3割（29.2%）で、「どちらも知っていた」は3割弱（27.7%）であった。居住区を行政区別に見ると、「小倉都心地区（JR小倉駅小倉城口前、商店街、勝山公園など）については知っていた」が多かったのは、地域柄、小倉北区（53.5%）が最も多く、「黒崎副都心地区については知っていた」も、地域柄、八幡西区（9.3%）が最も多かった。「どちらも知っていた」は、八幡東区（39.5%）が最も多く、次いで八幡西区（38.4%）が続き、これらの2区は3割を上回った。「まったく知らなかった」が最も多かったのは、若松区（39.4%）だった。
- 「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「小倉都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねたところ、「やや改善された」が3割弱（27.7%）で最も多く、「大いに改善された」と「やや改善された」を合わせた『改善された』は4割弱（38.5%）であった。
- 同様に、「迷惑行為防止重点地区」を1つでも知っている人に、「黒崎副都心地区」の迷惑行為の現状を尋ねたところ、「わからない」が3割弱（27.6%）で最も多く、『改善された』は2割弱（18.1%）にとどまった。

6. 居住地域における迷惑行為防止活動の有無について

- 居住地域において迷惑行為防止のための活動が行われているかを尋ねたところ、「わからない」が6割強（64.9%）で最も多く、迷惑行為防止活動を行っていても認識され

ていない可能性が高い結果となった。居住区を行政区別に見ると、すべての区で「わからない」が最も多く、特に若松区（72.5%）は唯一7割を上回った。最も少ない戸畑区（61.4%）でも、6割を上回った。なお、「行われている」は、八幡東区（14.5%）で最も多かった。

7. 「迷惑行為防止活動推進地区」の認知度について

- 「迷惑行為防止活動推進地区」について知っているかを尋ねたところ、「知らなかった」が8割強（84.9%）に上り、より一層のPRが必要であるとの結果になった。年齢別では、「知っていた」が70歳以上（15.4%）で最も多く、20歳代（3.7%）が最も低く、年齢が高い層ほど、認知度は高い傾向にあった。居住区を行政区別に見ると、「知っていた」は八幡東区（17.1%）で最も多く、最も少ない若松区（6.3%）との差は10.8ポイントと、区によって違いがみられた。

8. 参加可能なモラル・マナーの向上のための取り組みについて

- モラル・マナーの向上のために参加や協力ができる取り組みを尋ねたところ、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」が8割強（84.8%）で最も多かった。次いで「家族への教育やしつけを行う」（54.3%）、「自治会、町内会などの地域活動でモラル・マナーの向上に取り組む」（26.7%）の順となった。年齢別では、「自分自身のモラル・マナーの向上につとめる」は、30歳代（90.2%）で最も多く、20歳代（89.9%）と続き、若年層でやや多い傾向がみられた。「家族への教育やしつけを行う」は、40歳代（71.0%）で最も多く、次いで、30歳代（69.9%）、20歳代（57.8%）と続き、子どもを持つ世代を中心に多い傾向にあるなど、年齢層による違いが見られた。

9. 居住地域における迷惑行為の状況について

- 居住地域における迷惑行為の状況について尋ねたところ、「以前と変わらない」が約4割（40.7%）で最も多かった。次いで「わからない」が約3割（29.9%）で続いた。「大いに改善された」（1.8%）と「やや改善された」（23.4%）を合わせた『改善された』は25.2%で、3割弱を占めた。年齢別では、20歳代以外の全ての年齢層で「以前と変わらない」が最も多かった。20歳代のみ「わからない」が4割強（44.0%）で最も多かった。『改善された』は、70歳以上（32.0%）で最も多く、20歳代（14.6%）で最も少なくなっており、概ね年齢層が高い順に『改善された』と感じていることが判った。居住区を行政区別に見ると、「以前と変わらない」は戸畑区が4割強（44.6%）で最も多く、「わからない」は門司区が4割弱（38.2%）で最も多かった。『改善された』は八幡東区（31.6%）で最も多く、唯一3割を上回った。

以上、今回調査の要約としてエッセンスをまとめてみた。

今回の調査では、アンケートを通して、「以前と比べ低下していると感じる市民のモラルやマナー」「自身が迷惑行為をした場合の理由」といったモラル・マナーに関する北九州市の現状と、「モラル・マナーアップ関連条例」「迷惑行為防止活動推進地区」など市の施策の認知度状況について

を知ることができた。この調査結果を活用し、更なるモラル・マナーアップに向けた施策推進を図っていきたい。